

當り勅任セラレタル者ハ其ノ會員タルノ間七箇年ノ任期ヲ以テ議員タルヘシ其ノ選舉ニ關ル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 滿三十歳以上ノ男子ニシテ北海道各府縣ニ於テ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者百人ノ中ヨリ一人又ハ二百人ノ中ヨリ二人ヲ互選シ其ノ選ニ當リ勅任セラレタル者ハ七箇年ノ任期ヲ以テ議員タルヘシ其ノ選舉ニ關ル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

前項議員ノ總數ハ六十六人以内トシ其ノ北海道各府縣ニ於ケル定數ハ通常選舉毎ニ人口ニ應シ勅命ヲ以テ之ヲ指定ス

第七條 (削除)

第八條 貴族院ハ天皇ノ諮詢ニ應ヘ華族ノ特權ニ關ル條規ヲ議決ス

第九條 貴族院ハ其ノ議員ノ資格及選舉ニ關ル爭訟ヲ判決ス其ノ判決ニ關ル規則ハ貴族院ニ於テ之ヲ議定シ上奏シテ裁可ヲ請フヘシ

第十條 議員ニシテ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ確定シタル者アルトキハ勅命ヲ以テ之ヲ除名スヘシ

貴族院ニ於テ懲罰ニ由リ除名スヘキ者ハ議長ヨリ上奏シテ勅裁ヲ請フヘシ

除名セラレタル議員ハ更ニ勅許アルニ非サレハ再ヒ議員トナルコトヲ得ス

第十一條 議長副議長ハ議員中ヨリ七箇年ノ任期ヲ以テ勅任セラルヘシ被選議員ニシテ議長又ハ副議長ノ任命ヲ受ケタルトキハ議員ノ任期間其ノ職ニ就クヘシ

第十二條 此ノ勅令ニ定ムルモノ、外ハ總テ議院法ノ條規ニ依ル

第十三條 將來此ノ勅令ノ條項ヲ改正シ又ハ増補スルトキハ貴族院ノ議決ヲ經ヘシ

附 則(大正一四年勅令第一七四號追加)

本令中第四條ノ改正規定竝第一條第六號及第六條ノ改正規定ハ各大正十四年ニ於テ行フ通常選舉ヨリ之ヲ施行シ其ノ他ノ改正規定ハ其ノ最初ニ行フ通常選舉ノ期日ヨリ之ヲ施行ス

第三條ノ改正規定施行ノ際現ニ第一條第二號ノ規定ニ依リ議員タル者ハ第三條第一項ノ改正規定ニ拘ラス議員タルヘシ

從前ノ第一條第五號ノ規定ニ依リ勅任セラレタル議員ニシテ大正十四年ニ於テ任期終了スヘキ者ノ任期ハ仍從前ノ規定ニ依ル其ノ任期ノ終了カ同年ニ於テ行フ同條第六號ノ改正規定ニ依ル議員ノ通常選舉ノ期日ヨリ前ナル場合ニ於テハ其ノ期日ノ前日迄任期ヲ延長ス



○貴族院伯子男爵議員選舉規則(明治二十二年勅令第七十八號)

第一條 伯子男爵ヲ有スル成年以上ノ者ハ各々其ノ同爵者ノ貴族院議員ヲ選舉ス

第二條 神官及諸宗ノ僧侶又ハ教師ハ被選人タルコトヲ得ス

第三條 左ノ項ノ一ニ觸ル、者ハ選舉人及被選人タルコトヲ得ス

一 瘋癲白癡ノ者

二 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ義務ヲ免レサル者

第四條 刑事ノ訴ヲ受ケ拘留又ハ保釋中ニ在ル者ハ其ノ裁判確定ニ至ルマテ選舉權ヲ行フコト

ヲ得ス及被選人タルコトヲ得ス

第五條 貴族院令第四條ニ依リ選ハルヘキ議員ノ數ハ選舉ヲ行フノ前勅命ヲ以テ之ヲ指定スヘシ

シ

第六條 爵位局長官ハ選舉ノ期日ヨリ五十日前ニ選舉資格ヲ有スル伯子男爵ノ人名簿ヲ各別ニ

調製シ選舉資格ヲ有スル同爵者ニ配付シ三十日前ニ之ヲ確定シテ各選舉管理者ニ交付スヘシ

確定期日ノ前ニ於テ新ニ資格ヲ得及回復シタル者アルトキハ之ヲ名簿ニ記入スヘシ

第七條 選舉ハ伯子男爵ノ選舉資格ヲ有スル者ヨリ各々一人ノ選舉管理者ヲ互選シテ之ヲ管理セシム

選舉管理者ハ貴族院令第四條ニ依リ議員ノ更任アル毎ニ之ヲ改選スヘシ

選舉管理者ハ選舉及被選ノ權ヲ妨ケラル、コトナシ

第八條 各選舉管理者ハ選舉人ノ中ヨリ各々其ノ同爵ノ選舉立會人三人以上ヲ指定シテ選舉會場ニ參會セシムヘシ

第九條 選舉ハ七月十日東京ニ於テ之ヲ行フ

第十條 選舉人ハ自ラ選舉會場ニ至リ投票スヘシ

投票ハ被選人ノ爵姓名ヲ列記シ次ニ自己ノ爵姓名ヲ記載スヘシ

第十一條 選舉人東京府ノ外ニ居住シ又ハ疾病事故ニ因リ選舉會場ニ至ルコト能ハサルトキハ

同爵中ノ他ノ選舉人ニ投票ヲ委託スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ投票ヲ封緘シ其ノ表面ニ記名捺印シ委託ノ證狀ト共ニ委託ヲ受クル者ニ

送付スヘシ

第十二條 投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス

貴族院伯子男爵議員選舉規則



投票同數ナルトキハ生年月ノ長者ヲ以テ當選人トス 同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十三條 前數條ニ掲ケタル者ノ外選舉ニ關ル一切ノ規程ハ選舉資格ヲ有スル 伯子男爵ノ協議ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十四條 當選人確定シタルトキハ選舉管理者ハ其ノ爵姓名ヲ上奏シ併セテ貴族院議長ニ報告スヘシ

第十五條 選舉管理者ハ選舉明細書ヲ作り選舉ニ關ル一切ノ事項ヲ記載シ立會人ト共ニ署名捺印シ其ノ副本ヲ貴族院ニ送致スヘシ

第十六條 議員ニ關員ヲ生シタルトキハ議長ヨリ之ヲ上奏シ勅旨ヲ以テ補闕選舉ヲ行フヘキコトヲ命シ及其ノ期日ヲ指定スヘシ

補闕選舉ヲ行フノ手續ハ通常選舉ノ例ニ同シ

第十七條 補闕議員ノ任期ハ前議員ノ任期ニ依ル

第十八條 貴族院令第九條ニ依リ貴族院ニ出訴スルノ期限ハ貴族院開會ノ後十日以内トス

第十九條 選舉ニ關ル費用ハ同爵者ノ支辨タルヘシ

### ○貴族院帝國學士院會員議員互選規則(大正十四年勅令第二百三十三號)

第一條 貴族院令第五條ノ二ノ規定ニ依ル選舉ハ帝國學士院規程ニ定メタル各部ニ於テ各二人ヲ互選スルモノトス

第二條 貴族院令第五條ノ二ノ規定ニ依ル互選資格ヲ有スル者ハ選舉ノ期日ノ三十日前ヨリ其ノ日迄引續キ帝國學士院會員タル者タルヘシ

第三條 選舉ニ關スル事項ハ内閣總理大臣之ヲ管理ス

第四條 選舉ハ九月二十日東京ニ於テ之ヲ行フ

第五條 選舉ハ投票ニ依リ之ヲ行フ  
投票ハ一人一票ニ限ル

第六條 帝國學士院長ハ選舉管理者ト爲リ選舉ニ關スル事務ヲ擔任ス

第七條 帝國學士院長ハ選舉會場及投票ノ時間ヲ定メ選舉ノ期日ヨリ少クトモ二十日前ニ官報ヲ以テ之ヲ告示シ且各互選人ニ其ノ通知書ヲ發スヘシ

第八條 互選人ハ選舉會場ニ於テ選舉管理者ノ交付シタル投票用紙ニ其ノ選舉ニ於ケル議員ノ

### 貴族院帝國學士院會員議員互選規則



定數以下ノ被選舉人ノ氏名ヲ自ラ記載シテ投函スヘシ  
投票用紙ニハ選舉人ノ氏名ヲ記載スルコトヲ得ス

第九條 互選人東京府ノ外ニ居住スルニ因リ又ハ公務若ハ疾病傷痍ニ因リ選舉ノ當日選舉會場  
ニ到ルコト能ハサルトキハ郵便ニ依リ投票ヲ爲スコトヲ得

第十條 前條ノ規定ニ依リ投票ヲ爲サムトスル者ハ選舉ノ期日ヨリ少クトモ十日前ニ選舉管理  
者ニ理由ヲ具ヘテ其ノ旨ノ届出ヲ爲スヘシ但シ正當ノ理由ニ因リ當該期間内ニ届出ヲ爲スコ  
トヲ得サル場合ニ於テハ選舉ノ期日ノ前日迄ニ届出ヲ爲スコトヲ得

前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ選舉管理者ハ直ニ投票用紙及投票用封筒ヲ當該互選人ニ送付ス  
ヘシ

第十一條 前條ノ規定ニ依ル送付ヲ受ケタル互選人ハ投票用紙ニ其ノ選舉ニ於ケル議員ノ定數  
以下ノ被選舉人ノ氏名ヲ自ラ記載シ之ヲ投票用封筒ニ入レ封緘シ更ニ之ヲ他ノ封筒ニ入レ封  
緘シ其ノ表面ニ署名捺印シ且投票在中ノ旨ヲ明記シ投票ノ時間ヲ終了スル時迄ニ到達スル様  
書留郵便ヲ以テ選舉管理者ニ之ヲ送付スヘシ

投票用紙及投票用封筒ニハ選舉人ノ氏名ヲ記載スルコトヲ得ス

第十二條 選舉管理者ハ前三條ノ規定ニ依ル郵便投票ヲ受領シタルトキハ選舉會場ニ於テ投票  
ノ時間内ニ互選人ノ面前ニ於テ外部ノ封筒ヲ開披シテ投票用封筒ヲ投函スヘシ

第十三條 天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ因リ投票ヲ行フコトヲ得サルトキ又ハ更ニ投票ヲ  
行フノ必要アルトキハ帝國學士院長ハ選舉ノ期日、選舉會場及投票ノ時間ヲ定メ選舉ノ期日ヨ  
リ少クトモ二十日前ニ官報ヲ以テ之ヲ告示シ且各互選人ニ其ノ通知書ヲ發シ更ニ投票ヲ行ハ  
シムヘシ

第十四條 投票終ルノ後選舉管理者ハ互選人ノ面前ニ於テ投票ヲ點檢スヘシ此ノ場合ニ於テ投  
票用封筒ニ入レタル投票アルトキハ其ノ封筒ヲ開披シタル上總テノ投票ヲ混同シタル後點檢  
スヘシ

第十五條 投票ノ拒否及效力ハ選舉管理者之ヲ決定ス

第十六條 左ノ投票ハ之ヲ無効トス

- 一 成規ノ用紙ヲ用ヒサルモノ
- 二 互選人ニ非サル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
- 三 一投票中其ノ選舉ニ於ケル議員ノ定數ヲ超過スル被選舉人ノ氏名ヲ記載シタルモノ



四 被選舉人ノ氏名ノ外他事ヲ記載シタルモノ但シ官位、職業、身分、住居又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

五 被選舉人ノ氏名ヲ自書セサルモノ

六 被選舉人ノ何人タルカヲ確認シ難キモノ

七 貴族院帝國學士院會員議員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

前項第七號ノ規定ハ第二十四條又ハ第二十五條ノ規定ニ依ル選舉ノ場合ニ限り之ヲ適用ス

第一項第二號、第六號又ハ第七號ニ該當スル投票ハ連記投票ノ場合ニ於テハ其ノ該當ノ部分ノミヲ無効トス

第十七條 有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス但シ其ノ選舉ニ於ケル議員ノ定數ヲ

以テ總被選舉人ノ得票總數ヲ除シテ得タル數ノ四分ノ一以上ノ得票アルコトヲ要ス

當選人ヲ定ムルニ當リ得票數同シキトキハ年齡多キ者ヲ取り年齡モ亦同シキトキハ選舉會場

ニ於テ選舉管理者互選人ノ面前ニテ抽籤シテ之ヲ定ム

第十八條 第十四條ノ規定ニ依ル點檢ノ結果ハ其ノ場ニ於テ之ヲ告知スヘシ當選人ノ其ノ場ニ在ラサルトキハ尙直ニ當選ノ旨ヲ本人ニ告知スヘシ

第十九條 貴族院令第九條ノ規定ニ依ル選舉ニ關ル爭訟ノ結果更ニ選舉ヲ行フコトナクシテ當

選人ヲ定メ得ル場合ニ於テハ選舉管理者之ヲ定ムヘシ

當選人當選ヲ辭シタルトキ、死亡者ナルトキ又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ當選人闕クルニ至リタル

トキハ選舉管理者ハ直ニ第十七條第一項但書ノ得票者ニシテ當選人ト爲ラサリシ者ノ中ニ就

キ當選人ヲ定ムヘシ

前二項ノ場合ニ於テ選舉管理者ハ直ニ當選人ニ當選ノ旨ヲ告知スヘシ

第二十條 當選人當選ノ告知ヲ受ケタルトキハ其ノ當選ヲ承諾スルヤ否ヤヲ選舉管理者ニ届出

ツヘシ

當選人當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ前項ノ届出ヲ爲ササルトキハ其ノ當選ヲ辭

シタルモノト看做ス

第二十一條 當選人當選ヲ承諾シタルトキハ帝國學士院長ハ當選人ノ氏名ヲ内閣總理大臣ニ報

告スヘシ

第二十二條 選舉管理者ハ選舉錄ヲ作り選舉ニ關スル顛末ヲ記載シ署名シ且其ノ寫ヲ内閣總理

大臣ニ送付スヘシ



當選人議員ニ勅任セラレタルトキハ内閣總理大臣ハ選舉錄ノ寫ヲ貴族院議長ニ送付スヘシ

第二十三條 投票ハ有效無効ヲ區別シ郵便投票ニ用ヒタル封筒、選舉錄其ノ他ノ關係書類ト共ニ議員ノ任期間帝國學士院ニ於テ之ヲ保存スヘシ

第二十四條 當選人ナキトキ若ハ當選人其ノ選舉ニ於ケル議員ノ定數ニ達セサルトキ又ハ當選人ナキニ至リ若ハ當選人其ノ選舉ニ於ケル議員ノ定數ニ達セサルニ至リタル場合ニ於テ第九條ノ規定ニ依リ當選人ヲ定ムルコトヲ得サルトキハ帝國學士院長ハ選舉ノ期日、選舉會場及投票ノ時間ヲ定メ選舉ノ期日ヨリ少クトモ二十日前ニ官報ヲ以テ之ヲ告示シ且各互選人ニ其ノ通知書ヲ發シ更ニ選舉ヲ行ハシムヘシ

第二十五條 議員ニ闕員ヲ生シタルトキハ貴族院議長ヨリ其ノ旨ヲ上奏シ勅旨ヲ以テ補闕選舉ヲ行フヘキコトヲ命シ及其ノ期日ヲ指定スヘシ

第二十六條 前二條ノ選舉ヲ同時ニ行フ場合ニ於テハ一ノ選舉ヲ以テ合併シテ之ヲ行フ

第二十七條 補闕議員ハ其ノ前任者ノ殘任期間在任ス  
第二十八條 貴族院令第九條ノ規定ニ依リ貴族院ニ出訴スルノ期限ハ議院開會ノ後十日以内トス但シ開院中議員ニ勅任セラレタル場合ニ於テハ其ノ後十日以内ヲ以テ出訴ノ期限トス

前項ノ期限ニ滿タスシテ議院閉會セラレ出訴スルコト能ハサルトキハ尙次ノ會期ノ開會後十日以内ニ出訴スルコトヲ得

附則

本令ハ貴族院令第五條ノニノ規定ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○貴族院多額納稅者議員互選規則(大正十四年勅令第二百三十四號)

第一條 貴族院令第六條ノ規定ニ依リ互選資格ヲ有スル者ハ互選人名簿調製ノ期日迄引續キ一年以上北海道又ハ各府縣ニ於テ本籍ヲ定メ住居シ多額ノ直接國稅ヲ納メ仍引續キ住居シ及納稅スル者タルヘシ

家督相續ニ依リ財産ヲ取得シタル者ニ付テハ其ノ財産ニ付被相續人ノ爲シタル納稅ヲ以テ其ノ者ノ爲シタル納稅ト看做ス  
互選人ヲ定ムルニ當リ納稅額同シキトキハ年齡多キ者ヲ取り年齡モ亦同シキトキハ地方長官抽籤シテ之ヲ定ム

第二條 左ニ掲グル者ハ互選人タルコトヲ得ス

貴族院多額納稅者議員互選規則



一 禁治産者及準禁治産者  
二 破産者ニシテ復権ヲ得サル者

三 六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

四 刑法第二編第一章、第二章、第九章、第十六章乃至第二十一章、第二十五章又ハ第三十六章乃至第三十九章ニ掲タル罪ヲ犯シ六年未滿ノ懲役ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル後其ノ刑期ノ二倍ニ相當スル期間ヲ經過スルニ至ル迄ノ者  
但シ其ノ期間五年ヨリ短キトキハ五年トス

五 六年未滿ノ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ前號ニ掲タル罪以外ノ罪ヲ犯シ六年未滿ノ懲役ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者

第三條 陸海軍軍人ニシテ現役中ノ者（未タ入營セサル者及歸休下士官兵ヲ除ク）及戰時若ハ事變ニ際シ召集中ノ者ハ互選人タルコトヲ得ス 兵籍ニ編入セラレタル 學生生徒及志願ニ依リ國民軍ニ編入セラレタル者亦同シ

前項ノ規定ハ陸軍各部依託學生生徒、海軍軍醫學生藥劑學生主計學生造船學生造機學生造兵學生並海軍豫備生徒及海軍豫備練習生ニハ之ヲ適用セス

第四條 地方長官ハ選舉ヲ行フ年ノ六月一日ノ現在ニ依リ北海道又ハ各府縣ニ於テ互選資格ヲ有スル者ノ名簿ヲ調製スヘシ互選人名簿ニハ互選人ノ氏名、職業、本籍、住居、生年月日、土地或ハ工業商業ニ付納ムル直接國稅ノ細別及總額並納稅地等ヲ記載スヘシ

第五條 地方長官ハ七月二十日ヨリ十五日間北海道廳又ハ各府縣廳ニ於テ互選人名簿ヲ縱覽ニ供スヘシ

地方長官ハ互選人名簿ノ縱覽開始ノ後直ニ其ノ寫ヲ公布スヘシ

第六條 互選人名簿ニ脱漏又ハ誤載アリト認ムルトキハ互選人ハ理由書及證據ヲ具ヘ其ノ修正ヲ地方長官ニ申立ツルコトヲ得

縱覽期限ヲ經過シタルトキハ前項ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス

第七條 地方長官前條ノ申立ヲ受ケタルトキハ其ノ理由及證據ヲ審查シ申立ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ決定スヘシ其ノ申立ヲ正當ナリト決定シタルトキハ直ニ互選人名簿ヲ修正シ其ノ旨ヲ申立人及關係人ニ通知シ併セテ之ヲ告示スヘシ其ノ申立ヲ正當ナラスト決定シタルトキハ其ノ旨ヲ申立人ニ通知スヘシ

第八條 互選人名簿ハ八月三十一日ヲ以テ確定ス



天災事變其ノ他ノ事故ニ因リ必要アルトキハ更ニ互選人名簿ヲ調製スヘシ

前項互選人名簿ノ調製及其ノ期日、縦覽確定ニ關スル期日、期間等ハ内務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第九條 選舉ハ九月十日之ヲ行フ

第十條 選舉ハ投票ニ依リ之ヲ行フ

投票ハ一人一票ニ限ル

第十一條 地方長官ハ選舉長ト爲リ選舉會ニ關スル事務ヲ擔任ス

選舉會ハ北海道廳又ハ各府縣廳ニ之ヲ開ク

第十二條 地方長官特別ノ事情アリト認ムルトキハ投票ノ爲區劃ヲ定メテ選舉分會ヲ設クコトヲ得

選舉分會長ハ地方長官ニ於テ官吏又ハ吏員ノ中ニ就キ之ヲ命ス

選舉分會長ハ選舉分會ニ關スル事務ヲ擔任ス

第十三條 地方長官ハ選舉ノ期日ヨリ少クトモ七日前ニ投票ノ時間ヲ告示スヘシ選舉分會ヲ設

クル場合ニ於テハ併セテ其ノ區劃、選舉分會長及選舉分會場ヲ告示スヘシ

第十四條 選舉分會ヲ設ケタルトキハ地方長官ハ確定名簿ニ依リ分會ノ區劃毎ニ名簿記載ノ住

居ニ基キ名簿ノ副本ヲ調製シ選舉前之ヲ選舉分會長ニ送付スヘシ

第十五條 地方長官ハ互選人中ヨリ三人ノ選舉立會人ヲ選任シ直ニ之ヲ本人ニ通知シ選舉ニ立

會ハシムヘシ但シ選舉分會ヲ設ケタルトキハ各分會ニ付更ニ其ノ區劃内ニ於ケル互選人中ヨ

リ選舉立會人ヲ選任スヘシ

前項但書ノ場合ニ於テ互選人中ヨリ選舉立會人ヲ選任シ難キトキハ官吏又ハ吏員ノ中ニ就キ

之ヲ選任スヘシ

選舉立會人ニシテ參會スル者選舉會又ハ選舉分會ヲ開クヘキ時刻ニ至リ三人ニ達セサルトキ

又ハ其ノ後三人ニ達セサルニ至リタルトキハ選舉長又ハ選舉分會長ハ前二項ノ例ニ依リ三人

ニ達スル迄ノ選舉立會人ヲ選任シ選舉ニ立會ハシムヘシ

選舉立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ス

第十六條 互選人ハ選舉ノ當日自ラ選舉會場又ハ選舉分會場ニ到リ互選人名簿又ハ其ノ副本ノ

對照ヲ經選舉長又ハ選舉分會長ノ交付シタル投票用紙ニ自ラ被選舉人一人ノ氏名ヲ記載シテ

投函スヘシ

投票用紙ニハ選舉人ノ氏名ヲ記載スルコトヲ得ス



第十七條 互選人名簿ニ登録セラレサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス互選人名簿ニ登録セラレタル者互選人名簿ニ登録セララルコトヲ得サル者ナルトキ又ハ選舉ノ當日互選資格ヲ有セサル者ナルトキ亦同シ

第十八條 投票ノ拒否ハ選舉立會人ノ意見ヲ聽キ選舉長又ハ選舉分會長之ヲ決定スヘシ

前項選舉分會長ノ決定ヲ受ケタル互選人不服アルトキハ選舉分會長ハ假ニ投票ヲ爲サシムヘシ

前項ノ投票ハ互選人ヲシテ之ヲ封筒ニ入レ封緘シ表面ニ自ラ其ノ氏名ヲ記載シ投函セシムヘシ

第十九條 投票ノ時間ヲ經過シタルトキハ選舉長又ハ選舉分會長ハ選舉會場又ハ選舉分會場ニ在ル互選人ノ投票結了スルヲ待ツテ投票函ヲ閉鎖スヘシ

選舉分會ニ在リテハ選舉分會長ハ投票函閉鎖後遲滯ナク一人又ハ數人ノ選舉立會人ト共ニ投票函ヲ選舉長ニ送致スヘシ

第二十條 選舉分會ノ區劃カ島嶼其ノ他交通不便ノ地ニシテ開票ノ期日迄ニ投票函ヲ送致スルコト能ハサル情況アリト認ムルトキハ地方長官ハ適宜ニ其ノ投票ノ期日ヲ定メ開票ノ期日迄

ニ其ノ投票函ヲ送致セシムルコトヲ得

第二十一條 天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ因リ投票ヲ行フコトヲ得サルトキ又ハ更ニ投票ヲ行フノ必要アルトキハ地方長官ハ期日ヲ定メテ投票ヲ行ハシムヘシ但シ其ノ期日ハ少クト

モ五日前ニ之ヲ告示スヘシ

第二十二條 第三十八條又ハ第三十九條ノ選舉ヲ同時ニ行フ場合ニ於テハ一ノ選舉ヲ以テ合併シテ之ヲ行フ

第二十三條 選舉長又ハ選舉分會長ハ選舉會場又ハ選舉分會場ノ秩序ヲ保持シ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ請求スルコトヲ得

第二十四條 互選人、選舉會場又ハ選舉分會場ノ事務ニ從事スル者、選舉會場又ハ選舉分會場ヲ監視スル職權ヲ有スル者及警察官吏ニ非サレハ選舉會場又ハ選舉分會場ニ入ルコトヲ得ス

第二十五條 選舉會場又ハ選舉分會場ニ於テ演說討論ヲ爲シ若ハ喧騒ニ涉リ又ハ投票ニ關シ協議若ハ勸誘ヲ爲シ其ノ他選舉會場又ハ選舉分會場ノ秩序ヲ紊ル者アルトキハ選舉長又ハ選舉



分會長ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ會場外ニ退出セシムヘシ  
前項ノ規定ニ依リ會場外ニ退出セシメラレタル者ハ最後ニ至リ投票ヲ爲スコトヲ得但シ選舉  
長又ハ選舉分會長ハ選舉會場又ハ選舉分會場ノ秩序ヲ紊ルノ虞ナシト認ムル場合ニ於テ投票  
ヲ爲サシムルコトヲ妨ケス

第二十六條 選舉長ハ豫メ開票ノ日時ヲ告示スヘシ

第二十七條 選舉長ハ投票ノ當日(選舉分會ヲ設ケタルトキハ總テノ選舉分會ヨリ投票函ノ送致  
ヲ受ケタル日又ハ其ノ翌日)選舉會場ニ於テ選舉立會人立會ノ上投票ノ總數ト投票人ノ總數ト  
ヲ計算スヘシ

選舉分會ヲ設ケタル場合ニ於テ前項ノ計算終リタルトキハ選舉長ハ先ツ第十八條第二項及第  
四項ノ投票ヲ調査シ選舉立會人ノ意見ヲ聽キ其ノ受理如何ヲ決定スヘシ  
選舉長ハ前項ノ規定ニ依リ受理スヘキモノト決定シタル投票ノ封筒ヲ開披シタル上總テノ投  
票ヲ混同シ選舉立會人ト共ニ投票ヲ點檢スヘシ

第二十八條 互選人ハ選舉會場ニ就キ開票ノ參觀ヲ求ムルコトヲ得

第二十九條 投票ノ效力ハ選舉立會人ノ意見ヲ聽キ選舉長之ヲ決定スヘシ

第三十條 左ノ投票ハ之ヲ無効トス

- 一 成規ノ用紙ヲ用ヒサルモノ
  - 二 互選人ニ非サル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
  - 三 一投票中二人以上ヲ被選舉人ノ氏名ヲ記載シタルモノ
  - 四 被選舉人ノ氏名ノ外他事ヲ記載シタルモノ但シ官位、職業、身分、住居又ハ敬稱ノ類ヲ記入  
スルモノハ此ノ限ニ在ラス
  - 五 被選舉人ノ氏名ヲ自書セサルモノ
  - 六 被選舉人ノ何人タルカヲ確認シ難キモノ
  - 七 貴族院多額納稅者議員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
- 前項第七號ノ規定ハ第三十八條又ハ第三十九條ノ規定ニ依ル選舉ノ場合ニ限り之ヲ適用ス
- 第三十一條 有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス但シ議員ノ定數ヲ以テ有效投票ノ  
總數ヲ除シテ得タル數ノ四分ノ一以上ノ得票アルコトヲ要ス  
當選人ヲ定ムルニ當リ得票數同シキトキハ年齡多キ者ヲ取り年齡モ亦同シキトキハ選舉會ニ  
於テ選舉長抽籤シテ之ヲ定ム



貴族院令第九條ノ規定ニ依ル選舉ニ關ル爭訟ノ結果更ニ選舉ヲ行フコトナクシテ當選人ヲ定  
 ヲ得ル場合ニ於テハ選舉會ヲ開キ之ヲ定ムヘシ  
 當選人當選ヲ辭シタルトキ、死亡者ナルトキ又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ當選人闕クルニ至リタル  
 トキハ直ニ選舉會ヲ開キ第一項但書ノ得票者ニシテ當選人ト爲ラザリシ者ヲ中ニ就キ當選人  
 ヲ定ムヘシ  
 前二項ノ場合ニ於テ第一項但書ノ得票者ニシテ當選人ト爲ラザリシ者選舉ノ期日後ニ於テ互  
 選人タルコトヲ得サルニ至リタルトキハ之ヲ當選人ト定ムルコトヲ得ス  
 第三十二條 當選人選舉ノ期日後ニ於テ互選人タルコトヲ得サルニ至リタルトキハ當選ヲ失フ  
 第三十三條 第二十一條ノ規定ハ但書ヲ除キ開票ニ之ヲ準用ス  
 第三十四條 當選人定マリタルトキハ選舉長ハ直ニ當選人ニ當選ノ旨ヲ告知スヘシ  
 當選人前項ノ告知ヲ受ケタルトキハ其ノ當選ヲ承諾スルヤ否ヤヲ選舉長ニ届出ツヘシ  
 當選人第一項ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ前項ノ届出ヲ爲ササルトキハ其ノ當選ヲ  
 辭シタルモノト看做ス  
 第三十五條 當選人當選ヲ承諾シタルトキハ地方長官ハ當選人ノ氏名ヲ内務大臣ニ報告スヘシ

第三十六條 選舉長又ハ選舉分會長ハ選舉錄又ハ投票錄ヲ作り選舉ニ關スル顛末ヲ記載シ選舉  
 立會人ト共ニ署名スヘシ  
 選舉分會長ハ投票函ト同時ニ投票錄及互選人名簿ノ副本ヲ選舉長ニ送致スヘシ  
 選舉長ハ選舉錄及投票錄ノ寫ヲ内務大臣ニ送付スヘシ  
 當選人議員ニ勅任セラレタルトキハ内務大臣ハ選舉錄及投票錄ノ寫ヲ貴族院議長ニ送付スヘ  
 シ  
 第三十七條 投票ハ有效無効ヲ區別シ選舉錄、投票錄、互選人名簿及其ノ副本其ノ他ノ關係書類ト  
 共ニ議員ノ任期間選舉長ニ於テ之ヲ保存スヘシ  
 第三十八條 當選人ナキトキ若ハ當選人其ノ選舉ニ於ケル議員ノ定數ニ達セサルトキ又ハ當選  
 人ナキニ至リ若ハ當選人其ノ選舉ニ於ケル議員ノ定數ニ達セサルニ至リタル場合ニ於テ第三  
 十一條第三項乃至第五項ノ規定ニ依リ當選人ヲ定ムルコトヲ得サルトキハ地方長官ハ選舉ノ  
 期日ヲ定メ少クトモ七日前ニ之ヲ告示シ更ニ選舉ヲ行ハシムヘシ此ノ場合ニ於テハ最近ノ調  
 製ニ係ル互選人名簿ヲ用フヘシ  
 第三十九條 議員ニ闕員ヲ生シタルトキハ貴族院議長ヨリ其ノ旨ヲ上奏シ勅旨ヲ以テ補闕選舉



ヲ行フヘキコトヲ命スヘシ  
 前項ノ勅命アリタルトキハ地方長官ハ其ノ日ノ現在ニ依リ互選資格ヲ有スル者ノ名簿ヲ調製シ其ノ期日ヨリ起算シ五十日目ヨリ十五日間北海道廳又ハ各府縣廳ニ於テ之ヲ縦覽ニ供スヘシ  
 前項ノ互選人名簿ハ縦覽開始ノ日ヨリ四十日ヲ經過スルニ依リ確定ス  
 補闕選舉ハ互選人名簿確定ノ日ヨリ起算シ十日目ニ之ヲ行フヘシ  
 第四十條 補闕議員ハ其ノ前任者ノ殘任期間在任ス  
 第四十一條 貴族院令第九條ノ規定ニ依リ貴族院ニ出訴スルノ期限ハ議院開會ノ後十日以内トス但シ開院中議員ニ勅任セラレタル場合ニ於テハ其ノ後十日以内ヲ以テ出訴ノ期限トス  
 前項ノ期限ニ滿タスシテ議院閉會セラレ出訴スルコト能ハサルトキハ尙次ノ會期ノ開會後十日以内ニ出訴スルコトヲ得  
 第四十二條 選舉立會人ニハ内務大臣ノ定ムル所ニ依リ職務ノ爲要スル費用ヲ給スルコトヲ得  
 第四十三條 本令ノ選舉ニ關シテハ大正十四年法律第四十七號衆議院議員選舉法第百十一條乃至第百二十八條、第百三十七條、第百三十八條、第百四十八條及第百四十九條ノ規定ヲ準用ス  
 第四十四條 當選人其ノ選舉ニ關シ大正十四年法律第四十八號及前條ノ規定ニ依ル罪ヲ犯シ刑

ニ處セラレタルトキハ其ノ當選ヲ無効トス

附則

本令ハ大正十四年ニ於テ行フ通常選舉ヨリ之ヲ施行ス  
 明治二十七年勅令第五十七號及大正七年勅令第二十三號ハ之ヲ廢止ス

○貴族院多額納稅者議員ノ北海道各府縣ニ於ケ

ル定數指定ノ詔書(大正十四年六月十八日)

朕貴族院令第六條ノ規定ニ依リ貴族院多額納稅者議員ノ北海道各府縣ニ於ケル定數ヲ左ノ通指定ス

北海道	二人	長崎縣	一人	栃木縣	一人
東京府	二人	新潟縣	二人	奈良縣	一人
京都府	二人	埼玉縣	二人	三重縣	一人
大阪府	二人	群馬縣	一人	愛知縣	二人
神奈川縣	二人	千葉縣	二人	靜岡縣	二人
兵庫縣	二人	茨城縣	二人	山梨縣	一人

貴族院多額納稅者議員ノ北海道各府縣ニ於ケル定數指定ノ詔書 二〇五



滋賀縣	一人	石川縣	一人	愛媛縣	一人
岐阜縣	一人	富山縣	一人	高知縣	一人
長野縣	二人	鳥取縣	一人	福岡縣	二人
宮城縣	一人	島根縣	一人	大分縣	一人
福島縣	二人	岡山縣	二人	佐賀縣	一人
岩手縣	一人	廣島縣	二人	熊本縣	二人
青森縣	一人	山口縣	一人	熊谷縣	一人
山形縣	一人	和歌山縣	一人	鹿兒島縣	二人
秋田縣	一人	德島縣	一人	沖繩縣	一人
福井縣	一人	香川縣	一人		

○貴族院令第六條ノ議員選舉ニ付衆議院議員選舉

法中罰則ノ規定準用ニ關スル法律(大正十四年法律第四十八號)

貴族院令第六條ノ議員選舉ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ衆議院議員選舉法中罰則ノ規定ヲ準用ス

附則

本法ハ大正十四年ニ於テ行フ通常選舉ヨリ之ヲ施行ス  
 本法施行ノ際大正十四年ノ改正ニ係ル衆議院議員選舉法未タ施行サラレサル場合ニ於テハ本法ノ適用ニ付テハ同法ハ既ニ施行セラレタルモノト看做ス

○貴族院議員資格及選舉爭訟判決規則(大正十四年十二月二十八日裁可)

- 第一條 伯子男爵議員ノ各選舉人又ハ帝國學士院會員議員若ハ多額納稅者議員ノ各互選人選舉ニ關シ貴族院令第九條ノ規定ニ依リ出訴セムトスルトキハ當選議員ヲ被告トスヘシ
- 第二條 原告ハ訴狀及其ノ副本一通ヲ作り之ヲ議長ニ差出スヘシ  
 議長訴狀ヲ受取りタルトキハ之ヲ資格審査委員ニ付スヘシ
- 第三條 訴狀ニハ請求ノ要領、理由及立證ヲ具ヘ原告自ラ署名スヘシ
- 第四條 資格審査委員ハ訴狀ノ副本ヲ被告ニ送達シ期限ヲ定メ被告ヲシテ答辯書及其ノ副本一通ヲ差出サシメ其ノ副本ハ之ヲ原告ニ送達スヘシ  
 資格審査委員ハ必要ト認ムルトキハ原告及被告ヲシテ更ニ辯駁書及再答辯書ヲ差出サシムル

貴族院令第六條ノ議員選舉ニ付衆議院議員選舉法中罰則ノ規定準用ニ關スル法律、貴族院議員資格及選舉爭訟判決規則



コトヲ得

第五條 原告及被告ハ郵便ヲ以テ文書ヲ差出スコトヲ得郵便到達ノ日數ハ訴狀ヲ差出ス場合ニ限り期間ニ算入セス

第六條 資格審査委員ハ議長ヲ經由シテ議員ノ選舉ニ關ル證憑文書ヲ政府ニ要求スルコトヲ得

第七條 資格審査委員ハ答辯書ヲ受領シタル後ニ非サレハ審査ノ結果ヲ報告スルコトヲ得ス但シ被告期限内ニ答辯書ヲ差出ササル場合ニ於テ期限後二日ヲ經タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八條 天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ因リ期限内ニ答辯書ヲ差出スコト能ハサリシコトヲ證明スルトキハ資格審査委員ハ更ニ期限ヲ定メ之ヲ差出サシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テ更ニ定メタル期限内ニ答辯書ヲ差出ササルトキハ資格審査委員ハ直ニ審査ノ結果ヲ報告スルコトヲ得

第九條 資格審査委員其ノ審査報告ヲ議長ニ提出シタルトキハ議長之ヲ各議員ニ配付シタル後院議ニ付スヘシ

第十條 議院ニ於テ判決シタルトキハ議長ハ書記官長ヲシテ其ノ議事録ニ依リ議決ノ謄本ヲ作ラシメ之ヲ原告及被告ニ送達スヘシ

議院ノ判決ハ理由ヲ附セス

第十一條 議院ニ於テ議員ノ當選ヲ不法ト判決シタルトキハ議長ハ其ノ位列ヲ停止シテ上奏スヘシ

第十二條 被告議員ハ前條ノ判決ヲ受クル迄議院ニ於テ位列及發言ノ權ヲ失ハス但シ自己ニ關ル争訟ニ付テハ其ノ表決ニ與ルコトヲ得ス

被告議員ハ自己ニ關ル争訟ニ付テハ委員會ニ參スルコトヲ得ス

第十三條 貴族院令第九條ノ規定ニ依リ貴族院ニ出訴スルノ期限ハ議院開會ノ後十日以内トス但シ開院中當選確定シタル伯子男爵議員ヲ被告ト爲ス場合ニ於テハ當選確定シタル後十日以内開院中勅任セラレタル議員ヲ被告ト爲ス場合ニ於テハ勅任セラレタル後十日以内ヲ以テ出訴ノ期限トス

前項ノ期限ニ滿タスシテ議院閉會セラレ出訴スルコト能ハサルトキ又ハ未タ議院ノ判決ヲ受

ケスシテ議院閉會セラレタル場合ニ於テハ尙次ノ會期ノ開會後十日以内ニ出訴スルコトヲ得

第十四條 議員他ノ議員ノ資格ニ對シ異議ヲ申立ツル者アルトキハ其ノ審査及判決ニ關シテハ

第二條乃至第十二條ノ例ニ依ルヘシ



附則

從前ノ規則ニ依リテ爲シタル出訴其ノ他ノ行爲ハ本規則中之ニ相當スル規定ニ依リテ爲シタルモノト看做ス

○貴族院令第五條第三項ノ議決ニ關ル規則

(大正十五年一月四日裁可)

- 第一條 議員貴族院令第五條第三項ノ規定ニ依ル決議案ヲ發議セムトスルトキハ二十人以上ノ贊成者ト共ニ連署シテ決議案ヲ議長ニ提出スヘシ
- 決議案ニハ其ノ理由及立證ヲ具フルコトヲ要ス
- 第二條 前條ノ決議案ノ提出アリタルトキハ議長ハ資格審査委員ニ付シ之ヲ審査セシム
- 第三條 資格審査委員ハ決議案ノ寫本ヲ審査ヲ受クヘキ議員ニ送付シ且辯明書ヲ差出スコトヲ得ヘキ期限ヲ通知スヘシ
- 第四條 資格審査委員ハ發議者及審査ヲ受クヘキ議員ヲシテ審査ニ必要ナル證憑文書ヲ差出サシムルコトヲ得

第五條 審査ヲ受クヘキ議員期限内ニ辯明書ヲ差出ササルトキハ資格審査委員ハ直ニ審査ノ結果ヲ報告スルコトヲ得

第六條 審査ヲ受クヘキ議員ハ第三條ノ規定ニ依リ資格審査委員ノ定メタル期限後ト雖審査ノ終ル迄ハ辯明書ヲ差出スコトヲ得

第七條 資格審査委員議院ノ會議ニ付スヘシトスルノ報告書ヲ議長ニ提出シタルトキハ議長之ヲ各議員ニ配付シタル後院議ニ付スヘシ

第八條 資格審査委員議院ノ會議ニ付スルコトヲ要セスト報告シタル場合ニ於テ議員三十人以上ヨリ會議ニ付スヘシトスルノ要求アリタルトキハ議長ハ前條ノ手續ニ依ルヘシ但シ報告書提出ノ日ヨリ一週間内ニ要求ヲ爲ス者ナキトキハ資格審査委員ノ報告シタル決議ヲ以テ確定トス

第九條 前二條ノ議事ハ秘密會議ヲ以テス

第一條ノ決議案ノ議決ハ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ之ヲ決スヘシ

第十條 審査ヲ受クヘキ議員ハ自己ニ關ル事件ノ會議ニ列席スルコトヲ得ス但シ議長ノ許可ヲ經テ辯明ヲ爲スコトヲ妨ケス

審査ヲ受クヘキ議員ハ自己ニ關ル事件ニ付テハ委員會ニ參スルコトヲ得ス

貴族院令第五條第三項ノ議決ニ關ル規則



第十一條 審査ニ付セラレタル事件ニ付議院ノ會議ニ於テ議決シ又ハ資格審査委員ノ決議確定シタルキハ議長ハ其ノ旨ヲ審査ヲ受ケタル議員ニ通知スヘシ

第十二條 議院ノ會議ニ於テ否決シ又ハ資格審査委員ノ決議確定シタル事件ハ同會期中ニ於テ再ヒ問題ト爲スコトヲ得ス

○貴族院規則(大正十年三月二十六日議決)  
(改正十四年十二月二十八日)

第一章 成立

第一條 議員ハ召集ノ詔書ニ指定シタル期日ノ午前九時貴族院ニ集會スヘシ

第二條 集會シタル議員ハ名刺ヲ事務局ニ通スヘシ

第三條 集會シタル議員總議員三分ノ一二充チタルトキハ議長ハ議長席ニ著クヘシ

第四條 議員ノ席次ハ皇族ヲ首席トシ其ノ席次ハ宮中ノ列次ニ依ル爵位ヲ有スル議員ヲ次席トシ其席次ハ爵位次第二依ル其ノ他ノ議員ノ席次ハ年齢ニ依リ同年月日ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 議長ハ書記官ヲシテ抽籤セシメ總議員ヲ九部ニ配分シ各部ニ號數ヲ附ス均分スルコト能ハサルトキハ第一部ヨリ以下毎部一員ヲ加フヘシ

議長副議長ハ部員ノ中ニ入ラス

部屬定マリタル後議員トナリタル者ノ所屬部ハ議長之ヲ定ム

第六條 部屬ハ每會期ニ之ヲ定ム

臨時會ニ於テハ前會ノ部屬ヲ繼續スヘシ

第七條 各部ハ年長部員ヲ管理者トシ無名投票ヲ以テ部員中ヨリ部長一名ヲ互選シ其ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス得票相同シキ者アルトキハ年長ヲ取り同年月日ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 部長ハ部ノ事務ヲ整理ス

第九條 各部へ部員中ヨリ理事一名ヲ互選ス

理事ノ互選ハ部長互選ノ例ニ同シ

第十條 部長又ハ理事ニ選舉セラレタル者ハ正當ノ事由ナクシテ其ノ任ヲ辭スルコトヲ得ス

第十一條 理事ハ部長故障アルトキ其ノ職務ヲ代理スヘシ

第十二條 部長理事俱ニ故障アルトキハ出席員中ノ首席者部長ノ職務ヲ行フヘシ

第十三條 部屬定マリタルトキハ議長ハ議院成立シタルコトヲ政府及衆議院ニ通知スヘシ

第二章 假議長選舉

貴族院規則(成立、假議長選舉)



第十四條 假議長ノ選舉ハ無名投票ヲ以テ之ヲ行ヒ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス得票相同シキ者アルトキハ八年長ヲ取り同年月日ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム  
 議院ハ假議長ノ選舉ヲ議長ニ委任スルコトヲ得  
 第十五條 假議長ノ選舉ヲ行フ場合ニ於テ議長ノ職務ヲ行フ者ナキトキハ 全院委員長議長ノ職務ヲ行フヘシ但シ全院委員長故障アルトキ又ハ其ノ選舉未タ施行セラレサルトキハ 出席議員中ノ首席者ヲ以テ之ニ充ツ

第三章 委員

第一節 通則

第十六條 委員會ノ審査ハ議院ノ付託シタル事件ノ外ニ涉ルコトヲ得ス  
 第十七條 委員ハ委員會ニ於テ同一事件ニ付キ幾回タリトモ發言スルコトヲ得  
 第十八條 委員長ハ委員會ノ會議ヲ整理シ秩序ヲ保持ス  
 第十九條 委員長副委員長主査又ハ副主査ニ選舉セラレタル者ハ 正當ノ事由ナクシテ其ノ任ヲ辭スルコトヲ得ス  
 第二十條 委員會ノ議事ハ 出席員ノ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ 委員長ノ決スル所ニ依ル

依ル

委員長ハ討議スルノ權ヲ妨ケラル、コトナシ

第二節 全院委員

第二十一條 全院委員長ノ選舉ハ無名投票ヲ以テ之ヲ行ヒ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス得票相同シキ者アルトキハ八年長ヲ取り同年月日ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム  
 第二十二條 全院委員長故障アルトキハ 第一部長ヲシテ其ノ職務ヲ行ハシムヘシ 第一部長亦故障アルトキハ 順次ニ第二部長以下ヲシテ之ヲ行ハシムヘシ  
 第二十三條 全院委員會ハ 議長又ハ議員十人以上ノ發議ニ由リ 討論ヲ用井ス議院ノ決議ヲ以テ之ヲ開ク  
 第二十四條 全院委員會ヲ開クコトヲ議決シタルトキハ 即時ニ開會スヘシ  
 即時ニ開會セサルノ議決ヲ爲シタルトキハ 議長ハ開會ノ期日ヲ定メ 議事日程ニ記載スヘシ  
 第二十五條 全院委員會ヲ開クトキハ 議長其ノ席ヲ退クヘシ  
 委員長ノ席ハ 議長ノ席ヲ以テ之ニ充ツ  
 第二十六條 全院委員會ニ於ケル動議ハ 一人以上ノ贊成者ヲ待チテ議題ト爲スヘシ



第二十七條 全院委員會ハ自ラ其ノ規則ヲ議決スルコトヲ得ス

第二十八條 全院委員會議事ヲ終ルトキハ委員長ハ議長ノ復席ヲ求メ其ノ結果ヲ議院ニ報告スヘシ

第二十九條 全院委員會ハ自ラ延會スルコトヲ得ス若議事終局セザルトキハ委員長ハ議長ノ復席ヲ求メ議事ノ經過ヲ議院ニ報告スヘシ此ノ場合ニ於テハ議長ハ更ニ開會ノ期日ヲ定メ議事日程ニ記載スヘシ

第三十條 全院委員會ニ於テ議院法若ハ議院規則ニ違ヒ議場ノ秩序ヲ紊ル者アルトキハ議長ハ委員長ノ請求ヲ待タス其ノ席ニ復シ委員會ヲ解クコトヲ得

第三十一條 全院委員會ノ議決スルコトヲ得サル事件生スルトキハ委員長ハ議長ノ復席ヲ求メ其ノ席ヲ退クヘシ

第三十二條 全院委員會ニ於テハ書記官書記官長ノ席ニ著キ委員長ノ指揮ニ依リ其ノ事務ヲ掌理スヘシ

第三節 常任委員

第三十三條 議院ハ每會期ノ始ニ於テ左ニ列記スル常任委員ヲ選舉ス

一 資格審査委員 九人

二 豫算委員 六十三人

三 懲罰委員 九人

四 請願委員 四十五人

五 決算委員 四十五人

其ノ他議院ニ於テ必要ト認ムルモノ

第三十四條 常任委員ハ各部ニ於テ無名投票ヲ以テ選舉シ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス得票相同シキ者アルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第三十五條 各常任委員ヲ選舉スルハ議院ノ定ムル所ニ依リ各部同一日時ニ於テスヘシ

第三十六條 當選人定マリタルトキハ部長ハ之ヲ議長ニ報告スヘシ

第三十七條 數部ノ選舉ニ當選シタル者ハ其ノ所屬部ノ當選人トス

所屬部ノ外ニ於テ數部ノ選舉ニ當選シタル者ハ部號ノ順序ニ從ヒ其ノ當選人トス

第三十八條 常任委員ニ闕員ヲ生シタルトキハ其ノ選舉シタル部ニ於テ補闕選舉ヲ行フヘシ

第三十九條 常任委員會ハ無名投票ヲ以テ委員長副委員長各一名ヲ互選シ最多數ヲ得タル者ヲ



以テ當選人トス得票相同シキ者アルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

委員長及副委員長ノ選舉ヲ終ルマテ委員會ニ關スル事務ハ委員中ノ首席者之ヲ行フヘシ

第四十條 副委員長ハ委員長故障アルトキ其ノ職務ヲ代理スヘシ

第四十一條 議院ニ於テ委員會ノ期日ヲ指定セサルトキハ委員長之ヲ定ム

第四十二條 常任委員會ハ議院ノ會議時間ニ於テ之ヲ開クコトヲ得ス但シ議院ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十三條 常任委員會ハ其ノ付託ヲ受ケタル事件ニ關シ意見ヲ有スル議員アルトキハ其ノ意見ヲ聞クコトヲ得

第四十四條 常任委員會ノ審査終ルトキハ報告書ヲ作り委員長ヨリ議院ニ提出スヘシ

常任委員會ノ決議ニ依リ委員長ハ口述ヲ以テ報告スルコトヲ得但シ議院ハ文書ノ報告ヲ求ムルコトヲ得

常任委員長ハ委員會ノ決議ヲ經テ其ノ報告ヲ他ノ委員ニ依託スルコトヲ得

議長ニ於テ特ニ祕密ト認ムルモノ、外委員會ノ報告書ハ印刷シテ豫メ之ヲ議員ニ配付スヘシ  
第四十五條 議院ハ期限ヲ定メ委員會ヲシテ審査ノ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十六條 常任委員會故ナク其ノ報告ヲ遲延スルトキハ議院ハ委員ヲ改選スルコトヲ得

第四十七條 議院ハ常任委員會ノ報告ヲ受クルノ後再ヒ其ノ事件ノ審査ヲ爲サシメ又ハ委員ヲ改選シテ審査ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十八條 常任委員會ニ於テ少數ヲ以テ廢棄セラレタル意見ヲ議院ニ提出セムト欲スル者出席委員三分ノ一二及フトキハ連署シテ其ノ意見ヲ提出スルコトヲ得

少數意見ノ提出者ハ代表者ヲ定メ議院ニ於テ意見ノ趣旨ヲ説明スルコトヲ得

第四十九條 常任委員會ハ委員會議錄ヲ作り出席者ノ氏名表決ノ數決議ノ要領及其ノ他重要ノ事件ヲ記載スヘシ

第五十條 常任委員會議錄ハ委員長及副委員長之ニ署名シ又ハ記名捺印シ事務局ニ保存スヘシ

第五十一條 常任委員會ハ其ノ事務ヲ捷速ナラシムル爲ニ分テ數科ト爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ各科ニ主査副主査各一名ヲ互選スヘシ主査及副主査ノ互選ニ付テハ第三十九條第一項ノ規定ヲ適用ス

主査ハ議院ニ於テ委員長ノ報告ヲ補足スルコトヲ得



副主査ハ主査故障アルトキ其ノ職務ヲ代理スヘシ

#### 第四節 特別委員

第五十二條 特別委員ノ數ハ九名トス但シ付託事件ノ種類ニ由リ議院ノ決議ヲ以テ之ヲ増加スルコトヲ得

第五十三條 特別委員ハ議院ニ於テ無名投票ヲ以テ連記選舉シ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス得票相同シキ者アルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

議院ハ特別委員ノ選舉ヲ議長又ハ各部ニ委任スルコトヲ得

第五十四條 特別委員ニ關員ヲ生シタルトキハ其ノ選舉シタル方法ニ從ヒ補闕選舉ヲ行フヘシ

第五十五條 議院ハ連繫スル數事件ヲ併セテ之ヲ同一ノ特別委員ニ付託スルコトヲ得議長第五十三條第二項ノ規定ニ依リ委任ヲ受ケタル場合亦同シ

第五十六條 本章第三節第三十九條ヨリ第五十條ニ至ルマテノ規定ハ之ヲ特別委員ニ適用ス

#### 第四章 開議散會及延會

第五十七條 會議ハ通常午前十時ニ始ム

第五十八條 議事日程ニ記載シタル議事ヲ終リタルトキハ議長ハ議院ニ諮ハスシテ散會ヲ宣告

ス議事未タ終ラサルモ午後四時ニ至ルトキハ議長ハ延會ヲ宣告スルコトヲ得但シ緊急ノ議事ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第五十九條 議事開始ノ時刻ニ至ルトキハ議長其ノ席ニ著キ諸般ノ事項ヲ報告シテ後ニ會議ヲ開クコトヲ宣告ス

第六十條 出席議員若定足數ニ充タサルトキハ議長ハ相當ノ時間ヲ經テ之ヲ計算セシメ計算ニ同ニ至リ仍定足數ニ充タサルトキハ延會ヲ宣告スヘシ  
會議中退席者アリテ定足數ヲ闕キタルトキ亦同シ

#### 第五章 議事日程

第六十一條 凡テ議院ノ會議ニ付スヘキ事件及次序竝開議ノ日時ハ之ヲ議事日程ニ記載スヘシ  
第六十二條 議長ハ會議ノ終ニ於テ次會ノ議事日程ヲ議院ニ報告スヘシ但シ日程未タ定マラサル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第六十三條 議事日程ハ官報ニ掲載シ及議員ニ配付スヘシ

第六十四條 議事日程ニ某議案ノ會議時刻ヲ定メタル場合ニ於テ其ノ時刻ニ至リタルトキハ議長ハ會議中ノ議事ヲ中止シテ時刻ヲ定メタル事件ノ會議ニ移ルヘシ

#### 貴族院規則(特別委員、開議散會及延會、議事日程)



第六十五條 議事日程ニ記載シタル事件ノ順序ヲ變更シ若ハ他ノ緊急事件ニ付キ議事日程ニ追加スルノ動議ヲ起ス者アルトキ又ハ議長其ノ必要ヲ認ムルトキハ討論ヲ用井スシテ議院ニ諮ヒ議事日程ヲ變更スルコトヲ得

第六十六條 議事日程ニ指定シタル日ニ於テ其ノ記載事件ノ會議ヲ開クコト能ハサルトキ又ハ會議終局ニ至ラサルトキハ議長ハ更ニ其ノ日程ヲ定ムヘシ

第六十七條 衆議院ニ於テ既ニ會議ニ付シタル議案ト同一ナル事件ハ之ヲ議事日程ニ記載スルコトヲ得ス但シ兩議院ノ議決ヲ要セサルモノハ此ノ限ニ在ラス

第六十八條 衆議院ヨリ提出シタル議案ハ政府ヨリ提出シタル議案ニ次キ議事日程ニ記載スヘシ

第六章 議事及質問

第一節 發議及動議

第六十九條 議員法律案上奏案建議案又ハ決議案ヲ發議セムトスルトキハ其ノ案ヲ具ヘ定規ノ贊成者ト共ニ連署シテ豫メ議長ニ提出シ議長ハ之ヲ印刷セシメテ各議員ニ配付スヘシ但シ緊急事件ニ付テハ發議者議場ニ於テ其ノ案ヲ朗讀シ定規ノ贊成者ヲ求メテ之ヲ提出スルコトヲ

得

第七十條 議院法及此ノ規則ニ於テ特ニ規定シタル場合ヲ除ク外凡ソ動議ハ一人以上ノ贊成者ヲ待チテ議題ト爲スヘシ

第七十一條 議題トナリタル議員ノ發議案ハ議院ノ許可ヲ經ルニ非サレハ之ヲ撤回スルコトヲ得ス

第二節 讀會

七十二條 第一讀會ハ議案ヲ各議員ニ配付シタル後少クトモ二日ヲ經テ之ヲ開クヘシ但シ緊急事件ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第七十三條 第一讀會ニ於テ議案ヲ朗讀シタル後國務大臣政府委員又ハ發議者ハ議案ノ趣旨ヲ説明スルコトヲ得

議長ハ便宜議案ノ朗讀ヲ省略セシムルコトヲ得

第七十四條 前條ノ手續ヲ終リタルトキハ政府又ハ衆議院ヨリ提出シタル議案ハ之ヲ委員ニ付託スヘシ

議院ハ委員會ノ報告ヲ待チ大體ニ付キ討論シタル後第二讀會ヲ開クヘキヤ否ヲ決スヘシ

貴族院規則(議事及質問、發議及動議、讀會)



議員ヨリ提出シタル議案ハ大體ニ付キ討論シタル後第二讀會ヲ開クヘキヤ否ヲ決スヘシ若委員ニ付託スルノ動議アリテ之ヲ可決シタルトキハ其ノ報告ヲ待チ第二讀會ヲ開クヘキヤ否ヲ決スヘシ

第二讀會ヲ開クヘカラスト決シタルトキハ其ノ議案ヲ廢棄シタルモノトス

第七十五條 第二讀會ハ第一讀會ヲ終リタル後少クトモ二日ヲ經テ之ヲ開クヘシ但シ議長必要ト認ムルトキ又ハ議員ノ動議アルトキハ議長ハ議院ニ諮ヒ時日ヲ短縮シ又ハ第一讀會ト同日ニ之ヲ開クコトヲ得

第七十六條 第二讀會ニ於テハ議案ヲ逐條朗讀シテ之ヲ議決スヘシ

議長ハ便宜朗讀ヲ省略セシムルコトヲ得

第七十七條 第二讀會ニ於テハ議案ニ對シ修正ノ動議ヲ提出スルコトヲ得

議員ハ讀會ノ前豫メ修正案ヲ議長ニ提出スルコトヲ得

第七十八條 議長ハ逐條審議ノ順序ヲ變更シ又ハ數條ヲ連ネ又ハ一條ヲ分割シテ討論ニ付スルコトヲ得但シ議員異議ヲ申立テ一人以上ノ贊成者アルトキハ討論ヲ用井スシテ議院ニ諮ヒ之ヲ決スヘシ

第七十九條 第三讀會ニ於テハ第二讀會ノ決議ヲ以テ議案トス

議長ハ便宜朗讀ヲ省略セシムルコトヲ得

第八十條 第三讀會ハ第二讀會ノ後少クトモ二日ヲ經テ之ヲ開クヘシ但シ議長必要ト認ムルトキ又ハ議員ノ動議アルトキハ議長ハ議院ニ諮ヒ時日ヲ短縮シ又ハ第二讀會ト同日ニ之ヲ開クコトヲ得

第八十一條 第三讀會ニ於テハ議案全體ノ可否ヲ議決スヘシ

第八十二條 第三讀會ニ於テハ文字ヲ更正スルノ外修正ノ動議ヲ爲スコトヲ得但シ議案中互ニ抵觸スル事項又ハ現行法律ト抵觸スル事項アルコトヲ發見シタルトキ必要ノ修正ヲ動議スルハ此ノ限ニ在ラス

第三節 發言

第八十三條 議事日程ニ記載シタル議題ニ對シ發言セムト欲スル者ハ會議開始ノ前ニ豫メ其ノ氏名及反對又ハ贊成ノ旨ヲ書記官ニ通告スルコトヲ得

第八十四條 書記官ハ前條通告ノ順序ニ由リ之ヲ發言表ニ記入シ議長ニ報告スヘシ議長ハ討論ヲ始ムルニ當リ發言表ニ依リ反對者ヲシテ最初ニ發言セシメ次に贊成者及反對者ヲ可成交互



ニ指名シテ發言セシムヘシ

前項ノ指名ニ應セサル者ハ通告ノ效ヲ失フ

第八十五條 通告ヲ爲サ、ル議員ハ通告ヲ爲シタル議員總テ發言ヲ終リタル後ニ非サレハ發言

ヲ求ムルコトヲ得ス

通告ヲ爲シタル甲方ノ議員未タ發言ヲ終ラスト雖乙方ノ議員既ニ發言ヲ終リタルトキハ通告

ヲ爲サ、ル乙方ノ議員發言ヲ求ムルコトヲ得

第八十六條 通告ヲ爲サシテ發言セムト欲スル者ハ起立シテ議長ト呼ヒ及自己ノ氏名ヲ呼ヒ

議長ノ許可ヲ待チテ發言スヘシ

第八十七條 二人以上起立シテ發言ヲ求ムルトキハ議長ハ先起立者ト認ムル者ヲ指名シテ發言

セシムヘシ

第八十八條 議長會議ヲ宣告スル前及散會延會又ハ會議中止ヲ宣告シタル後ハ何人モ議事ニ付

發言スルコトヲ得ス

第八十九條 停會延會又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ發言ヲ中止セラレタル議員ハ更ニ會議ヲ開クト

キニ於テ其ノ發言ヲ繼續スルコトヲ得

第九十條 議題ニ對スル發言ハ演壇ニ於テ之ヲ爲スヘシ但シ特ニ議長ノ許可ヲ得タルトキ又ハ

極メテ簡單ナル發言ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第九十一條 國務大臣及政府委員ノ發言ハ演壇ニ於テ之ヲ爲スヘシ但シ特ニ議長ノ許可ヲ得タ

ルトキ又ハ極メテ簡單ナル發言ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第九十二條 議長ハ何時ニテモ議席又ハ國務大臣及政府委員席ニ於テ發言スル者ヲシテ演壇ニ

於テ發言セシムルコトヲ得

第九十三條 討論ハ議題外ニ涉ルコトヲ得ス

第九十四條 議員ハ同一ノ議題ニ付キ發言二回ニ及フコトヲ得ス但シ質疑應答又ハ注意ノ喚起

ハ此ノ限ニ在ラス

第九十五條 委員長又ハ報告者ハ其ノ報告ノ趣旨ヲ説明スル爲ニ數回ノ發言ヲ爲スコトヲ得

國務大臣政府委員發議者及動議者ハ議案又ハ發議動議ノ趣旨ヲ説明スル爲ニ數回ノ發言ヲ爲

スコトヲ得

第九十六條 資格ニ付キ異議ヲ申立テラレタル議員又ハ懲罰事犯アリト告ケラレタル議員ハ辯

明ヲ爲ニ數回ノ發言ヲ爲スコトヲ得



第九十七條 議員ハ會議ニ於テ意見書ヲ朗讀スルコトヲ得ス但シ引證ノ爲ニ文書ヲ朗讀スルハ此ノ限ニ在ラス

國務大臣政府委員及委員長又ハ報告者ハ理由書又ハ報告書ヲ朗讀スルコトヲ得

第九十八條 議長自ラ討論ニ與カラムトスルトキハ議席ニ著キ副議長ヲシテ議長席ニ著カシムヘシ

第九十九條 議長討論ニ與カリタルトキハ其ノ問題ノ表決ニ至ルマテ議長席ニ復スルコトヲ得ス

第一百條 議場ニ於テ議員ヲ呼フトキハ敬稱ヲ用ウヘシ

第一百一條 議長ハ討論ノ終局ヲ宣告ス

第一百二條 發言者未タ盡キスト雖議員討論終局ノ動議ヲ提出シ二十人以上ノ贊成者アルトキハ議長ハ討論ヲ用非スシテ議院ニ諮ヒ之ヲ決スヘシ

討論終局ノ動議ハ贊否各二人以上ノ發言アリタル後ニ非サレハ之ヲ提出スルコトヲ得ス但シ一方ノミ二人以上發言シ他ノ一方ニ於テ發言ノ要求者ナキ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第一百三條 討論終局ノ動議成立シ若ハ討論終局シタル後本議題ニ關シ國務大臣又ハ政府委員ノ

發言アリタルトキハ更ニ討論ニ入りタルモノト看做ス

第一百四條 討論終局ノ後未タ議題トナラサル修正ノ成案アルトキハ議長ハ之ヲ議院ニ報告シ其ノ未タ規定ノ贊成者ヲ具ヘサルモノハ贊成者ノ有無ヲ問ヒタル後其ノ成案ニ關シ更ニ討論ヲ開クヘキヤ否ヲ討論ヲ用非スシテ表決ニ付スヘシ若討論ヲ開クヘカラスト決スルトキハ直ニ之ヲ表決ニ付スヘシ

委員付託ノ動議ハ討論終局ノ後ト雖之ヲ提出スルコトヲ得但シ本議題ノ可否ニ論及スルコトヲ得ス

第一百五條 問題ニ對シ質疑續出シテ容易ニ終局セサルトキハ議員ハ質疑ヲ終局スルノ動議ヲ提出スルコトヲ得此ノ動議ニハ第一百二條第一項ノ規定ヲ適用ス

#### 第四節 修正

第一百六條 議案ニ對スル修正ノ動議ハ其ノ案ヲ具ヘ定規ノ贊成者ト共ニ連署シテ豫メ議長ニ提出シ議長ハ之ヲ印刷セシメテ各議員ニ配付スヘシ但シ動議者議場ニ於テ其ノ案ヲ朗讀シ定規ノ贊成者ヲ求メテ之ヲ提出スルコトヲ得

第一百七條 委員會ノ報告ニ係ル修正ハ贊成者ヲ待タスシテ議題ト爲スヘシ



第百八條 同一ノ議題ニ付キ數箇ノ修正案提出セラレタル場合ニ於テハ其ノ原案ニ最モ遠キモ  
ノヨリ順次之ヲ表決ニ付スヘシ

前項表決ノ順序ハ議長之ヲ定ム但シ議員異議ヲ申立テ一人以上ノ贊成者アルトキハ討論ヲ用  
非スシテ議院ニ諮ヒ之ヲ決スヘシ

第百九條 議員ノ提出シタル修正案ハ委員會ノ提出シタル修正案ニ先チテ表決ヲ取ルヘシ

第百十條 議題トナリタル修正ノ動議ハ議院ノ許可ヲ經ルニ非サレハ之ヲ撤回スルコトヲ得ス  
一議員ノ撤回シタル動議ハ他ノ議員定規ノ贊成者ト共ニ之ヲ繼續スルコトヲ得

第五節 表決

第百十一條 修正案總テ否決セラレタルトキハ原案ニ就テ表決ヲ取ルヘシ

第百十二條 表決ニハ條件ヲ附スルコトヲ得ス

第百十三條 表決ノ際議場ニ現在セサル議員ハ表決ニ加ハルコトヲ得ス

第百十四條 議長表決ヲ取ラムトスルトキハ表決ニ付スヘキ問題ヲ議院ニ宣告スヘシ  
議長表決ニ付スヘキ問題ヲ宣告シタル後ハ議員ハ議題ニ付キ發言スルコトヲ得ス

第百十五條 第七十八條ノ規定ニ依リ討論ヲ爲シタルトキハ議長ハ其ノ討論ノ順序ニ由リテ表

決ニ付スルコトヲ得但シ議員異議ヲ申立テ一人以上ノ贊成者アルトキハ討論ヲ用非スシテ議  
院ニ諮ヒ之ヲ決スヘシ

第百十六條 議長表決ヲ取ラムトスルトキハ問題ヲ可トスル者ヲ起立セシメ起立者ノ多少ヲ認  
定シ可否ノ結果ヲ宣告スヘシ其ノ結果疑ハシト認ムルトキ又ハ議員議長ノ宣告ニ對シ異議ア  
ルトキハ反對者ヲ起立セシメテ之ヲ反證シ仍疑ハシト認ムルトキ又ハ議員仍異議ヲ申立テ十

人以上ノ贊成者アルトキハ議長ハ書記官ニ命シ議員ノ氏名ヲ點呼セシメ議員ハ起立シテ可否  
ヲ表スヘシ

氏名點呼ノ結果ニ付キ仍議員ヨリ異議ヲ申立テ二十人以上ノ贊成者アルトキハ議長ハ記名投  
票ヲ以テ表決ヲ爲サシムヘシ

第百十七條 議長ハ問題ニ付キ異議ノ有無ヲ議院ニ諮フコトヲ得異議ナシト認ムルトキハ可決  
ノ旨ヲ宣告スヘシ但シ議員問題ニ付キ又ハ議長ノ宣告ニ對シ異議アルトキハ本節ニ規定スル  
他ノ方法ニ依リ表決ヲ取ルヘシ

第百十八條 議長必要ト認ムルトキ又ハ議員二十人以上ノ要求アルトキハ起立ノ方法ヲ用非ス  
シテ記名投票ヲ以テ表決ヲ爲サシムヘシ



第百十九條 記名投票ヲ行フ場合ニ於テハ問題ヲ可トスル議員ハ白色票ニ問題ヲ否トスル議員ハ青色票ニ各々其ノ氏名ヲ記シ投票函ニ投入スヘシ  
第百二十條 議長必要ト認ムルトキ又ハ議員二十人以上ノ要求アルトキハ無名投票ヲ以テ表決ヲ爲サシムヘシ

第百二十一條 無名投票ヲ行フ場合ニ於テハ問題ヲ可トスル議員ハ白球ヲ問題ヲ否トスル議員ハ黒球ヲ特ニ設ケタル函ニ投入シ同時ニ其ノ名刺ヲ名刺函ニ投入スヘシ

第百二十二條 氏名點呼又ハ記名若ハ無名投票ヲ行フトキハ議場ノ入口ヲ閉鎖スヘシ  
第百二十三條 投票ヲ終リタルトキハ議長ハ其ノ結果ヲ宣告スヘシ  
第百二十四條 議員ハ自己表決ノ更正ヲ求ムルコトヲ得ス

第六節 豫算會議

第百二十五條 豫算ノ會議ハ三讀會ヲ經ルヲ要セス

第百二十六條 豫算委員會豫算案ヲ數部ニ分割シタルトキハ每部ノ審査終ルニ從ヒ會議ヲ開クコトヲ得

豫算各部ノ議事ヲ終リタルトキハ總額ニ付キ確定ノ決議ヲ爲スヘシ

第百二十七條 豫算ノ會議ニ於テ更ニ審査ヲ必要トスル事項ヲ發見シタルトキハ其ノ事項ニ限リ再ヒ豫算委員ニ付託シ之ヲ審査セシムルコトヲ得

第七節 質問

第百二十八條 議員質問主意書ヲ提出シタルトキハ議院ニ於テ質問ノ趣旨ヲ説明スルコトヲ得  
前項ノ説明ニ對シ他ノ議員ハ意見ヲ述フルコトヲ得ス

第七章 議事録及速記録

第一節 議事録

- 第百二十九條 議事録ハ左ノ事項ヲ記載ス
  - 一 議院成立及開會閉會停會ニ關スル事項及年月日時
  - 二 開議延會會議中止及散會ノ月日時
  - 三 出席國務大臣及政府委員ノ氏名
  - 四 勅語及勅旨
  - 五 議長及委員長報告ノ件

貴族院規則(豫算會議、質問、議事録及速記録、議事録)



六 會議ニ付シタル議案ノ題目

七 議題トナリタル動議及動議者ノ氏名

八 決議ノ事件

九 表決及可否ノ數ヲ計算シタルトキハ其ノ數

十 議院ニ於テ必要ト認メタル事項

第三百三十條 議員議事録ニ記載シタル事實ニ對シテ異議アルトキハ議長ハ書記官長ヲシテ答辯セシムヘシ議員其ノ答辯ニ服セス又ハ議長ノ處置ニ對シ不服ナルトキハ議長ハ討論ヲ用井スシテ表決ヲ取ルヘシ

第三百三十一條 議事録ハ議長又ハ當日ノ會議ヲ整理シタル副議長若ハ假議長及書記官長又ハ其ノ代理タル書記官之ニ署名シ又ハ記名捺印スヘシ

第二節 速記録

第三百三十二條 議事速記録ハ速記法ニ依リ議事ヲ記載ス

第三百三十三條 議院法第八十七條ニ依リ議長取消ヲ命シタル發言ハ速記録ニ記載セス

第三百三十四條 發言シタル議員ハ速記録配付ノ當日午後六時マテニ其ノ訂正ヲ求ムルコトヲ得

但シ訂正ハ字句ニ止マリ發言ノ趣旨ヲ變更スルコトヲ得ス國務大臣及政府委員ノ發言ニ付キ亦同シ

速記録ノ訂正ニ對シ議員異議ヲ申立テ一人以上ノ贊成者アルトキハ議長ハ討論ヲ用井スシテ議院ニ諮ヒ之ヲ決スヘシ

第八章 上奏建議及議案ノ奏上

第三百三十五條 議院上奏シ又ハ勅語及勅旨ニ對シ奉答ノ敬禮ヲ表セムトスルトキハ議長ハ宮内大臣ニ依リ謁見ヲ請フヘシ

第三百三十六條 議院ノ建議書ハ議長ヨリ内閣總理大臣ニ提出スヘシ

第三百三十七條 議案ヲ奏上スル場合ハ内閣總理大臣ヲ經由スヘシ

第九章 請願

第三百三十八條 議院ハ請願者ノ住所身分年齢ヲ記シ各自署名捺印シタル請願書ニ非サレハ受理セス但シ請願者自ラ署名スル能ハサルトキ他人ヲシテ代署セシメ自ラ捺印スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第三百三十九條 法人ノ請願書ハ代表者之ニ署名シ法人ノ印章ヲ捺スヘシ

貴族院規則(速記録、上奏建議及議案ノ奏上、請願)



第四百十條 請願ヲ紹介スル議員ハ請願書ノ表紙ニ署名シ又ハ記名捺印スヘシ

第四百十一條 請願委員會ハ請願提出ノ順序ニ依リ之ヲ審査スヘシ

第四百十二條 議員簡單ナル説明書ヲ以テ一ノ請願ニ對シ至急ノ審査ヲ議院ニ要求スルトキハ

議長ハ討論ヲ用井スシテ表決ヲ取り時日ヲ限リ請願委員ニ付託スヘシ

第四百十三條 請願文書表ニハ請願ノ趣旨提出ノ年月日請願者ノ住所身分氏名紹介議員ノ氏名

ヲ記スヘシ

請願者數名アルトキハ請願者某及外幾名ト記スヘシ

第四百十四條 請願文書表ハ議長之ヲ印刷セシメテ每週一回議員ニ配付スヘシ

請願書ハ議院ノ決議ニ依ルニ非サレハ印刷配付セス

第四百十五條 請願委員會ハ審査ノ結果ニ從ヒ左ノ區別ヲ爲シ議院ニ報告スヘシ

一 議院ノ會議ニ付スヘシトスルモノ

二 議院ノ會議ニ付スルヲ要セストスルモノ

第四百十六條 請願委員會ハ議院ノ會議ニ付スヘシトスルノ請願ニ付テハ特別ノ報告ヲ爲スヘシ

シ

第四百十七條 請願委員會ニ於テ議院ノ會議ニ付スルヲ要セストスルノ報告ニ對シ一週間内ニ

議員ヨリ會議ニ付スルノ要求ヲ爲ス者ナキトキハ委員會ノ決議ヲ以テ確定トス

第四百十八條 請願書ハ會議ニ付スルモ之ヲ朗讀セス但シ議員朗讀ヲ要求スル者アルトキハ議

長ハ討論ヲ用井スシテ議院ニ諮ヒ之ヲ決スヘシ

第十章 請暇及辭職

第一節 請暇

第四百十九條 議員事故ノ爲ニ數日間議院ニ出席スルコト能ハサルトキハ其ノ理由ヲ具ヘ日數

ヲ定メテ豫メ請暇書ヲ差出シ許可ヲ受クヘシ

公務又ハ疾病若ハ一時已ムヲ得サル事故アリテ議院ニ出席スルコトヲ得サルトキハ其ノ理由

ヲ具ヘ闕席届書ヲ差出スヘシ

第四百五十條 請暇ノ許可ヲ得議院所在ノ地ヲ離ル、者ハ其ノ出發及歸著ノ時ニ於テ議長ニ届出

ツヘシ

第四百五十一條 議員請暇ノ許可ヲ得タル日限ニ至リ事故ニ因リ仍議院ニ出席スルコトヲ得サル

トキハ其ノ理由ヲ具ヘ日數ヲ定メテ更ニ請暇書ヲ差出シ許可ヲ受クヘシ

貴族院規則(請暇及辭職、請暇)



第五百五十二條 請暇ノ許可ヲ得タル議員其ノ請暇ノ期限内ニ議院ニ出席スルトキハ請暇許可ノ效ヲ失フ

第二節 辭職

第五百五十三條 公侯爵議員伯子男爵被選議員及勅任議員辭職セムトスルトキハ議長ヲ經由シテ之ヲ奏請スヘシ

第五百五十四條 辭表中不敬又ハ無禮ノ言辭アリト認ムルトキハ議長ハ其ノ辭表ヲ懲罰委員ニ付シテ審査報告セシメ議院ニ諮フテ後之ヲ處分スヘシ

第十一章 警察及秩序

第一節 警察

第五百五十五條 議長ハ守衛及警察官吏ヲ指揮シテ議院内部ノ警察權ヲ施行ス

第五百五十六條 守衛ハ議院建物内警察官吏ハ議院建物外ノ警察ヲ爲ス

第五百五十七條 議院ノ防火點燈導水煖爐及衛生ニ關スル事項ハ守衛之ヲ監督ス

第五百五十八條 議院内部ニ於テ禁錮以上ノ刑ニ該ル罪ノ現行犯人アルトキハ守衛又ハ警察官吏ハ之ヲ逮捕シテ議長ノ命令ヲ請フヘシ但シ議場ニ於テハ議長ノ命令ヲ待タスシテ逮捕スルコトヲ得ス

トヲ得ス

第二節 議場内ノ秩序

第五百五十九條 議員議場ニ入ルトキハ「フロックコート」又ハ「モーニングコート」若ハ羽織袴ヲ著スヘシ總テ異様ノ服装ヲ爲スヘカラス

第六十條 議員議場ニ入ルトキハ外套傘杖ノ類ヲ携帯スヘカラス帽子ヲ著スヘカラス但シ已ムヲ得サル事由アルトキハ議長ノ許可ヲ得テ杖ヲ携帯スルコトヲ得

第六十一條 議場内ニ於テ喫煙スヘカラス

第六十二條 議員ハ參考ノ爲ニスルモノヲ除ク外議事中新聞紙及書籍ヲ閱讀スルコトヲ得ス何人モ議事中濫ニ發言シ又ハ喧噪シテ他人ノ發言ヲ妨クルコトヲ得ス

第六十四條 議長號鈴ヲ鳴ラストキハ議員ハ總テ沈黙スヘシ

第六十五條 凡ソ秩序ノ問題ハ議長之ヲ決ス但シ議長ハ議院ニ諮ヒ之ヲ決スルコトヲ得

第十二章 傍聽

第六十六條 傍聽席ヲ分テ皇族席外國外交官席高等官席衆議院議員席參事席及新聞記者席トス

貴族院規則(辭職、警察及秩序、議場内ノ秩序、傍聽)



第六十七條 外國外交官ノ傍聴ヲ求ムル者アルトキハ外務省ノ照會ニ依リ書記官長ハ其ノ員數ヲ限リ傍聴券ヲ該省ニ送付スヘシ

第六十八條 官吏ノ傍聴ヲ求ムル者アルトキハ所屬官廳ノ照會ニ依リ書記官長ハ其ノ員數ヲ限リ傍聴券ヲ其ノ官廳ニ送付スヘシ

第六十九條 公衆ノ傍聴ヲ求ムル者ハ議員ノ紹介ニ依ルヘシ  
書記官長ハ豫メ公衆傍聴券ノ員數ヲ定メ之ヲ各議員ニ配付ス

第七十條 議事開始ノ後一時間ヲ經過シ仍傍聴席ニ空位アリテ議員ノ紹介アルトキハ書記官長ハ傍聴券ヲ交付スルコトヲ得

第七十一條 新聞社及通信社ノ爲ニ一會期ニ通スル傍聴章ヲ交付ス  
前項傍聴章ノ員數ハ每會期ノ始ニ於テ之ヲ定ム

七十二條 傍聴人ハ傍聴券又ハ傍聴章ヲ守衛ニ示シ其ノ指示スル所ノ席ニ著クヘシ  
第七十三條 凡ソ傍聴席ニ在ル者ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

- 一 羽織袴又ハ洋服ヲ著スヘシ
- 二 帽子又ハ外套ヲ著スヘカラス

三 傘杖ノ類ヲ携帯スヘカラス

四 飲食又ハ喫煙スヘカラス

五 議員ノ發言ニ對シ可否ヲ表スヘカラス

六 喧擾ニ涉リ議事ヲ妨害スヘカラス

第七十四條 戎器兇器ヲ携持シタル者及酩酊シタル者ハ傍聴席ニ入ルコトヲ許サス

第七十五條 何等ノ事由アルモ傍聴人ハ議場ニ入ルコトヲ得ス

第七十六條 祕密會議ヲ開クノ決議アリタルトキ又ハ傍聴席騷擾ナルニ由リ總テノ傍聴人ヲ退場セシムルトキハ議長ハ守衛ヲシテ其ノ命令ヲ執行セシムヘシ

第十三章 懲罰

第七十七條 會議ニ於テ懲罰事犯アルトキハ議長ハ會議ヲ中止シ又ハ犯人ヲ退場セシムルコトヲ得

第七十八條 委員會ニ於テ懲罰事犯アルトキハ委員長ハ委員會ヲ中止スルコトヲ得

第七十九條 委員長又ハ部長ニ於テ懲罰事犯ト認メサル事件ニ付テモ委員又ハ部員ハ議院法

第九十八條ニ依リ懲罰ノ動議ヲ議院ニ提出スルノ權ヲ失ハス

貴族院規則(懲罰)



第一百八十八條 議院法第九十八條第一項ノ場合ニ於テハ議長ハ討論ヲ用非スシテ表決ヲ取り之ヲ懲罰委員ニ付スヘシ

第一百八十一條 懲罰事犯ノ議事ハ祕密會議ヲ以テス

第一百八十二條 議員ハ自己ノ懲罰事犯ノ會議ニ列席スルコトヲ得ス但シ議長ノ許可ヲ經テ自ラ辯明シ又ハ他ノ議員ヲシテ代リテ辯明セシムルコトヲ得

第一百八十三條 懲罰委員會ハ議長ヲ經由シテ本人及關係議員ヲ召喚訊問スルコトヲ得

第一百八十四條 議長ノ制止又ハ取消ノ命ニ從ハサル者ハ議長議院法第八十七條ニ依リ之ヲ處分スルノ外仍懲罰事犯トシテ懲罰委員ニ付スルコトヲ得

第一百八十五條 公開議場ニ於テ謝辭ヲ表セシメムトスルトキハ懲罰委員會之ヲ起草シ其ノ報告ト共ニ議長ニ提出スヘシ

第一百八十六條 議院ノ命令ニ抵抗シ又ハ議長ノ職權ヲ侮辱シタル者及同會期中譴責セラル、コト三回ニ至リ更ニ譴責ニ當ルヘキ事犯アルモノニ對シテハ出席ヲ停止スルコトヲ得

第一百八十七條 出席停止ハ一箇月ヲ超ユルコトヲ得ス

第一百八十八條 出席ヲ停止セラレタル者委員ナルトキハ解任セラレタルモノトス

第一百八十九條 出席ヲ停止セラレタル者其ノ停止期限内ニ議場ニ入ルトキハ議長ハ直ニ退去ヲ命シ其ノ命ニ從ハサルトキハ必要ノ處分ヲ爲シ更ニ懲罰委員ニ付スヘシ

第一百九十條 議院法第九十一條ノ「禁ヲ犯シ其ノ情特ニ重キ者及同會期中出席ヲ停止セララル、コト三回ニ至リ更ニ出席停止ニ當ルヘキ事犯アルトキハ除名ノ手續ヲ爲スコトヲ得

第一百九十一條 凡ソ議院ノ騷擾ヲ醸シ又ハ議院ノ體面ヲ汚スヘキ所行ニシテ其ノ情重キ者ハ出席ヲ停止シ又ハ除名ノ手續ヲ爲スコトヲ得

第一百九十二條 議院懲罰ヲ議決シタルトキハ議長ハ公開議場ニ於テ之ヲ宣告ス

第一百九十三條 議長ハ懲罰事犯ト認ムル所ノ發言ノ一部又ハ全部ヲ公布スルコトヲ禁スルコトヲ得

第十四章 衆議院トノ關係

第一百九十四條 議案ヲ衆議院ニ移ストキハ議長ハ書記官ヲ派シ之ヲ衆議院書記官ニ傳達セシム

第一百九十五條 衆議院ヨリ議案ヲ受取りタルトキハ議長ハ之ヲ議院ニ報告スヘシ

第一百九十六條 協議委員ノ選舉ハ第五十三條及第五十四條ノ規定ヲ適用ス

貴族院規則(衆議院トノ關係)



第九十七條 議院法第五十五條ニ依リ衆議院ヨリ回付シタル修正案ヲ議シ及協議會ノ報告ヲ議スルニハ三讀會ヲ經ルヲ要セス

第九十八條 協議會ニ於ケル貴族院ノ委員ハ其ノ報告委員ヲ互選スルコトヲ得

第九十九條 協議委員ノ數協議會ノ定足數及決議ノ方法竝協議會議長ノ權限ハ議院法第六十

一條ニ依リ委員ヲ派シ兩院協議シテ之ヲ定ムヘシ

第十五章 補則

第二百條 凡ソ議院規則ノ疑義ハ議長之ヲ決ス但シ議長ハ議院ニ諮ヒ之ヲ決スルコトヲ得

○豫算案議定細則 (明治二十四年二月二十七日貴族院議決)

第一條 衆議院ヨリ豫算案ヲ受取りタルトキハ議長ハ之ヲ議院ニ報告シ及印刷シテ之ヲ各議員

ニ配付スヘシ

第二條 議院ハ豫算案審查報告ノ期限ヲ定メ豫算案ヲ豫算委員ニ付託スヘシ

第三條 豫算案ノ審查ハ左ノ順序ニ依ルヘシ

一 歳出ノ部ヨリ始メテ歳入ノ部ニ移ルヘシ

二 歳出入ノ審查ハ各項ニ付之ヲ議決シ次ニ其ノ款ノ總額ニ付議決ヲナスヘシ

第四條 豫算委員ノ各科ニ於テハ豫算案各部ノ審查ヲナスヘシ

第五條 豫算委員各科ノ審查終リタルトキハ主査ヨリ其ノ旨ヲ委員長ニ報告シ委員長ハ豫算委

員會ヲ開クヘシ

第六條 各科ノ主査ハ豫算委員會ニ於テ其ノ科ニ於ケル審查ノ報告ヲナシ併セテ其ノ説明ノ責

ニ任スヘシ

第七條 豫算委員豫算案ノ審查ヲ終リタルトキハ報告書ヲ作り委員長ヨリ之ヲ議長ニ提出スヘ

シ

第八條 議長豫算委員ノ報告書ヲ受取りタルトキハ之ヲ印刷シテ各議員ニ配付シ豫算案ノ會議

ヲ開クヘシ

第九條 豫算案ノ會議ニ於テハ第三條ニ規定シタル順序ニ依リ逐次議決スヘシ

第十條 議院ニ於テ憲法第六十七條ニ掲載シタル歳出ノ款項ヲ廢除又ハ削減セムトスルトキハ

政府ノ同意ヲ求ムルコトヲ議決スヘシ

貴族院規則(補則)豫算案議定細則



第十一條 政府ノ同意ヲ求ムルノ議決ヲナシタルトキハ「議長ハ文書ヲ以テ之ヲ政府ニ照會スヘシ

前項ノ場合ニ於テ政府ノ同意ヲ求ムルモノハ豫算案全部ニ付其ノ款項ヲ列記シテ照會シ又ハ各省所管コトニ照會スルハ議院ノ決スル所ニ依ル

第十二條 前條ノ場合ニ於テ政府ノ同意ヲ得タルトキハ其ノ款項ニ付廢除削減ノ議決ヲナスヘシ

第十三條 議院ニ於テ憲法第六十七條ニ掲載シタル歳出ノ款項ニ付廢除削減ヲ企テサルモノ及政府ノ同意ヲ求メテ之ヲ得サルモノハ議決スルノ限ニ在ラス

第十四條 議院ハ歳出歳入ノ部ヲ議了シタル後豫算委員ヲシテ豫算案ノ全體ヲ整理シ之ヲ議院ニ報告セシムヘシ

第十五條 衆議院議決ノ豫算案ニ修正ヲ加ヘタルトキハ衆議院ニ之ヲ回付スヘシ

○決算議定細則(明治二十七年五月二十九日貴族院議決)

第一條 本院ニ於テ決算ヲ受取りタルトキハ議長ハ之ヲ議院ニ報告シ及印刷シテ之ヲ各議員ニ

配付スヘシ

第二條 決算委員ハ數科ニ分割シ各科ニ主査ヲ置クヘシ

第三條 決算委員ノ各科ニ於テハ付託セラレタル決算各部ノ審査ヲナスヘシ

第四條 決算委員ノ各科ニ於テ審査終リタルトキハ主査ヨリ其ノ結果ヲ委員長ニ報告スヘシ

第五條 前條ノ審査報告アリタルトキハ決算委員會ヲ開クヘシ

第六條 各科ノ主査ハ決算委員會ニ於テ其ノ科ニ於ケル審査ノ報告ヲナシ併セテ其ノ説明ノ責ニ任スヘシ

第七條 決算委員會ニ於テハ「異議アル收支ノ款項ニ限り之ヲ議題トナシ其ノ異議ナキ款項ハ總括シテ之ヲ議決ニ付スヘシ

第八條 決算委員會ニ於テ其ノ決算ヲ至當ナリト決スルトキハ其ノ旨ヲ議長ニ報告スヘシ

第九條 決算委員會ニ於テ其ノ決算中違法又ハ不當ノ收支アリト認ムルトキハ其ノ決議案又ハ上奏案ヲ具ヘテ議長ニ報告スヘシ

第十條 決算委員長ノ報告アリタルトキハ議長ハ之ヲ印刷シテ各議員ニ配付シ其ノ會議ヲ開クヘシ



第十一條 決算ノ會議ニ於テハ決算委員長ノ報告ヲ議題トナスヘシ

## ○會計法(大正十二年) (法律第四十二號)

### 第一章 總則

第一條 政府ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

一 會計年度所屬ノ歳入歳出ノ出納ニ關スル事務ハ翌年度七月三十一日迄ニ悉皆完結スヘシ

第二條 租稅其ノ他一切ノ收納ヲ歳入トシ一切ノ經費ヲ歳出トシ歳入歳出ハ之ヲ總豫算ニ編入スヘシ

第三條 每會計年度ニ於ケル經費ノ定額ハ其ノ年度ノ歳入ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第四條 各官廳ニ於テハ法律勅令ヲ以テ規定シタルモノヲ除クノ外特別ノ資金ヲ有スルコトヲ得ス

第五條 政府ハ日本銀行ヲシテ國庫金出納ノ事務ヲ取扱ハシム

前項ノ規定ニ依リ日本銀行ニ於テ受入レタル國庫金ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ預金トス

第六條 政府ハ國庫金出納上必要アルトキハ大藏省證券ヲ發行シ又ハ日本銀行ヨリ借入ヲ爲ス

コトヲ得

大藏省證券及借入金ハ當該年度ノ歳入ヲ以テ之ヲ償還スヘシ

大藏省證券及借入金ノ最高額ハ毎年度帝國議會ノ協贊ヲ經テ之ヲ定ム

### 第二章 豫算

第七條 歳入歳出ノ總豫算ハ毎年ノ帝國議會集會ノ始ニ於テ之ヲ提出スヘシ

必要避クヘカラサル經費及法律又ハ契約ニ基ク經費ニ不足ヲ生シタル場合ヲ除クノ外追加豫算ヲ提出スルコトヲ得ス

第八條 歳入歳出ノ總豫算ハ經常臨時ノ二部ニ大別シ各部中ニ於テ之ヲ款項ニ區分スヘシ

總豫算ニハ帝國議會參考ノ爲ニ左ノ文書ヲ添附スヘシ

一 歳入豫算明細書

二 各省ノ豫定經費要求書但シ各項中各目ノ明細ヲ記入スヘシ

第九條 豫算中ニ設クヘキ豫備費ハ左ノ二項ニ分ツ

第一豫備金

第二豫備金

會計法(總則、豫算)



第一豫備金ハ避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フモノトス

第二豫備金ハ豫算外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツルモノトス

第十條 豫備金ヲ以テ支辨シタルモノハ其ノ第一豫備金支出ニ係ルモノハ年度經過後其ノ第二豫備金支出ニ係ルモノハ次ノ常會ニ於テ帝國議會ニ提出シ其ノ承諾ヲ求ムルコトヲ要ス

第十一條 政府ハ豫算ニ定ムルモノ及特ニ帝國議會ノ協贊ヲ經タルモノヲ除クノ外災害事變其

ノ他避クヘカラサル事由アル場合ニ於テハ翌年度ニ互ル契約ヲ締結スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ翌年度ニ互ル契約ヲ爲スコトヲ得ヘキ金額ハ毎年度帝國議會ノ協贊ヲ經テ

之ヲ定ム

第三章 收入

第三章 收入

第十二條 租稅其ノ他ノ歳入ハ法令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ徵收又ハ收納スヘシ

法令ノ定ムル所ニ依リ當該官吏ノ資格アル者ニ非サレハ租稅其ノ他ノ歳入ヲ徵收又ハ收納ス

ルコトヲ得ス但シ各廳事務員ヲシテ收納ヲ分掌セシムル場合又ハ日本銀行ヲシテ收納ヲ取扱

ハシムル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第四章 支出

第十三條 各年度ニ於テ決定シタル經費ノ定額ヲ以テ他ノ年度ニ屬スヘキ經費ニ充ツルコトヲ

得ス

第十四條 國務大臣ハ其ノ所管ニ屬スル收入ヲ國庫ニ納ムヘシ直ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス

國務大臣ハ豫算ニ定メタル目的ノ外ニ定額ヲ使用シ又ハ各項ノ金額ヲ彼此流用スルコトヲ得

ス

第十五條 國務大臣其ノ所管定額ヲ支出セムトスルトキハ現金ノ交付ニ代ヘ日本銀行ヲ支拂人

トスル小切手ヲ振出スヘシ但シ他ノ官吏ニ委任シテ小切手ヲ振出サシムルコトヲ得

第十六條 國務大臣ハ債主ノ爲ニスルニ非サレハ小切手ヲ振出スコトヲ得ス但シ以下四條ノ規

定ニ依リ主任ノ官吏又ハ日本銀行ニ對シ資金ヲ交付スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 國務大臣ハ勅令ヲ以テ定ムル經費ニ限り主任ノ官吏ヲシテ現金支拂ヲ爲サシムル爲

勅令ノ定ムル所ニ依リ之カ資金ヲ當該官吏ニ交付スルコトヲ得

第十八條 國務大臣ハ日本銀行ニ命シ國債ノ元利拂ヲ爲サシムル爲之カ資金ヲ日本銀行ニ交付

スルコトヲ得

第十九條 國務大臣ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ現金支拂ヲ爲サシムル爲當該官吏ヲシテ其ノ保管



二係ル歳入金、歳出金又ハ歳入歳出外現金ヲ繰替使用セシムルコトヲ得  
前項ノ規定ニ依リ歳出金ニ繰替使用シタル現金ヲ補填スル爲國務大臣ハ之カ資金ヲ當該官吏  
ニ交付スルコトヲ得

第二十條 國務大臣隔地者ニ支拂ヲ爲サムトスルトキハ必要ナル資金ヲ日本銀行ニ交付シ之カ  
支拂ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ規定ハ隔地ノ出納官吏ニ資金ヲ交付セムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第二十一條 國務大臣ハ勅令ヲ以テ定メタル場合ニ限り前金拂又ハ概算拂ヲ爲スコトヲ得但シ  
軍艦、兵器、彈藥若ハ外國ヨリ直接購入スル機械圖書ノ代價及官公署ニ對シ支拂フヘキ經費ヲ除  
クノ外物件ノ製造若ハ買入又ハ工事ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條 國務大臣ハ特殊ノ經理ヲ必要トスル場合ニ限り勅令ノ定ムル所ニ依リ各廳事務費  
ノ全部又ハ一部ヲ主務官吏ニ對シ渡切ヲ以テ支給スルコトヲ得

第五章 決算

第二十三條 會計検査院ノ検査ヲ經テ政府ヨリ帝國議會ニ提出スル歳入歳出ノ總決算ハ翌年開  
會ノ常會ニ於テ帝國議會ニ之ヲ提出スヘシ

第二十四條 總決算ハ總豫算ト同一ノ様式ヲ用井左ノ事項ノ計算ヲ明記スヘシ  
歳入ノ部

歳入豫算額

調定済歳入額

收入済歳入額

不納缺損額

收入未済歳入額

歳出ノ部

歳出豫算額

豫算決定後増加歳出額

支出済歳出額

翌年度繰越額

不用額

第二十五條 總決算ニハ會計検査院ノ検査報告ト俱ニ左ノ文書ヲ添付スヘシ

會計法(決算)



- 一 歳入決算明細書
- 二 各省決算報告書
- 三 國債計算書

第六章 歳計剩餘定額繰越過年度支出豫算外收入及定額戻入

第二十六條 各年度ニ於テ歳計ニ剩餘アルトキハ其ノ翌年度ノ歳入ニ繰入ルヘシ

第二十七條 豫算ニ於テ特ニ明許シタルモノ及一年度内ニ終ルヘキ工事製造又ハ物品ノ買入若ハ運搬ニシテ避クヘカラサル事故ノ爲ニ竣功又ハ納入若ハ運搬ヲ遅延シ年度内ニ其ノ經費ノ支出ヲ終ラサリシモノハ之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

第二十八條 數年ヲ期シテ竣功スヘキ工事製造其ノ他ノ事業ニシテ繼續費トシテ總額ヲ定メタルモノハ毎年度ノ支出殘額ヲ竣功年度迄遞次繰越シ使用スルコトヲ得

第二十九條 過年度ニ屬スル經費ハ現年度定額ヨリ支出スヘシ但シ豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキモノヲ除クノ外其ノ經費所屬年度ノ毎項定額中不用ト爲リタル金額ヲ超過スルコトヲ得ス

第三十條 出納ノ完結シタル年度ニ屬スル收入其ノ他豫算外ノ收入ハ總テ現年度ノ歳入ニ組入ルヘシ但シ支出濟歳出ノ返納金ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ各之ヲ支拂ヒタル經費ノ定額ニ戻入

ルルコトヲ得

### 第七章 契約

第三十一條 政府ニ於テ賣買貸借請負其ノ他ノ契約ヲ爲サムトスルトキハ勅令ヲ以テ定メタル場合ヲ除クノ外總テ公告シテ競争ニ付スヘシ

國務大臣前項ノ方法ニ依リ契約ヲ爲スヲ不利ト認ムル場合ニ於テハ「指名競争ニ付シ又ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得但シ不動産賣拂ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

### 第八章 時 效

第三十二條 金錢ノ給付ヲ目的トスル政府ノ權利ニシテ時效ニ關シ他ノ法律ニ規定ナキトキハ五年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス政府ニ對スル權利ニシテ金錢ノ給付ヲ目的トスルモノニ付亦同シ

第三十三條 金錢ノ給付ヲ目的トスル政府ノ權利ニ付消滅時效ノ中斷停止其ノ他ノ事項ニ關シ適用スヘキ他ノ法律ノ規定ナキトキハ民法ノ規定ヲ準用ス政府ニ對スル權利ニシテ金錢ノ給付ヲ目的トスルモノニ付亦同シ

第三十四條 法令ノ規定ニ依リ政府ノ爲ス納入ノ告知ハ民法第五百十三條ノ規定ニ拘ラス時效

會計法(歳計剩餘定額繰越過年度支出豫算外收入及定額戻入、契約、時效)二五三



中斷ノ效力ヲ有ス  
第九章 出納官吏

第三十五條 出納官吏ハ法令ノ定ムル所ニ依リ現金又ハ物品ヲ出納保管スヘシ  
出納官吏ハ其ノ出納保管ニ係ル現金又ハ物品ニ付一切ノ責任ヲ負ヒ會計検査院ノ検査判決ヲ受クヘシ

第三十六條 出納官吏其ノ保管ニ係ル現金又ハ物品ヲ亡失毀損シタルトキハ善良ナル管理者ノ注意ヲ怠ラサリシコトヲ會計検査院ニ證明シ責任解除ノ判決ヲ受クルニ非サレハ其ノ亡失毀損ニ付辨償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第三十七條 國務大臣ハ特ニ必要アル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ各廳ノ事務員ヲシテ現金又ハ物品ノ出納保管ヲ分掌セシムルコトヲ得  
出納官吏ニ關スル規定ハ前項ノ事務員ニ付之ヲ準用ス

第三十八條 第十五條ニ定メタル小切手振出ノ職務ハ現金出納ノ職務ト相兼ヌルコトヲ得ス  
第十章 雜則

第三十九條 特別ノ須要ニ因リ本法ニ準據シ難キモノアルトキハ特別會計ヲ設置スルコトヲ得

得

特別會計ヲ設置スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第四十條 政府ハ其ノ所有又ハ保管ニ係ル有價證券ノ取扱ヲ日本銀行ニ命スルコトヲ得

第四十一條 日本銀行ハ其ノ取扱ヒタル國庫金ノ出納、國債ノ發行ニ依ル收入金ノ收支、第十八條

又ハ第二十條ノ規定ニ依リ交付ヲ受ケタル資金ノ收支及前條ノ規定ニ依リ取扱ヒタル有價證券ノ受拂ニ關シ會計検査院ノ検査ヲ受クヘシ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

明治二十七年法律第十六號、明治三十三年法律第五十號及明治四十四年法律第二十四號ハ之ヲ廢止ス

本法施行前ニ爲シタル第二豫備金ノ支出竝本法施行ノ日ノ屬スル年度ノ前年度及前々年度ノ決算ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

本法施行前二期滿免除ト爲ラサル權利ニ付テハ本法其ノ他ノ法律中時効ニ關スル規定ヲ適用ス但シ其ノ期間ノ起算點ニ付テハ從前ノ規定ニ依ル



本法施行前ニ進行ヲ始メタル期間カ本法其ノ他ノ法律ニ定メタル時効ノ期間ヨリ長キトキハ從前ノ規定ニ依ル但シ其ノ殘期カ本法施行ノ日ヨリ起算シ本法其ノ他ノ法律ニ定メタル時効ノ期間ヨリ長キトキハ其ノ日ヨリ起算シテ本法其ノ他ノ法律ヲ適用ス  
前三項ニ規定スルモノヲ除クノ外本法ノ施行ニ關シ必要ナル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

### ○會計規則(大正十一年勅令第一號)

#### 第一章 總則

##### 第一節 會計年度所屬區分

第一條 歳入ノ年度所屬ハ左ノ區分ニ依ル

- 一 納期ノ一定シタル收入ハ其ノ納期末日ノ屬スル年度
  - 二 隨時ノ收入ニシテ納入ノ告知書ヲ發スルモノハ納入ノ告知書ヲ發シタル日ノ屬スル年度
  - 三 隨時ノ收入ニシテ納入ノ告知書ヲ發セサルモノハ領收ヲ爲シタル日ノ屬スル年度
- 第二條 歳出ノ年度所屬ハ左ノ區分ニ依ル

- 一 國債ノ元利、年金、恩給ノ類ハ支拂期日ノ屬スル年度
- 二 諸拂戻金、缺損補填金、償還金ノ類ハ其ノ決定ヲ爲シタル日ノ屬スル年度
- 三 俸給、給料、手當、旅費、手数料ノ類ハ其ノ支給スヘキ事實ノ生シタル時ノ屬スル年度
- 四 使用料、保管料、電燈電力料ノ類ハ其ノ支拂ノ原因タル事實ノ存シタル期間ノ屬スル年度
- 五 工事製造費、物件ノ購入代價、運賃ノ類ハ其ノ支拂ヲ爲スヘキ日ノ屬スル年度
- 六 前各號ニ該當セサル費用ニシテ繰替拂ヲ爲シタルモノハ其ノ繰替拂ヲ爲シタル日ノ屬スル年度、其ノ他ノモノハ小切手ヲ振出シタル日ノ屬スル年度

##### 第二節 國庫金ノ出納

第三條 日本銀行ハ本令ニ依ルノ外大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ 國庫金出納ノ事務ヲ取扱フヘシ

日本銀行ニ於テ受入レタル國庫金ハ政府預金トシ其ノ種別及受拂ニ關スル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

第四條 政府預金ニハ大藏大臣ノ特ニ定ムルモノ及政府ノ爲ニスル支拂ノ準備ニ必要ナル金額ヲ除クノ外總テ相當ノ利子ヲ附セシム

#### 會計規則(總則、會計年度所屬區分、國庫金ノ出納)



第五條 毎年度所屬歳入金ヲ日本銀行ニ於テ受入ルルハ翌年度四月三十日限トス但シ左ニ掲クルノ場合ニ於テハ翌年度五月三十一日迄之カ受入ヲ爲スコトヲ得

一 出納官吏ヨリ其ノ領收シタル歳入金ノ拂込アリタルトキ

二 市町村又ハ之ニ準スヘキモノヨリ其ノ收納シタル歳入金ノ送付アリタルトキ

三 國庫内ニ於テ移換ニ依ル歳入金ノ受入ヲ爲ストキ

毎年度所屬歳出金ヲ日本銀行ニ於テ支拂フハ翌年度五月三十一日限トス

第二章 豫算

第一節 總豫算

第六條 大藏大臣ハ歳入ノ景況ヲ調査シ 各省ノ豫定經費要求書ニ基キ歳入歳出總豫算ヲ調製スヘシ

總豫算ニハ歳計全體ニ關スル説明ヲ附スヘシ

第七條 歳入豫算ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シテ調製シ成ルヘク歳入ノ性質ヲ明ニスヘシ

第八條 歳出豫算ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シテ調製シ成ルヘク經費ノ目的ヲ明ニスヘシ

第九條 歳入歳出總豫算款項ノ區分ハ大藏大臣之ヲ定ム

第二節 歳入豫算明細書

第十條 大藏大臣ハ毎年度歳入ノ豫定高ヲ算定シ前年度ノ豫算額ト比較ヲ爲シ歳入豫算明細書ヲ調製スヘシ

歳入豫算明細書ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シ更ニ各項ノ金額ヲ各目ニ區分シ各項毎ニ増減ノ事由及計算ノ基ヲ示スヘシ

第三節 豫定經費要求書

第十一條 各省大臣ハ毎年度其ノ所管經費ノ豫定高ヲ算定シ前年度ノ豫算額ト比較ヲ爲シ豫定經費要求書ヲ調製シ前年度九月三十日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第十二條 各省ノ豫定經費要求書ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シ各項中所要ノ金額ヲ各目ニ區分シ必要ノ場合ニ於テハ更ニ之ヲ細分シ經費所要ノ理由及計算ノ基ヲ示スヘシ

目ノ區分ハ各省大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

第十三條 各省ノ豫定經費要求書ニハ 各省所管經費全體ニ關スル 説明及各款各項ノ説明ヲ附スヘシ

第四節 支拂豫算

會計規則(豫算、總豫算、歳入豫算明細書、豫定經費要求書、支拂豫算)



第十四條 各省大臣ハ毎年度決定ノ豫算定額ニ基キ支出官毎ニ所要ノ費額ヲ定メ支拂豫算ヲ調製シ之ヲ大藏大臣及會計検査院ニ送付スヘシ

支拂豫算ハ各款各項ノ金額ヲ示スヘシ

第十五條 支拂豫算ヲ更定シタルトキハ其ノ計算書ヲ大藏大臣及會計検査院ニ送付スヘシ

第十六條 大藏大臣支拂豫算又ハ其ノ更定計算書ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ日本銀行ニ通知スヘシ

第五節 豫備金支出

第十七條 豫備金ハ大藏大臣之ヲ管理ス

第十八條 第一豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途ハ毎年度豫メ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 各省大臣第二豫備金ノ支出ヲ要スルトキハ金額、理由及計算ノ基ク所ヲ明ニシタル要求書ヲ調製シ大藏大臣ノ承認ヲ經ヘシ

第二十條 大藏大臣第一豫備金ノ支出ヲ承認シタルトキハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第二十一條 各省大臣第二豫備金ノ支出ヲ要スルトキハ金額、理由及計算ノ基ク所ヲ明ニシタル要求書ヲ調製シ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第二十二條 大藏大臣ハ前條ノ要求書ヲ調査シ意見ヲ附シテ勅裁ヲ請フヘシ

第二十三條 第二豫備金支出ノ勅裁アリタルトキハ大藏大臣ハ金額、理由及計算ノ基ク所ヲ明ニシタル書類ヲ添ヘ之ヲ會計検査院ニ通知シ且其ノ事項及金額ヲ官報ニ掲載スヘシ

第二十四條 第一豫備金ヲ以テ補充シタル金額ハ各省大臣其ノ計算書ヲ調製シ各費途毎ニ説明ヲ附シ翌年度八月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

大藏大臣ハ第一豫備金支出ノ總計算書ヲ調製シ之ニ説明ヲ附シ各省大臣ヨリ送付シタル豫備金支出ノ計算書ト共ニ帝國議會ニ提出スルノ手續ヲ爲スヘシ

第二十五條 第二豫備金ヲ以テ支辨シタル金額ハ各省大臣其ノ調書ヲ調製シ各費途毎ニ説明ヲ附シ毎年度帝國議會常會ノ開會後直ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

大藏大臣ハ第二豫備金支出ノ總調書ヲ調製シ之ニ説明ヲ附シ各省大臣ヨリ送付シタル豫備金支出ノ調書ト共ニ帝國議會ニ提出スルノ手續ヲ爲スヘシ

第六節 翌年度ニ互ル契約

第二十六條 各省大臣災害事變其ノ他避クヘカラサル事由ノ爲會計法第十一條第二項ニ規定ニ依リ翌年度ニ互ル契約ヲ結フノ必要アリト認ムルトキハ金額、理由及計算ノ基ク所ヲ明ニシ

會計規則(豫備金支出、翌年度ニ互ル契約)

二六一



タル要求書ヲ調製シ大藏大臣ノ承認ヲ經ヘシ

第二十七條 大藏大臣前條ノ承認ヲ爲シタルトキハ金額、理由及計算ノ基ク所ヲ明ニシタル書類ヲ添ヘ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第三章 收入

第一節 徴收

第二十八條 歳入徴收官ハ法律又ハ勅令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外各省大臣ノ定ムル各廳ノ長ヲ以テ之ニ充ツ但シ各省大臣必要アリト認ムルトキハ大藏大臣ト協議シテ特例ヲ設クルコトヲ得

歳入徴收官必要アリト認ムルトキハ他ノ官吏ヲシテ其ノ徴收事務ノ一部ヲ分掌セシムルコトヲ得

第二十九條 支出濟ト爲リタル歳出ノ返納金ヲ歳入ニ組入レムトスル場合ニ於テハ該經費ヲ支出シタル支出官之カ歳入徴收官トシテ徴收ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十條 歳入徴收官租稅其ノ他ノ歳入ヲ徴收セムトスルトキハ法令ニ違フコトナキカ、所屬年度及歳入科目ヲ誤ルコトナキカヲ調査シ之ヲ決定スヘシ

第三十一條 歳入徴收官前條ノ決定ヲ爲シタルトキハ納人ニ對シ其ノ納付スヘキ金額、期日及場所ヲ記載シタル書面ヲ以テ納入ノ告知ヲ爲スヘシ但シ出納官吏又ハ出納員ニ即納セシムル場合ハ口頭ヲ以テ納入ノ告知ヲ爲スコトヲ得

第三十二條 納期ノ一定シタル收入ニシテ納期所屬ノ年度ニ於テ納入ノ告知書ヲ發セサルモノハ總テ納入ノ告知書ヲ發シタル年度ノ歳入ニ組入ルヘシ

第二節 收納

第三十三條 出納官吏又ハ出納員租稅其ノ他ノ歳入金ヲ收納シタルトキハ領收證書ヲ納人ニ交付スヘシ此ノ場合ニ於テハ出納官吏收納濟ノ旨ヲ歳入徴收官ニ報告スヘシ

第三十四條 出納官吏又ハ出納員ノ收納シタル現金ハ出納官吏之ヲ日本銀行ニ拂込ムヘシ  
第三十五條 日本銀行ニ於テ歳入金ヲ收納シ又ハ歳入金ノ拂込ヲ受ケタルトキハ領收證書ヲ納人又ハ拂込人ニ交付シ領收濟ノ旨ヲ歳入徴收官ニ報告スヘシ

第三十六條 毎年度所屬歳入金ヲ出納官吏又ハ出納員ニ於テ收納スルハ翌年度四月三十日限トス

第三節 報告

會計規則(收入、徴收、收納、報告)



第三十七條 歳入徴收官ハ毎月徴收報告書ヲ調製シ参照書類ヲ添へ之ヲ歳入事務管理廳ニ送付スヘシ

第三十八條 歳入事務管理廳ハ徴收報告書ニ依リ毎月徴收總報告書ヲ調製シ参照書類ヲ添へ其ノ翌月中ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第四章 支出

第一節 總則

第三十九條 勅令ヲ以テ指定シタル費途ニ對シテハ大藏大臣ノ承認ヲ經ルニ非サレハ之ニ他ノ費途ノ金額ヲ流用スルコトヲ得ス

大藏大臣前項ノ承認ヲ爲シタルトキハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第四十條 豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途及豫備金ヲ以テ支辨スル費途ノ金額ハ他ノ費途ニ流用スルコトヲ得ス

第四十一條 各省大臣他ノ官吏ヲシテ其ノ所管定額ノ支出ヲ爲サシメムトスルトキハ支拂豫算ヲ定メテ之ヲ委任スヘシ

第四十二條 支出官ニ事故アルトキハ各省大臣ハ臨時他ノ官吏ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシムル

コトヲ得

第四十三條 本章ノ規定ハ商法中小切手ニ關スル規定ノ適用ヲ妨ケス

第二節 小切手ノ振出

第四十四條 支出官ハ小切手振出前其ノ經費ハ豫算ノ目的ニ違フコトナキカヲ調査シ該經費ノ金額ヲ算定シ且該經費ハ支拂豫算額ニ超過スルコトナキカ、所屬年度及支出科目ヲ誤ルコトナ

キカヲ調査スヘシ

第四十五條 支出官ハ其ノ振出ス小切手ニ受取人ノ氏名、金額、年度、支出科目、番號其ノ他必要ナル事項ヲ記載スヘシ

第四十六條 小切手ハ一項毎ニ之ヲ振出スヘシ

第四十七條 支出官ノ振出ス小切手ハ大藏大臣ノ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外之ヲ記名式所持人拂ト爲スヘシ

第四十八條 支出官隔地ノ債主ニ支拂ヲ要スルトキハ支拂場所ヲ指定シ日本銀行ニ之カ資金ヲ

交付シ其ノ旨ヲ債主ニ通知スヘシ

前項ノ規定ハ隔地ノ出納官吏ニ資金ヲ交付スル場合ニ之ヲ準用ス

會計規則(支出、總則、小切手ノ振出)



第四十九條 支出官小切手ヲ振出シタルトキハ其ノ都度之ヲ日本銀行ニ通知スヘシ

第五十條 毎年度ニ屬スル經費ヲ精算シテ小切手ヲ振出スハ翌年度四月三十日限トス但シ國庫内ニ於ケル移換ノ爲ニスル支出又ハ會計法第十九條ノ規定ニ依リ歳出金ニ繰替使用シタル現金補填ノ爲ニスル支出ニ付テハ翌年度五月三十一日迄小切手ヲ振出スコトヲ得

第三節 支拂

第五十一條 小切手ノ呈示アリタルトキハ日本銀行ハ其ノ小切手カ法令ニ違フコトナキカ、券面金額カ支拂豫算各項定額ノ殘高二超過スルコトナキカヲ調査シ之カ支拂ヲ爲スヘシ

前項ノ小切手ニシテ其ノ振出日附ヨリ十日ヲ經過シタルモノト雖一年ヲ經過セサル場合ニ於テハ之カ支拂ヲ爲スヘシ

第五十二條 日本銀行第四十八條ノ規定ニ依リ資金ノ交付ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ小切手ノ振出日附ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ債主又ハ出納官吏ニ對シ之カ支拂ヲ爲スコトヲ得ス

第五十三條 毎年度小切手振出濟金額中翌年度五月三十一日迄ニ支拂ヲ了セサル金額ニ相當スル資金ハ會計法第二十六條ノ歳計剩餘ニ組入レス之ヲ繰越整理スヘシ

第五十四條 前條ノ規定ニ依リ繰越シタル資金中小切手振出日附ヨリ一年ヲ經過シ未タ其ノ支拂ヲ了セサル金額ニ相當スルモノハ之ヲ其ノ期間滿了ノ日ノ屬スル年度ノ歳入ニ組入ルヘシ

前項ノ規定ハ日本銀行第五十二條ノ場合ニ於テ支拂ヲ了セサル金額ニ相當スル資金ノ返納ニ付之ヲ準用ス

第五十五條 支出官小切手ノ所持人ヨリ償還ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テハ之ヲ調査シ償還スヘキモノト認ムルトキハ事由ヲ具シ 證憑書類ヲ添ヘ之ヲ所管大臣ニ提出シ所管大臣ハ審査ノ上之カ支拂ヲ大藏大臣ニ請求スヘシ

第五十六條 前條ノ規定ハ支出官第五十二條ノ場合ニ於テ其ノ支拂ヲ受ケサル債主又ハ出納官吏ヨリ更ニ支拂ノ請求ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第四節 資金前渡、前金拂、概算拂及渡切經費

第五十七條 會計法第十七條ノ規定ニ依リ主任ノ官吏ヲシテ現金支拂ヲ爲サシムル爲其ノ資金ヲ當該官吏ニ前渡スルハ左ニ掲クル經費ニ限ル

- 一 陸軍ノ軍隊、學校及病院並海軍ノ部隊、學校、病院及艦船ニ屬スル經費
- 二 陸海軍ノ行軍又ハ演習ニ要スル經費

會計規則(支拂、資金前渡、前金拂、概算拂及渡切經費)



- 三 陸軍ニ於テ馬匹又ハ糧秣ヲ生産者ヨリ直接購入スル場合ニ要スル經費
  - 四 官船ニ屬スル經費
  - 五 外國ニ於テ支拂ヲ爲ス經費
  - 六 運輸通信ノ不便ナル地方ニ於テ支拂ヲ爲ス經費
  - 七 廳中常用ノ雜費及旅費但シ一年ノ總額五千圓ヲ超ユルコトヲ得ス
  - 八 場所ノ一定セサル事務所ノ經費
  - 九 各廳直營ノ工事、製造又ハ造林ニ要スル經費但シ主任官ニ付常時五萬圓ヲ超ユルコトヲ得ス
  - 十 監獄作業賞與金
  - 十一 囚人及刑事被告人押送費
  - 十二 證人、鑑定人、通事又ハ參考人ニ支給スル旅費其ノ他ノ給與
- 第五十八條 前條ノ規定ニ依リ資金ヲ前渡スルハ左ノ區分ニ依ル
- 一 常時ノ費用ニ係ルモノハ每一月分以内ノ費額ヲ豫定シテ交付スヘシ但シ外國ニ於テ支拂ヲ爲ス經費、運輸通信ノ不便ナル地方ニ於テ支拂ヲ爲ス經費又ハ支拂場所ノ一定セサル經費

費ハ事務ノ必要ニ依リ六月分以内ヲ交付スルコトヲ得

二 隨時ノ費用ニ係ルモノハ所要ノ費額ヲ豫定シ事務上差支ナキ限り成ルヘク分割シテ交付スヘシ

第五十九條 會計法第二十一條ノ規定ニ依リ前金拂ヲ爲シ得ルハ左ニ掲クル經費ニ限ル但シ第九號乃至第十三號ニ掲クル經費ニ付テハ所管大臣大藏大臣ト協議スルコトヲ要ス

- 一 軍艦、兵器又ハ彈藥ノ代價
  - 二 外國ヨリ直接購入スル機械又ハ圖書ノ代價
  - 三 朝鮮、臺灣、樺太、關東州又ハ南洋群島内ニ居住スル者ニ支給スル徴兵旅費
  - 四 運賃
  - 五 外國ニ於テ支拂ヲ要スル土地又ハ家屋ノ借料及公課
  - 六 政府ノ買収又ハ收用ニ係ル土地ノ上ニ存スル物件ノ移轉料
  - 七 官公署ニ對シ支拂フヘキ經費
  - 八 外國ニ於テ研究又ハ調査ニ從事スル者ニ支給スル學資金其ノ他ノ給與
  - 九 交通至難ノ場所ニ勤務スル者又ハ艦船乗組ノ者ニ支給スル俸給其ノ他ノ給與
- 會計規則(資金前渡、前金拂、概算拂及渡切經費)



十 軍人、軍屬及陸海軍ノ職工ニ支給スル旅費

十一 外國在勤陸海軍武官ニ支給スル俸給其ノ他ノ給與

十二 補助金

十三 諸謝金

第六十條 會計法第二十一條ノ規定ニ依リ概算拂ヲ爲シ得ルハ左ニ掲クル經費ニ限ル但シ第三號ニ掲クル經費ニ付テハ所管大臣大藏大臣ト協議スルコトヲ要ス

一 旅費

二 官公署ニ對シ支拂フヘキ經費

三 補助金又ハ補給金

第六十一條 會計法第二十二條ノ規定ニ依リ事務費ノ全部又ハ一部ヲ主務官吏ニ對シ渡切ヲ以テ支給シ得ルハ左ニ掲クル官署ノ經費ニ限ル

一 在外各廳

二 遞信官署

三 區裁判所出張所

四 朝鮮、臺灣、樺太、關東州及南洋群島ニ於ケル官署

前項ノ官署ノ種類、渡切ト爲スヘキ歲出科目及支給方法ハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

第五節 繰替拂

第六十二條 各省大臣ハ左ニ掲クル經費ノ支拂ヲ爲サシムル爲出納官吏ヲシテ其ノ保管ニ係ル前渡ノ資金ヲ繰替使用セシムルコトヲ得但シ第四號ニ掲クル經費ニ繰替使用スヘキ資金ハ艦船經費繰替金ニ限ル

一 旅費

二 埋葬費

三 在外公館ニ於ケル難民貸與金

四 海軍省所管艦船經費

第六十三條 所管大臣ハ左ニ掲クル官署ノ出納官吏又ハ出納員ヲシテ其ノ取扱ニ係ル歲入金、歲出金及歲入歲出外現金ヲ交互ニ繰替使用セシムルコトヲ得

一 鐵道官署

會計規則(資金前渡、前金拂、概算拂及渡切經費、繰替拂)



二 遞信官署

前項ノ規定ニ依ル現金ノ繰替使用ニ關スル手續ハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

第六節 年度開始前支出

第六十四條 各省大臣ハ資金前渡ヲ爲シ得ル經費ニ限り 必要已ムヲ得サル場合ニ於テハ當該年度開始前之カ資金ヲ交付スルコトヲ得

第六十五條 前條ノ場合ニ於テハ各省大臣其ノ前渡ヲ要スル經費ヲ算定シ計算書ヲ調製シ之ヲ

大藏大臣及會計検査院ニ送付スヘシ

大藏大臣前項ノ計算書ノ送付ヲ受ケタルトキハ審査ノ上之ヲ日本銀行ニ通知スヘシ

第七節 報告

第六十六條 支出官ハ毎月支出濟額報告書ヲ調製シ之ヲ所管大臣ニ送付スヘシ

第六十七條 所管大臣ハ支出濟額報告書ニ依リ 毎月支出總報告書ヲ調製シ 支出濟額報告書ヲ添

ヘ其ノ翌月中ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第五章 決算

第一節 總決算

第六十八條 歳入歳出總決算ハ總豫算ト同一ノ區分ニ依リ大藏大臣之ヲ調製スヘシ

第六十九條 大藏大臣ハ總決算ニ歳入決算明細書、各省決算報告書及國債計算書ヲ添ヘ會計検査

院ニ送付ノ手續ヲ爲スヘシ

第七十條 大藏大臣ハ歳入豫算明細書ト同一ノ區分ニ依リ 歳入決算明細書ヲ調製シ各項毎ニ豫

算ニ對スル増減ノ事由ヲ説明スヘシ

第七十一條 歳入事務管理廳ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ 毎年度收入濟歳入額ニ付豫算ニ對ス

ル増減計算書ヲ調製シ翌年度七月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第七十二條 各省大臣ハ各省豫定經費要求書ト同一ノ區分ニ依リ其ノ省所管ニ屬スル經費ノ決

算報告書ヲ調製シ翌年度七月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第七十三條 歳入徴收官ハ會計検査院ニ證明ノ爲歳入徴收額計算書ヲ調製シ證據書類ヲ添ヘ其

ノ歳入事務管理廳ニ送付シ歳入事務管理廳ハ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第七十四條 支出官ハ會計検査院ニ證明ノ爲支出計算書ヲ調製シ證據書類ヲ添ヘ其ノ所管大臣

ニ送付シ所管大臣ハ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

會計規則 (年度開始前支出、報告、決算、總決算、歳入決算明細書、各省決算報告書及收入支出計算書)



第七十五條 前二條ノ計算書ハ歳入事務管理廳又ハ所管大臣ヨリ特ニ委任ヲ受ケタル官吏ヲシテ直ニ之ヲ會計検査院ニ送付セシムルコトヲ得

第三節 國債計算書

第七十六條 國債計算書ハ大藏大臣之ヲ調製スヘシ

第七十七條 國債計算書ニハ左ニ掲クル事項ヲ示スヘシ

- 一 當該年度末日ニ於ケル國債ノ種類及現在高ヲ示ス計算
- 二 當該年度ニ於テ償還シ及支拂ヒタル各種國債ノ元高及利子ノ計算
- 三 最近五年度間ニ於ケル各種國債増減ノ情況ヲ示ス計算

第六章 定額繰越及定額戻入

第一節 定額繰越

第七十八條 各省大臣會計法第二十七條及第二十八條ノ規定ニ依リ定額ノ繰越ヲ要スルトキハ翌年度四月三十日迄ニ繰越計算書ヲ調製シ各事件毎ニ其ノ事由ヲ示シ大藏大臣ノ承認ヲ求ム

繰越計算書ハ歳出豫算ト同一ノ區分ニ依リ調製シ左ニ掲クル事項ヲ示スヘシ

- 一 繰越ヲ要スル項ノ定額
  - 二 定額中支出済ト爲リタル額及當該年度所屬トシテ支出スヘキ額
  - 三 定額中翌年度ニ繰越ヲ要スル額
  - 四 定額中不用ト爲ルヘキ額
- 第七十九條 會計法第二十七條ノ規定ニ依リ繰越ヲ爲サムトスルトキハ豫算ニ於テ明許シタル場合ヲ除クノ外前條ノ繰越計算書ニ契約書ノ寫其ノ他ノ參照書類ヲ添付スヘシ
- 第八十條 大藏大臣各省定額ノ繰越ヲ承認シタルトキハ繰越計算書ノ寫ヲ添ヘ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第二節 定額戻入

第八十一條 支出済ト爲リタル歳出ノ返納金ハ其ノ支拂ヒタル經費ノ定額ニ之ヲ戻入ルルコトヲ得但シ重大ナル過失ニ因リ誤拂過渡ト爲リタル金額ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第八十二條 支出官前條ノ規定ニ依リ定額ニ戻入レムトスルトキハ返納人ヲシテ其ノ金額ヲ送納セシムヘシ

第八十三條 日本銀行ニ於テ前條ノ返納金ヲ領收シタルトキハ之ニ相當スル金額ヲ支拂豫算定

會計規則(國債計算書、定額繰越及定額戻入、定額繰越、定額戻入)



額ニ戻入ノ記帳ヲ爲シ其ノ旨ヲ支出官ニ通知スヘシ

第八十四條 毎年度ニ屬スル定額戻入ヲ爲スハ翌年度四月三十日限トス

第八章 第七章 契約

第一節 總則

第八十五條 各省大臣又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏契約ヲ爲サムトスルトキハ契約ノ目的、履行期限、保證金額、契約違反ノ場合ニ於ケル保證金ノ處分、危險ノ負擔其ノ他必要ナル事項ヲ詳細ニ記載シタル契約書ヲ作成スヘシ

第八十六條 契約書ニハ當該官吏記名捺印スルコトヲ要ス

第八十七條 各省大臣ハ左ニ掲クル場合ニ於テハ第八十五條ニ規定スル契約書ヲ作成ヲ省略スルコトヲ得但シ第五號ノ場合ニ於テハ大藏大臣ト協議スルコトヲ要ス

一 三千圓ヲ超エサル指名競争契約又ハ隨意契約ヲ爲ストキ

二 外國ニ於テ五千圓ヲ超エサル指名競争契約又ハ隨意契約ヲ爲ストキ

三 糶賣ニ付スルトキ

四 物品賣拂ノ場合ニ於テ買受人直ニ代金ヲ納付シ其ノ物品ヲ引取ルトキ

第五 第一號及第二號以外ノ隨意契約ニ付各省大臣契約書ヲ作成スルノ必要ナシト認ムルト

キ

第八十八條 政府ト契約ヲ結ハムトスル者ハ現金又ハ國債ヲ以テ契約金額百分ノ十以上ノ保證

金ヲ納ムヘシ

指名競争ニ付シ又ハ隨意契約ニ依ル場合ニ於テハ各省大臣ハ保證金ノ全部又ハ一部ヲ免除スルコトヲ得前條第三號及第四號ノ場合亦同シ

第八十九條 契約者其ノ義務ヲ履行セサルトキハ契約ニ別段ノ定メアル場合ヲ除クノ外保證金

ハ政府ノ所得トス

第九十條 政府ニ屬スル財産ノ賣拂ヲ爲ストキハ法律勅令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ引渡前又ハ移轉ノ登記若ハ登錄前其ノ代金ヲ完納セシムヘシ

第九十一條 財産ノ貸付料ハ法律勅令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外之ヲ前納セシムヘシ但シ貸付期間ノ長期ニ涉ルモノニ付テハ毎年定期ニ之ヲ納付セシムルコトヲ得

第九十二條 各省大臣三千圓ヲ超ユル工事、製造又ハ物件ノ買入ニ付テハ竣功又ハ完納ノ後之ヲ監督又ハ検査シタル官吏又ハ技術者ヲシテ其ノ調書ヲ作成セシムヘシ



契約ニ依リ工事若ハ製造ノ既濟部分又ハ物件ノ既納部分ニ對シ完濟前又ハ完納前ニ代價ノ一部分ヲ支拂ハムトスルトキハ各省大臣ハ特ニ検査ノ官吏又ハ技術者ヲ命シ事實ヲ調定シテ其ノ調書ヲ作成セシムヘシ

前各項ノ調書ニ依ルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス

第九十三條 前條第二項ノ支拂ヲ爲サムトスルトキハ工事又ハ製造ニ付テハ其ノ既濟部分ニ對スル代價ノ十分ノ九、物件ノ買入ニ付テハ其ノ既納部分ニ對スル代價ヲ超ユルコトヲ得ス但シ箇々ニ分立シ得ヘキ性質ノ工事又ハ製造ニ於ケル各箇ノ完濟部分ニ對シテハ其ノ代價ノ全額迄ヲ支拂フコトヲ得

第九十四條 前二條ノ規定ハ工事又ハ製造以外ノ請負契約ノ全部又ハ一部ノ履行ニ對シ支拂ヲ爲サムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第九十五條 本章ニ定ムルモノノ外契約ニ關シ必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

第九十六條 一般ノ競争ニ加ラムトスル者ニ必要ナル資格ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依ル

第九十七條 各省大臣ハ左ノ各號ノ一ニ該當スト認メタル者ヲ爾後二年間競争ニ加ラシメサル

コトヲ得之ヲ代理人、支配人、番頭、手代又ハ技術者トシテ使用シタル者亦同シ

一 契約ヲ履行スルニ當リ故意ニ工事、製造又ハ物件ヲ粗糲ニシ又ハ其ノ品質數量ニ關シ欺罔ノ行爲アリタル者

二 競争ニ際シ不當ニ價格ヲ競上ケ又ハ競下クル目的ヲ以テ連合ヲ爲シタル者

三 競争ノ加入ヲ妨害シ又ハ競落者ノ契約締結若ハ契約ノ履行ヲ妨害シタル者

四 検査監督ニ際シ掛員ノ職務執行ヲ妨ケタル者

五 正當ノ理由ナクシテ契約ヲ履行セサリシ者

六 前各號ノ一ニ該當スト認メラレタル後二年ヲ經過セサル者ヲ契約ニ際シ代理人、支配人、番頭、手代又ハ技術者トシテ使用スル者

第九十八條 各省大臣ハ前條ノ規定ニ該當スル者ヲ入札代理人トシテ使用スル者ヲ競争ニ加ラシメサルコトヲ得

第九十九條 競争ニ加ラムトスル者ハ現金又ハ國債ヲ以テ見積金額百分ヲ五以上ノ保證金ヲ納ムヘシ

第一百條 競落者契約ヲ結ハサルトキハ保證金ハ政府ノ所得トス



第一百一條 競争ハ第九條ニ規定スル場合ヲ除クノ外總テ入札ノ方法ヲ以テ之ヲ行フヘシ  
 第一百二條 入札ノ方法ニ依リ競争ニ付セムトスルトキハ其ノ入札期日ノ前日ヨリ起算シ少クトモ十日前ニ官報、新聞紙、揭示其ノ他ノ方法ヲ以テ公告スヘシ但シ急ヲ要スル場合ニ於テハ其ノ期間ヲ五日迄ニ短縮スルコトヲ得

- 第一百三條 前條ノ公告ニハ左ニ掲クル事項ヲ示スヘシ
- 一 競争入札ニ付スル事項
  - 二 契約條項ヲ示ス場所
  - 三 競争執行ノ場所及日時
  - 四 入札ノ保證金額

第一百四條 各省大臣又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ハ其ノ競争入札ニ付スル事項ノ價格ヲ豫定シ其ノ豫定價格ヲ封書トシ開札ノトキ之ヲ開札場所ニ置クヘシ  
 第一百五條 開札ハ公告ニ示シタル場所、日時ニ入札者ノ面前ニ於テ之ヲ行フヘシ但シ入札者ニシテ出席セサル者アルトキハ入札ニ關係ナキ官吏ヲシテ開札ニ立會ハシムヘシ  
 入札者ハ一旦提出シタル入札書ノ引換、變更又ハ取消ヲ爲スコトヲ得ス

競争加入ノ資格ナキ者ノ爲シタル入札又ハ入札ニ關スル條件ニ違反シタル入札ハ無効トス  
 第一百六條 開札ノ場合ニ於テ各人ノ入札中第四百四條ノ規定ニ依リ豫定シタル價格ノ制限ニ達シタルモノナキトキハ直ニ再度ノ入札ヲ爲サシムルコトヲ得  
 第一百七條 落札ト爲ルヘキ同價ノ入札ヲ爲シタル者二人以上アルトキハ直ニ抽籤ヲ以テ落札者ヲ定ムヘシ  
 前項ノ場合ニ於テ當該入札者中出席セサル者又ハ抽籤ヲ爲ササル者アルトキハ入札ニ關係ナキ官吏ヲシテ之ニ代リ抽籤ヲ爲サシムヘシ

第一百八條 入札者若ハ落札者ナキ場合又ハ落札者契約ヲ結ハサル場合ニ於テ更ニ入札ニ付セムトスルトキハ第九條ノ期間ハ五日迄ニ之ヲ短縮スルコトヲ得  
 第一百九條 各省大臣動産ノ賣拂ニ付特別ノ事由ニ因リ必要アリト認ムル場合ニ於テハ大藏大臣ト協議シ本節ノ規定ニ準シ糶賣ニ付スルコトヲ得

第三節 指名競争契約  
 第一百十條 會計法第三十一條第二項ノ規定ニ依ルノ外左ニ掲クル場合ニ於テハ指名競争ニ付スルコトヲ得



- 一 契約ノ性質又ハ目的ニ依リ競争ニ加ルヘキ者少數ニシテ一般ノ競争ニ付スルノ必要ナキトキ
  - 二 一萬圓ヲ超エサル工事若ハ製造ヲ爲サシメ又ハ五千圓ヲ超エサル財産ノ買入ヲ爲ストキ
  - 三 賃借料年額又ハ總額三千圓ヲ超エサル物件ノ借入ヲ爲ストキ
  - 四 豫定貸貸料年額又ハ總額千圓ヲ超エサル物件ノ貸付ヲ爲ストキ
  - 五 豫定代價二千圓ヲ超エサル財産ノ賣拂ヲ爲ストキ
  - 六 前四號以外ノ契約ニシテ其ノ金額四千圓ヲ超エサルトキ
- 隨意契約ニ依ルコトヲ得ヘキ場合ニ於テハ指名競争ニ付スルコトヲ妨ケス
- 第百十一條 指名競争ニ付セムトスルトキハ成ルヘク五人以上ノ入札者ヲ指定スヘシ
- 前項ノ場合ニ於テハ第百三條ニ規定シタル事項ヲ各入札者ニ通知スヘシ
- 第百十二條 各省大臣會計法第三十八條第二項ノ規定ニ依リ指名競争ニ付シテ契約ヲ結ビタルトキハ事由ヲ詳具シ直ニ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ
- 第百十三條 第九十七條乃至第百一條第百四條乃至第百七條ノ規定ハ指名競争契約ノ場合ニ之ヲ準用ス

各省大臣必要ナシト認ムル場合ニ於テハ第九十九條ノ保證金ハ之ヲ免除スルコトヲ得

第四節 隨意契約

第百十四條 會計法第三十一條第二項ノ規定ニ依ルノ外左ニ掲クル場合ニ於テハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

- 一 契約ノ性質又ハ目的カ競争ヲ許ササルトキ
- 二 急迫ノ際競争ニ付スルノ暇ナキトキ
- 三 政府ノ行爲ヲ祕密ニスルノ必要アルトキ
- 四 五千圓ヲ超エサル工事若ハ製造ヲ爲サシメ又ハ三千圓ヲ超エサル財産ノ買入ヲ爲ストキ
- 五 賃借料年額又ハ總額千五百圓ヲ超エサル物件ノ借入ヲ爲ストキ
- 六 豫定貸貸料年額又ハ總額五百圓ヲ超エサル物件ノ貸付ヲ爲ストキ
- 七 豫定代價千圓ヲ超エサル財産ノ賣拂ヲ爲ストキ
- 八 前四號以外ノ契約ニシテ其ノ金額二千圓ヲ超エサルトキ
- 九 勞力ノ供給ヲ請負ハシムルトキ
- 十 運送又ハ保管ヲ爲サシムルトキ

會計規則(隨意契約)



- 十一 官廳相互間ニ於テ契約ヲ爲ストキ
- 十二 農工場、學校、試験所、監獄其ノ他之ニ準スヘキモノノ生産又ハ製造ニ係ル物品ノ賣拂ヲ爲ストキ
- 十三 法律勅令ノ規定ニ依リ財産ノ讓與又ハ無償貸付ヲ爲シ得ル者ニ其ノ財産ノ賣拂又ハ貸付ヲ爲ストキ
- 十四 非常災害アリタル場合ニ於テ罹災者ニ政府ノ生産ニ係ル建築材料ノ賣拂ヲ爲ストキ
- 十五 外國ニ於テ契約ヲ爲ストキ
- 十六 道府縣市町村其ノ他ノ公法人、公益法人、産業組合又ハ慈惠ノ爲ニ設立シタル教育所ヨリ直接ニ物件ノ買入又ハ借入ヲ爲ストキ
- 十七 移住地域内ニ於ケル土木工事ヲ其ノ移住民ノ共同請負ニ付スルトキ
- 十八 學術又ハ技藝ノ保護獎勵ノ爲之ニ必要ナル物件ノ賣拂又ハ貸付ヲ爲ストキ
- 十九 産業又ハ拓殖事業ノ保護獎勵ノ爲之ニ必要ナル物件ノ賣拂若ハ貸付ヲ爲ストキ又ハ生産者ヨリ直接ニ其ノ生産若ハ製造ニ係ル物品ノ買入ヲ爲ストキ
- 二十 公共用、公用又ハ公益事業ニ供スル爲必要ナル物件ヲ直接ニ公共團體又ハ起業者ニ賣

拂又ハ貸付ヲ爲ストキ

二十一 土地、建物、林野又ハ其ノ産物ヲ之ニ特別ノ緣故アル者ニ賣拂又ハ貸付ヲ爲ストキ

二十二 事業經營上特ニ必要ナル物品ノ買入ヲ爲シ若ハ製造ヲ爲サシメ又ハ土地建物ノ借入ヲ爲ストキ

二十三 法律勅令ノ規定ニ依リ問屋業者ニ販賣ヲ委託スルトキ又ハ之ヲシテ販賣ヲ爲サシムルトキ

前項第十九號乃至第二十三號ノ場合ニ於テハ所管大臣豫メ大藏大臣ト協議スルコトヲ要ス

前項ノ協議ヲ遂ケタルトキハ大藏大臣直ニ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第百十五條 競争ニ付スルモ入札者ナキトキ又ハ再度ノ入札ニ付スルモ落札者ナキトキハ隨意

契約ニ依ルコトヲ得但シ保證金及期限ヲ除クノ外最初競争ニ付スルトキ定メタル價格其ノ他

ノ條件ヲ變更スルコトヲ得ス

第百十六條 落札者契約ヲ結ハサルトキハ其ノ落札金額ノ制限内ニ於テ隨意契約ニ依ルコトヲ

得但シ期限ヲ除クノ外最初競争ニ付スルトキ定メタル條件ヲ變更スルコトヲ得ス

第百十七條 前二條ノ場合ニ於テ豫定價格又ハ落札金額ヲ分割計算シ得ル場合ニ限り該價格又



ハ金額ノ制限内ニ於テ各目的ニ付之ヲ數人ニ分割シテ契約ヲ爲スコトヲ妨ケス  
第百十八條 隨意契約ニ依ラムトスルトキハ成ルヘク二人以上ヨリ見積書ヲ徴スヘシ  
第百十九條 各省大臣會計法第三十一條第二項ノ規定ニ依リ隨意契約ニ依リタル場合ニ於テハ  
事由ヲ詳具シ直ニ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第八章 保管金及有價證券

第百二十條 政府ハ法律勅令ノ規定ニ依ルニ非サレハ公有又ハ私有ノ現金又ハ有價證券ヲ保  
管セス

第百二十一條 政府ノ保管ニ係ル現金ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ之ヲ大藏省預金部ニ預入ル  
ヘシ

第百二十二條 政府ノ所有又ハ保管ニ係ル有價證券ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ日本銀行ヲシ  
テ之カ取扱ヲ爲サシム

第百二十三條 政府ノ保管ニ係ル現金又ハ政府ノ所有若ハ保管ニ係ル有價證券ノ取扱手續ニ關  
シテハ法律勅令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外大藏大臣之ヲ定ム

第九章 出納官吏

第一節 總則

第百二十四條 本令ニ於テ出納官吏ト稱スルハ現金ノ出納保管ヲ掌ル官吏ヲ謂フ

第百二十五條 出納官吏ハ各省大臣又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏之ヲ命ス  
第百二十六條 各省大臣又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏必要アリト認ムルトキハ出納官吏ノ代理  
官又ハ分任官ヲ置クコトヲ得

前項ノ代理官ハ出納官吏ノ事務ノ全部ヲ代理シ分任官ハ其ノ一部ヲ分掌スルモノトス  
第百二十七條 所管大臣ハ會計法第三十七條ノ規定ニ依リ左ニ掲クル官署ノ事務員ヲシテ現金  
ノ出納保管ニ關スル事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

一 鐵道官署  
二 遞信官署

前項ノ外特別ノ必要アル場合ニ於テハ各省大臣大藏大臣ト協議シ其ノ應ノ事務員ヲシテ現金  
ノ出納保管ニ關スル事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

第百二十八條 前條ノ規定ニ依リ現金ノ出納保管ニ關スル事務ヲ分掌ヲ命セラレタル事務員ハ  
主任出納官吏又ハ分任出納官吏所屬ノ出納員トシテ其ノ事務ヲ取扱フヘシ



第二百二十九條 出納員ノ領收シタル現金ハ之ヲ所屬出納官吏ニ拂込ムヘシ但シ所管大臣ニ於テ必要アリト認ムルトキハ他ノ出納官吏又ハ出納員ニ交付セシムルコトヲ得

第三百十條 出納官吏又ハ出納員其ノ保管ニ屬スル現金ヲ亡失シ又ハ其ノ行爲ニ因リ政府ニ損失ヲ生セシメタル場合ニ於テハ所管大臣ハ遲滯ナク之ヲ大藏大臣及會計検査院ニ通知スヘシ

第三百十一條 出納官吏及出納員ハ本令ニ定ムルモノヲ除クノ外大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ現金ヲ出納保管ヲ爲スヘシ

第二節 責任

第三百十二條 出納官吏ハ其ノ責任ニ屬スル現金ノ出納保管ニ付單ニ自ラ事務ヲ執ラサルコトヲ理由トシテ其ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ス但シ其ノ代理官、分任官又ハ所屬出納員ノ行爲ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ出納員ノ責任ニ付之ヲ準用ス

第三百十三條 代理出納官吏、分任出納官吏又ハ出納員ハ其ノ行爲ニ付會計法第三十五條ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ス

第三百十四條 各省大臣ハ出納官吏又ハ出納員ノ行爲ニ因リ政府ニ損失ヲ生セシメタリト認ムル場合ニ於テハ會計検査院ノ判決前ト雖其ノ出納官吏又ハ出納員ニ對シ辨償ヲ命スルコトヲ得

第三百十五條 前條ノ場合ニ於テ其ノ辨償ヲ命セラレタル出納官吏又ハ出納員其ノ責ヲ免ルヘキ理由アリト信スルトキハ計算書ヲ調製シ證據書類ヲ添ヘ所管大臣ヲ經由シテ之ヲ會計検査院ニ送付シ其ノ判決ヲ求ムルコトヲ得

所管大臣ハ前項ノ場合ト雖其ノ命シタル損失金ノ辨償ヲ猶豫セス

會計検査院ニ於テ出納官吏又ハ出納員ニ對シ辨償ノ責ナシト判決シタルトキハ其ノ既納ニ係ル辨償金ハ直ニ之ヲ還付スヘシ

第三節 検査及證明

第三百十六條 出納官吏ノ帳簿金櫃ハ毎年三月三十一日又ハ轉免、死亡、退職其ノ他異動アリタルトキ所管大臣検査員ヲ命シテ之ヲ検査セシムヘシ但シ臨時ニ資金ノ前渡ヲ受ケタル官吏ノ帳簿金櫃ハ定時ノ検査ヲ要セス

大藏大臣又ハ各省大臣必要アリト認ムルトキハ臨時ニ検査員ヲ命シテ出納官吏又ハ出納員ノ



帳簿金櫃ヲ検査セシムヘシ

第三百三十七條 前條ノ検査ヲ執行スルニ當リ當該出納官吏又ハ出納員事故ニ因リ自ラ検査ヲ受クルコト能ハサルトキハ其ノ代理者又ハ特ニ所管大臣ノ命シタル官吏ニ於テ立會ヲ爲スヘシ

第三百三十八條 出納官吏又ハ出納員ノ帳簿金櫃ヲ検査シタルトキハ檢定書二通ヲ作成シ検査員及當該出納官吏、出納員又ハ立會人之ニ記名捺印シ一通ハ當該出納官吏、出納員又ハ立會人ニ交付シ一通ハ所管大臣ニ提出スヘシ

第三百三十九條 出納官吏又ハ出納員他ノ公金ノ出納ヲ兼掌スルトキハ金櫃ノ検査ヲ執行スル者ハ併セテ他ノ公金ノ検査ヲ行フヘシ

第四百十條 租稅其ノ他ノ歳入金ノ收納ヲ掌ル官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲出納計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ歳入徵收官ヲ經由シテ之ヲ會計検査院ニ提出スヘシ

第四百十一條 資本ノ前渡ヲ受ケタル官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲出納計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ支出官ヲ經由シテ之ヲ會計検査院ニ提出スヘシ

第四百十二條 歳入歳出外現金ノ出納ヲ掌ル官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲出納計算

書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ所管大臣又ハ其ノ指定シタル官吏ヲ經由シテ之ヲ會計検査院ニ提出スヘシ

第四百十三條 第六十三條ノ規定ニ依リ現金ノ繰替使用ヲ爲ス官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲出納計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ所管大臣又ハ其ノ指定シタル官吏ヲ經由シテ之ヲ會計検査院ニ提出スヘシ

第四百十四條 分任出納官吏ノ出納ハ總テ主任出納官吏ノ計算トシ出納員ノ出納ハ總テ所屬出納官吏ノ計算トシテ取扱ヒ其ノ報告書及計算書ハ各別ニ提出スルコトヲ要セス但シ所管大臣又ハ會計検査院ニ於テ必要アリト認ムルトキハ特ニ分任出納官吏又ハ出納員ヲシテ報告書又ハ計算書ヲ提出セシムルコトアルヘシ

第四百十五條 出納官吏交替シタルトキハ其ノ在職期間ニ執行シタル出納ノ計算書ヲ調製シ第四百四十條乃至第四百四十三條ノ手續ヲ爲スヘシ

第四百十六條 出納官吏又ハ出納員死亡其ノ他ノ事故ニ因リ自ラ計算書ヲ調製スルコト能ハサルトキハ所管大臣ノ命シタル官吏ヲシテ之ヲ調製セシムヘシ

出納官吏又ハ出納員定期内ニ計算書ヲ送付セサルトキハ所管大臣ハ他ノ官吏ニ命シテ之ヲ調



製セシムヘシ

前二項ノ規定ニ依リ調製シタル計算書ハ出納官吏又ハ出納員ノ自ラ調製シタルモノト看做シ  
會計検査院ニ於テ検査判決ヲ爲スヘシ

第四百十七條 出納官吏又ハ出納員ノ計算書ハ提出ノ後修正變更スルコトヲ得ス

第四百十八案 日本銀行ノ計算報告及出納證明

第四百十八案 日本銀行ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ國庫金ノ出納報告書ヲ大藏大臣ニ提出ス  
ヘシ

第四百十九條 日本銀行ハ會計検査院ノ検査ヲ受クル爲國庫金ノ出納計算書ヲ調製シ證憑書類  
ヲ添ヘ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

日本銀行ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ國債ノ發行ニ依ル收入金、國債元利拂資金及隔地者拂資  
金ノ收支ヲ整理シ之ヲ前項ノ計算書ニ記掲スヘシ

大藏大臣ハ第一項ノ計算書ヲ調査シ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第四百十條 日本銀行ハ會計検査院ノ検査ヲ受クル爲政府ノ所有又ハ保管ニ係ル有價證券受拂  
計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

大藏大臣ハ前項ノ計算書ヲ調査シ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ  
第四百十一條 政府ノ爲ニ取扱フ現金又ハ有價證券ノ出納保管ニ關シ政府ニ損害ヲ與ヘタル場  
合ニ於ケル日本銀行ノ賠償責任ニ付テハ民法及商法ニ依ル

第十一章 帳簿

第四百十二條 大藏省ハ日記簿、原簿及補助簿ヲ備ヘ國庫金ノ出納ヲ登記スヘシ

第四百十三條 大藏省ハ歳入歳出ノ主計簿ヲ備ヘ歳入ノ豫算額、調定濟額、收入濟  
額、不納缺損額及收入未濟額ヲ登記シ歳出ノ主計簿ニハ歳出ノ豫算額、豫算決定後増加額、支出濟  
額、翌年度繰越額及殘額ヲ登記スヘシ

第四百十四條 歳入徴收官ハ徴收簿ヲ備ヘ歳入ノ調定濟額、收入濟額、不納缺損額及收入未濟額ヲ  
登記スヘシ

第四百十五條 歳入事務管理廳ハ歳入簿ヲ備ヘ歳入ノ豫算額、調定濟額、收入濟額、不納缺損額及  
收入未濟額ヲ登記スヘシ

第四百十六條 支出官ハ支出簿ヲ備ヘ歳出ノ支拂豫算額、支出濟額及支拂豫算殘額ヲ登記スヘ  
シ

會計規則(日本銀行ノ計算報告及出納證明、帳簿)



第一百五十七條 各省ハ歳出簿ヲ備ヘ歳出ノ豫算額豫算決定後増加額、支出濟額、翌年度繰越額及殘額ヲ登記スヘシ

第一百五十八條 出納官吏及出納員ハ現金出納簿ヲ備ヘ現金ノ出納ヲ登記スヘシ

第一百五十九條 前七條ニ規定スル帳簿ノ様式及記入ノ方法ハ大藏大臣之ヲ定ム

第一百六十條 日本銀行ハ左ニ掲クル帳簿ヲ備ヘ政府ノ爲ニ取扱フ現金ノ出納又ハ有價證券ノ受拂ヲ登記スヘシ

一 國庫金ノ出納ヲ登記スヘキ帳簿

二 支拂豫算額及支拂濟額ヲ登記スヘキ帳簿

三 國債ノ發行ニ依ル收入金ニ關スル出納ヲ登記スヘキ帳簿

四 國債元利拂資金ノ出納ヲ登記スヘキ帳簿

五 隔地者拂資金ノ收支ヲ登記スヘキ帳簿

六 有價證券ノ受拂ヲ登記スヘキ帳簿

前項ノ帳簿ノ様式及記入ノ方法ハ大藏大臣ノ認可ヲ經テ日本銀行之ヲ定ム  
第一百六十一條 大藏大臣ハ會計検査官立會ノ上毎年七月三十一日前年度ノ主計簿ヲ締切ルヘシ

第十二章 雜則

第一百六十二條 本令ニ依リ會計検査院ニ提出スル計算證明書類ノ様式及提出期限ニ付テハ會計

検査院ノ定ムル所ニ依ルヘシ

第一百六十三條 前條ノ計算證明書類ヲ除クノ外本令ニ規定スル書類ノ様式ハ大藏大臣之ヲ定

ム

第一百六十四條 本令ニ依リ記名捺印ヲ要スル場合ニ於テハ外國ニ在リテハ署名ヲ以テ之ニ代フ

ルコトヲ得

第一百六十五條 本令ニ定ムルモノヲ除クノ外收入及支出ニ關シ必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定

ム

附則

第一百六十六條 本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一百六十七條 左ノ勅令ハ之ヲ廢止ス

(廢止勅令百二十二件ノ件名ハ之ヲ畧ス)

大正六年勅令第三百三十二號ハ當分ノ内仍其ノ效力ヲ有ス



第六十八條 金庫ニ納付セシムル爲納入ノ告知アリタル歳入金ニシテ本令施行前收納ヲ了セサルモノハ該納入ノ告知ニ依リ日本銀行ニ於テ之カ收納ヲ取扱ハシム

前項ノ規定ハ定額戻入ノ爲納入ノ告知アリタル返納金ニシテ本令施行前領收ヲ了セサル場合ニ之ヲ準用ス

第六十九條 仕拂命令ニシテ本令施行前其ノ支拂ヲ了セサルモノハ仕拂命令ニ關スル從前ノ手續ニ依リ日本銀行ニ於テ本令施行後一年間之カ支拂ヲ取扱ハシム

第五十五條ノ規定ハ前項ノ支拂期間經過後仍會計法附則第五項ノ規定ニ依リ期間ノ滿了セサル債務ノ支拂ニ付之ヲ準用ス

第七十條 大正十一年五月三十一日迄ニ支拂ノ請求ナキ大正十年度仕拂命令濟金額ニ相當スル資金ハ從前ノ例ニ依リ當該年度ノ歳出支拂未濟金トシテ之ヲ繰越整理スヘシ

第七十一條 本令施行前繰越整理ニ係ル資金及前條ノ繰越整理ニ係ル資金ニシテ大正十二年三月三十一日迄ニ支拂ヲ了セサルモノハ之ヲ大正十一年度ノ歳入ニ組入ルヘシ

第七十二條 大正十年度支出濟歳出額ハ同年度歳入歳出ノ總決算及主計簿ニ於テハ仕拂命令濟歳出額ニ併算スヘシ

大正十一年度仕拂命令濟歳出額ハ同年度歳入歳出ノ總決算及主計簿ニ於テハ支出濟歳出額ニ併算スヘシ

第七十三條 大正十年度分ニ限り金庫ニ備ヘタル支出簿ハ第六十條第二號ノ帳簿ニ代用セシムルコトヲ得

第七十四條 前六條ニ規定スルモノヲ除クノ外本令施行ニ關シ必要ナル規定ハ大藏大臣之ヲ定ム

### ○大正十年度乃至大正十二年度ノ歳入歳出

#### ノ決算ノ特例ニ關スル法律(大正十三年法律第一號)

第一條 大正十年度乃至同十二年度ノ歳入歳出ノ決算ニシテ大正十二年九月ノ震災ニ因リ成規ノ様式ニ依ルコト能ハサルモノニ付テハ特別ノ様式ニ依ルコトヲ得

第二條 大正十一年度及同十二年度ノ歳入歳出ノ決算ハ各翌翌年開會ノ常會ニ於テ帝國議會ニ之ヲ提出スルコトヲ得

大正十年度乃至大正十二年度ノ歳入歳出ノ決算ノ特例ニ關スル法律 二九七



第三條 大正十二年度所屬ノ歳入歳出ニ付テハ大正十三年 九月三十日迄之カ 出納ニ關スル事務ノ完結ヲ延期スルコトヲ得

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○國有財産法(大正十三年法律第四十三號)

第一條 本法ニ於テ國有財産ト稱スルハ國有ノ不動産並勅令ヲ以テ定ムル國有ノ動産及權利ヲ謂フ

第二條 國有財産ヲ分チテ左ノ四種トス

- 一 公共用財産 國ニ於テ直接公共ノ用ニ供シ又ハ供スルモノト決定シタルモノ
- 二 公用財産 國ニ於テ神社ノ用又ハ國ノ事務、事業若ハ官吏其ノ他ノ職員ノ住居ノ用ニ供シ又ハ供スルモノト決定シタルモノ
- 三 營林財産 國ニ於テ森林經營ノ目的ニ供シ又ハ供スルモノト決定シタルモノ
- 四 雜種財産 前各號ニ屬セサルモノ

第三條 國有財産ニ關スル事務ハ各省大臣之ヲ管理シ國有財産ニ關スル總轄事務ハ大藏大臣之ヲ管理スヘシ

第四條 國有財産ハ雜種財産ヲ除クノ外之ヲ讓渡シ又ハ之ニ私權ヲ設定スルコトヲ得ス但シ其ノ用途又ハ目的ヲ妨ケサル限度ニ於テ其ノ使用又ハ收益ヲ爲サシムルハ此ノ限ニ在ラス

第五條 雜種財産ハ左ニ掲クル場合ニ限り之ヲ讓與スルコトヲ得

- 一 帝室用又ハ公共團體ニ於テ公共用若ハ公用ニ供スル爲必要アルトキ
- 二 公共用財産又ハ公用財産ノ用途ヲ廢止シタル場合ニ於テ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ其ノ維持保存ノ費用ヲ負擔シタル者、其ノ用途ニ代ルヘキ他ノ施設ヲ爲シタル者其ノ他ノ緣故者又ハ關係者ニ讓與スルトキ
- 三 神社、寺院又ハ佛堂ノ合併シタル場合ニ於テ之ニ因リ其ノ供用ヲ止メタル國有財産ヲ其ノ合併シタル神社、寺院又ハ佛堂ニ讓與スルトキ

第六條 雜種財産ハ法律ヲ以テ特別ノ定ヲ爲シタル場合ニ限り之ヲ出資ノ目的ト爲スコトヲ得

第七條 雜種財産ハ土地及建物以外ノ土地ノ定著物ニ限り帝室用又ハ國、公共團體若ハ私人ニ於



テ公共用、公用若ハ公益事業ニ供スル爲必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ他ノ土地及建物以外ノ土地ノ定著物ト交換ヲ爲スコトヲ得

前項ノ交換ヲ爲ス場合ニ於テ其ノ價格均シカラサルトキハ金錢ヲ以テ補足スヘシ

第八條 用途及期間ヲ指定シテ國有財産ノ賣拂、讓與又ハ交換ヲ爲シタル場合ニ於テ指定期間内ニ之ヲ其ノ用途ニ供セス又ハ之ヲ其ノ用途ニ供シタル後指定期間内ニ其ノ用途ヲ廢止シタルトキハ政府ハ其ノ契約ヲ解除スルコトヲ得

第九條 國有財産ノ賣拂代金又ハ交換差金ハ財産引渡前之ヲ納付セシムヘシ但シ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ延納ノ特約ヲ爲スコトヲ得

第十條 國有財産ニ付境界査定ヲ施行セムトスルトキハ豫メ期日ヲ定メテ隣接地所有者ニ之ヲ通知シ其ノ立會ヲ求ムヘシ

隣接地所有者期日ニ於テ立會ハサルコトアルモ境界査定ヲ施行スルコトヲ得

第十一條 境界査定ヲ了シタルトキハ隣接地所有者ニ之ヲ通知スヘシ

第十二條 前二條ノ規定ニ依リ通知ヲ受クヘキ者ノ住所居所共ニ不明ナルトキハ通知ノ要旨ヲ公告スヘシ

前項ノ規定ニ依リ公告シタル場合ニ於テ公告ノ初日ヨリ起算シ三十日ヲ經過シタルトキハ通知ヲ受ケタルモノト看做ス

第十三條 隣接地所有者其ノ他境界査定ニ對シ不服アル者ハ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十四條 國有財産ニ付境界査定又ハ測量ヲ爲ス爲政府ニ於テ他人ノ土地ニ立入り、目標ヲ設置シ又ハ障害物ヲ除却スルノ必要アルトキハ當該土地又ハ物件ノ所有者及占有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス但シ之ニ因リテ生シタル損害ニ付賠償ヲ求ムルコトヲ得

第十五條 國有財産ノ貸付ハ左ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

- 一 植樹ヲ目的トシテ土地及建物以外ノ土地ノ定著物ヲ貸付スル場合ニ在リテハ八十年
- 二 前號ノ場合ヲ除クノ外土地及建物以外ノ土地ノ定著物ヲ貸付スル場合ニ在リテハ三十年
- 三 建物其ノ他ノ物件ヲ貸付スル場合ニ在リテハ十年

貸付期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ更新ノ時ヨリ前項ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

第十六條 國有財産ハ皇室用又ハ公共團體若ハ私人ニ於テ公共用、公用若ハ公益事業ニ供スル爲

國有財産法

三〇一



必要アル場合及勅令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外無償ニテ之ヲ貸付スルコトヲ得ス

第十七條 國有財産ノ貸付料ハ毎年定期ニ之ヲ納付セシムヘシ但シ數年分ヲ前納セシムルコトヲ妨ケス

第十八條 國有財産ヲ貸付シタル場合ニ於テ其ノ貸付期間中帝室用又ハ國、公共團體若ハ私人ニ於テ公共用、公用若ハ公益事業ニ供スル爲必要ヲ生シタルトキハ政府ハ其ノ契約ヲ解除スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ契約ヲ解除シタル場合ニ於テハ借受人ハ之ニ因リテ生シタル損害ニ付賠償ヲ求ムルコトヲ得

第十九條 貸付期間ノ終了又ハ貸付契約ノ解除ニ當リ政府ニ於テ時價ヲ提供シ其ノ國有財産ノ上ニ存スル建物其ノ他ノ物件ヲ買取ルヘキ旨通知シタルトキハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十條 前五條ノ規定ハ貸付ニ依ラスシテ國有財産ノ使用又ハ收益ヲ爲サシムル契約ニ付之ヲ準用ス

第二十一條 雜種財産ニ付土地ノ開拓又ハ水面ノ埋立若ハ干拓ヲ爲サムトスル者アル場合ニ於

テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ事業者ニ對シ事業ノ成功ヲ條件トシテ其ノ財産ノ賣拂、讓與又ハ貸付ノ豫約ヲ爲シ其ノ事業ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ事業ヲ爲サシムル契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ事業ノ成功ニ要スル豫定期間事業者ヲシテ其ノ成功シタル部分ニ付無償ニテ使用又ハ收益ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十二條 前條第一項ノ規定ニ依リ事業ヲ爲サシムル契約ヲ爲シタル場合ニ於テ指定期間内ニ事業者其ノ事業ニ著手セサルトキハ政府ハ其ノ契約ヲ解除スルコトヲ得

第二十三條 第二十一條第一項ノ規定ニ依リ事業ヲ爲サシムル契約ヲ爲シタル場合ニ於テ豫定期間内ニ事業成功セサルトキト雖土地又ハ水面ノ狀況ニ依リ支障ナシト認ムルトキハ事業者ニ對シ其ノ成功シタル部分ノ賣拂、讓與又ハ貸付ヲ爲スコトヲ得

第二十四條 従前ヨリ引續キ寺院又ハ佛堂ノ用ニ供スル雜種財産ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ用ニ供スル間無償ニテ之ヲ當該寺院又ハ佛堂ニ貸付シタルモノト看做ス

寺院又ハ佛堂ノ土地ニ係ル雜種財産ハ其ノ用ニ供スル爲必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ無償ニテ第十五條ノ規定ニ拘ラス之ヲ當該寺院又ハ佛堂ニ貸付スルコトヲ得

第二十五條 政府ハ國有財産ノ種類ニ從ヒ其ノ臺帳ヲ備フヘシ



臺帳ニ記載スヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム  
 第二十六條 政府ハ每會計年度間ニ於ケル 國有財産増減總計算書及每五年三月三十一日現在ノ 國有財産現在額總計算書ヲ調製シ會計検査院ノ検査ヲ經テ之ヲ帝國議會ニ報告スヘシ  
 前項ノ國有財産増減總計算書ニハ各省ノ國有財産増減報告書ヲ、國有財産現在額總計算書ニハ 各省ノ國有財産現在額報告書ヲ添附ヘシ

附則

第二十七條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
 第二十八條 第二十五條及第二十六條ノ規定ハ當分ノ内公共用財産ニ付之ヲ適用セス  
 第二十九條 第二十六條ノ規定ニ依ル 國有財産増減總計算書ハ 本法施行ノ日ノ 屬スル年度分ヨリ、國有財産現在額總計算書ヲ第一回分ハ本法施行ノ日ノ現在ニ依リ之ヲ調製スヘシ  
 第三十條 北海道國有未開地處分法中ノ規定ハ本法ノ規定ニ牴觸スルモノト雖當分ノ内仍其ノ 效力ヲ有ス  
 第三十一條 國有林野法第二條、第四條乃至第七條、第九條、第十二條乃至第十四條、第十六條、第二十四條及第二十五條ノ規定ハ其ノ效力ヲ失フ但シ本法施行前ニ係ル 國有林野ノ増減異動報告

ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル  
 第三十二條 從前ノ法令ニ依リテ爲シタル處分、契約其ノ他ノ行爲ハ本法中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス  
 第三十三條 本法ヲ朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ施行スル場合ニ於テ必要アルトキハ勅令ヲ以テ特別ノ 定ヲ爲スコトヲ得

○國有財産法施行令(大正十一年 勅令第十五號)

第一章 總則

第一條 左ニ掲クル動産及權利ニシテ國有ノモノハ之ヲ國有財産法第一條ノ國有財産トス  
 一 船舶、浮標、浮棧橋及浮船渠  
 二 不動産又ハ前號ニ掲クル動産ノ從物  
 三 事業所ニ於ケル機械及重要ナル器具  
 四 地上權、地役權、礦業權、砂礦權其ノ他之ニ準スヘキ權利  
 五 株式及出資ニ因ル權利

國有財産法施行令(總則)



前項第三號ノ事業所ノ範圍ハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

第二條 各省大臣公共用財産又ハ公用財産ノ用途ヲ廢止セムトスルトキハ豫メ大藏大臣ニ之ヲ通知シ特ニ大藏大臣ト協議シタルモノヲ除クノ外用途廢止後遲滯ナク之ヲ大藏大臣ニ引繼クヘシ

前項ノ規定ハ用途ノ廢止ト同時ニ國有財産タルノ性質ヲ失フモノ、國有林野法第三條第二項ノ規定ニ依リ營林財産ト爲スノ必要アルモノ、史蹟名勝天然紀念物ニ指定セラレタルモノ及帝國鐵道會計、大學資金、學校及圖書館資金又ハ在外國帝國專管居留地特別會計ニ屬スルモノニ付之ヲ適用セス

第三條 各省大臣國有財産ノ管理換ヲ受ケムトスルトキハ所管大臣ハ大藏大臣ニ協議スヘシ

第四條 左ニ掲クル場合ニ於テハ所管大臣ハ大藏大臣ニ協議スヘシ

- 一 公用財産タル土地ノ用途ヲ變更セムトスル場合ニシテ大藏大臣ノ定ムルモノニ該當スルトキ
- 二 公用財産ト爲スノ目的ヲ以テ土地ノ交換ヲ爲シ又ハ寄附ヲ受ケムトスルトキ
- 三 雜種財産ヲ公用財産又ハ營林財産ト爲サムトスルトキ

四 營林財産ノ目的ヲ廢止セムトスルトキ

第五條 各省大臣公用財産ト爲スノ目的ヲ以テ土地ノ買入若ハ收用ヲ爲シ又ハ地上權ヲ取得シタルトキハ遲滯ナク之ヲ大藏大臣ニ通知スヘシ

第六條 前二條ノ規定ハ國有財産法施行地外ニ在ル財産及帝國鐵道會計ニ屬シ又ハ屬スヘキ財産ニ付之ヲ適用セス

第七條 國有財産ニ關スル事務ニ從事スル職員ハ其ノ取扱ニ係ル國有財産ヲ讓受ケ又ハ自己ノ所有物ト交換スルコトヲ得ス

第二章 賣拂、讓與及交換

第八條 公共團體ニ於テ維持保存ノ費用ヲ負擔シタル公共用財産ノ用途ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ其ノ公共團體ニ讓與スルコトヲ得但シ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外費用負擔ノ義務ヲ負ヒタル期間カ十年ニ滿タサルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第九條 公共團體又ハ私人ニ於テ公共用財産ノ用途ニ代ルヘキ他ノ施設ヲ爲シタル爲其ノ用途ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ其ノ施設ヲ爲シタル者又ハ其ノ相續人其ノ他ノ包括承繼者ニ讓與スルコトヲ得但シ財産ノ見込價格カ其ノ施設ニ要シタル費用ノ額ヲ超過スルトキハ超過



額ニ相當スル部分ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十條 公共用財産又ハ公用財産ノ用途ヲ廢止シタル場合ニ於テ其ノ財産中寄附ニ係ルモノハ之ヲ其ノ寄附者又ハ其ノ相續人其ノ他ノ包括承繼者ニ讓與スルコトヲ得但シ寄附ノ際特約ヲ爲シタル場合ヲ除ク外寄附ヲ受ケタル後二十年ヲ經過シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 國有財産ニ付交換ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ當該官廳ハ目的物ノ價格ヲ評定シ其ノ基礎ヲ明ニシタル調書ヲ作成スヘシ

評定價格ノ差額カ其ノ高價ナルモノノ價格ノ四分ノ一ヲ超ユルトキハ交換ヲ爲スコトヲ得ス

第十二條 前條第一項ノ規定ハ隨意契約ニ依リ國有財産ノ賣拂ヲ爲サムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第十三條 一定ノ用途ニ供セシムル目的ヲ以テ國有財産ノ賣拂、讓與又ハ交換ヲ爲ス場合ニ於テハ當該官廳ハ其ノ用途竝之ヲ其ノ用途ニ供スヘキ始期及期間ヲ指定スヘシ但シ當該官廳ニ於テ特ニ其ノ必要ナシト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三章 境界査定

第十四條 國有財産ニ付境界ノ分明ナラサルモノアル場合ニ於テ當該官廳必要ト認メタルトキ又ハ隣接地所有者ノ申請アリタルトキハ當該官廳ハ其ノ境界査定ヲ施行スヘシ

第十五條 境界査定ヲ施行セムトスルトキハ當該官廳ハ其ノ日時及場所ヲ定メ書面ヲ以テ隣接地所有者ニ之ヲ通知スヘシ

前項ノ書面ヲ送達ハ期日ニ付豫メ隣接地所有者ノ承諾アリタル場合ヲ除ク外期日ノ前日ヨリ起算シ少クトモ七日前之ヲ爲スヘシ

第十六條 隣接地所有者期日ニ於テ立會ヲ爲スコト能ハサル事由ヲ申出テタルトキハ當該官廳ハ其ノ期日ヲ變更スルコトヲ得

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用セス

第十七條 境界査定ヲ了シタルトキハ當該官廳ハ書面ヲ以テ隣接地所有者ニ之ヲ通知スヘシ隣接地所有者ハ當該官廳又ハ其ノ指定シタル官公署ニ就キ査定圖又ハ其ノ謄本ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第十八條 當該官廳第十五條又ハ前條ノ通知ヲ爲シタルトキハ配達證明郵便ニ依リタル場合ヲ

國有財産法施行令(境界査定)



除クノ外其ノ受領書ヲ徴スヘシ

第十九條 國有財産法第十二條ノ公告ハ官報ヲ以テ之ヲ爲シ且關係市區町村長又ハ之ニ準スヘキ者ヲシテ揭示其ノ他ノ方法ニ依リ之ヲ爲サシムヘシ

第四章 貸付及準貸付

第二十條 公共用財産又ハ公用財産ト爲スノ目的ヲ以テ寄附ヲ受ケタル國有財産ハ其ノ用途ニ供セサル期間無償ニテ之ヲ其ノ寄附者又ハ其ノ相續人其ノ他ノ包括承繼者ニ貸付スルコトヲ得

第二十一條 隨意契約ニ依リ國有財産ヲ貸付セムトスルトキハ當該官廳ハ貸付料ヲ評定シ其ノ基礎ヲ明ニシタル調書ヲ作成スヘシ國有財産法第十五條第二項ノ規定ニ依リ貸付期間ヲ更新セムトスルトキ亦同シ

第二十二條 前二條ノ規定ハ貸付ニ依ラスシテ國有財産ノ使用又ハ收益ヲ爲サシムル契約ニ付之ヲ準用ス

第二十三條 雜種財産ニ付土地ノ開拓又ハ水面ノ埋立若ハ干拓ノ事業ヲ爲サシムル契約ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ當該官廳ハ事業者ヨリ左ノ事項ヲ具シタル事業計畫書ヲ提出セシムヘシ

一 土地又ハ水面ノ所在及面積

二 事業ノ目的

三 事業施行ノ方法及順序

四 成功豫定期間

五 收支豫算

六 計畫圖

事業成功ノ後公共ノ用ニ供スヘキ部分アルトキハ其ノ位置及面積ヲ事業計畫書ニ記載セシムヘシ

第二十四條 國有財産法第二十一條第一項ノ規定ニ依リ國有財産ノ賣拂又ハ有償貸付ノ豫約ヲ爲サムトスルトキハ當該官廳ハ賣拂價格又ハ貸付料ヲ評定シ其ノ基礎ヲ明ニシタル調書ヲ作成スヘシ

前項ノ規定ハ國有財産ノ讓與又ハ無償貸付ノ豫約ヲ爲サムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第二十五條 事業ノ成功ニ要スル豫定期間ハ契約ノ日ヨリ十年以内ニ於テ之ヲ定ムヘシ

國有財産法施行令(貸付及準貸付)



天災其ノ他已ムヲ得ザル事由ニ因リ必要アリト認ムルトキハ當該官廳ハ前項ノ規定ニ依リ定メタル期間ノ半ニ相當スル期間以内ニ於テ豫定期間ノ延長ヲ承認スルコトヲ得

第二十六條 當該官廳ハ契約ノ日ヨリ二年以内ノ期間ヲ指定シ事業者ヲシテ其ノ事業ニ著手セシムヘシ

前條第二項ノ規定ハ前項ノ期間ニ付之ヲ準用ス

第二十七條 國有財産法第二十三條ノ規定ニ依リ事業者ニ對シ成功部分ノ賣拂、讓與又ハ貸付ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ當該官廳ハ特別ノ事由アリト認ムル場合ヲ除クノ外豫約ニ定メタル條項ニ準シテ其ノ契約ヲ爲スヘシ

第二十八條 國有財産法第二十四條第一項ニ規定スル雜種財産ノ使用又ハ收益ニ付テハ寺院又ハ佛堂ニ關スル主務大臣ノ定ムル所ニ依ルヘシ

第二十九條 寺院又ハ佛堂國有財産法第二十四條第二項ノ規定ニ依リ雜種財産ノ貸付ヲ受ケムトスルトキハ地方長官ヲ經由シ主務大臣、其ノ財産ヲ管理スル大臣及大藏大臣ニ願出ツヘシ

前條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ貸付シタル雜種財産ニ付之ヲ準用ス

第五章 臺帳

第三十條 國有財産ノ臺帳ハ所管ノ各省ニ之ヲ備フヘシ但シ部局ノ長ニ於テ國有財産ニ關スル事務ヲ分掌スル場合ニ於テハ其ノ部局毎ニ之ヲ備ヘ各省ニハ其ノ總括簿ヲ備フルモノトス

第三十一條 國有財産ノ臺帳ハ其ノ種類毎ニ之ヲ調製シ左ノ事項ヲ記載スヘシ但シ財産ノ性質ニ依リ其ノ記載事項ヲ省略スルコトヲ得

一 種目

二 所在又ハ所屬

三 數量

四 價格

五 得喪變更ノ年月日及事由

六 其ノ他必要ナル事項

第三十二條 國有財産ノ臺帳ニ登錄スヘキ價格ハ購入ニ係ルモノハ購入價格、交換ニ係ルモノハ交換當時ニ於ケル評定價格、收用ニ係ルモノハ補償金額ニ依リ其ノ他ノモノハ左ノ區分ニ依リ之ヲ定ムヘシ

國有財産法施行令(臺帳)



- 一 土地ニ付テハ類地ノ時價ニ比準シテ算定シタル金額
- 二 立木竹ニ付テハ其ノ材積ニ單價ヲ乘シテ算定シタル金額、庭木其ノ他材積ヲ基準トシテ算定シ難キ立木竹ハ見込價格
- 三 建物其ノ他ノ工作物及船舶其ノ他ノ動産ニ付テハ建築費、製造費又ハ見込價格
- 四 權利ニ付テハ第一條第四號ニ掲クルモノハ見込價格、第五號ニ掲クルモノハ拂込金額又ハ出資金額

第三十三條 土地及立木竹ノ價格ハ國有財産現在額總計算書調製ノ年三月三十一日ノ現況ニ依リ之ヲ改定スヘシ但シ臺帳ニ登録シタル後二年ヲ經過セサルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス  
 前項ノ場合ニ於テ土地ノ價格ハ類地ノ時價ニ比準シ、立木竹ノ價格ハ其ノ材積ニ單價ヲ乘シテ之ヲ算定スヘシ但シ庭木其ノ他材積ヲ基準トシテ算定シ難キ立木竹ニ付テハ見込價格ニ依ル  
 前二項ノ規定ハ帝國鐵道會計ニ屬スルモノニ付テハ適用セス

第三十四條 作業會計又ハ造幣局特別會計ノ固定資本ニ屬スルモノノ價格ハ前二條ノ規定ニ拘ラス其ノ資本價格ニ依ルヘシ

第六章 計算書及報告書

第三十五條 各省大臣ハ會計検査院ニ證明ノ爲國有財産ノ増減計算書ヲ調製シ 證憑書類ヲ添ヘ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ  
 前項ノ計算書ハ國有財産ニ關スル事務ヲ分掌スル部局ノ長ヨリ直ニ會計検査院ニ送付セシムルコトヲ得

第三十六條 各省大臣ハ毎會計年度間ニ於ケル國有財産増減報告書ヲ調製シ翌年度八月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

大藏大臣ハ各省ノ國有財産増減報告書ニ基キ 國有財産増減總計算書ヲ調製シ 各省ノ國有財産増減報告書ト共ニ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第三十七條 各省大臣ハ每五年三月三十一日現在ニ於ケル國有財産現在額報告書ヲ調製シ其ノ年九月三十日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

大藏大臣ハ各省ノ國有財産現在額報告書ニ基キ 國有財産現在額總計算書ヲ調製シ 各省ノ國有財産現在額報告書ト共ニ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第七章 雜則

國有財産法施行令(計算書及報告書、雜則)



第三十八條 本令ニ定ムルモノヲ除クノ外國有財産ノ臺帳ニ關シ必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

第三十九條 第三十五條ニ規定スル計算證明書類ノ様式及送付期限ニ付テハ會計検査院ノ定ムル所ニ依ルヘシ

第四十條 前條ニ定ムルモノヲ除クノ外本令ニ定ムル諸計算書ノ様式ハ大藏大臣之ヲ定ム

第四十一條 本令ニ定ムル帳簿及書類ノ様式ニハ國防上祕密ヲ要スル國有財産ニ付必要ナル特例ヲ設クヘシ

附一則 第四十二條 本令ハ國有財産法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四十三條 左ノ命令ハ之ヲ廢止ス但シ官有財産ノ増減異動ニシテ本令施行前ニ係ルモノノ報告ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

明治七年九月二十三日達皇城周圍内外ノ湮壘等修繕改築ニ關スル件  
明治八年第四百四十六號達  
明治八年第四百九十八號達

明治九年第四十六號達

明治十三年第六號達

明治十三年七月八日達皇城周圍内外ノ湮壘外岸接近ノ官有地(家屋等建築ニ關スル件)

明治十四年第十號達

明治十六年第四十五號達

官有地特別處分規則

官有財産管理規則

官有地取扱規則

明治二十四年勅令第十五號

明治二十七年勅令第九十二號

明治三十六年勅令第九十六號

明治三十九年勅令第二百二十號

明治四十一年勅令第一百十九號

明治四十二年勅令第七十號

國有財産法施行令(附則)



大正六年勅令第二百二十四號

第四十四條 本令施行ノ際ニ於ケル 各省所管ノ雜種財産ハ 國有林野及北海道國有未開地ヲ除ク  
ノ外第二條ノ規定ニ準シ本令施行ノ日ノ現在ニ依リ之ヲ大藏大臣ニ引繼クヘシ

第四十五條 本令施行ノ際國有財産ノ臺帳ニ登錄スヘキ土地及立木竹ノ價格ハ其ノ購入、交換  
又ハ收用ニ係ルモノト雖爾後二年ヲ經過シタルモノニ付テハ帝國鐵道會計ニ屬スルモノヲ除  
クノ外第三十二條第一號又ハ第二號ノ規定ニ依リ算定シタル金額ニ依ル

第四十六條 各省大臣ハ本令施行ノ日ノ現在ニ於ケル 國有財産現在額報告書ヲ 調製シ其ノ年十  
月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第四十七條 前三條ニ規定スルモノヲ除クノ外本令施行ニ關シ必要ナル 事項ハ大藏大臣之ヲ定  
ム

○國有財産法施行期日(大正十一年勅令第六十一號)

國有財産法ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○公式令(明治四十年勅令第六號)

第一條 皇室ノ大事ヲ宣誥シ及大權ノ施行ニ關スル勅旨ヲ宣誥スルハ別段ノ形式ニ依ルモノヲ  
除クノ外詔書ヲ以テス

詔書ニハ親署ノ後御璽ヲ鈐シ其ノ皇室ノ大事ニ關スルモノニハ宮内大臣年月日ヲ記入シ内閣  
總理大臣ト俱ニ之ニ副署ス其ノ大權ノ施行ニ關スルモノニハ内閣總理大臣年月日ヲ記入シ之  
ニ副署シ又ハ他ノ國務大臣ト俱ニ之ニ副署ス

第二條 文書ニ由リ發スル勅旨ニシテ宣誥セサルモノハ別段ノ形式ニ依ルモノヲ除クノ外勅書  
ヲ以テス

勅書ニハ親署ノ後御璽ヲ鈐シ其ノ皇室ノ事務ニ關スルモノニハ宮内大臣年月日ヲ記入シ之ニ  
副署ス其ノ國務大臣ノ職務ニ關スルモノニハ内閣總理大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署ス  
第三條 帝國憲法ノ改正ハ上諭ヲ附シテ之ヲ公布ス

前項ノ上諭ニハ樞密顧問ノ諮詢及帝國憲法第七十三條ニ依ル 帝國議會ノ議決ヲ 經タル旨ヲ記  
載シ親署ノ後御璽ヲ鈐シ内閣總理大臣年月日ヲ記入シ他ノ國務各大臣ト俱ニ之ニ副署ス



第四條 皇室典範ノ改正ハ上諭ヲ附シテ之ヲ公布ス  
 前項ノ上諭ニハ皇族會議及樞密顧問ノ諮詢ヲ經タル旨ヲ記載シ親署ノ後御璽ヲ鈐シ宮内大臣  
 年月日ヲ記入シ國務各大臣ト俱ニ之ニ副署ス

第五條 皇室典範ニ基ツク諸規則、宮内官制其ノ他皇室ノ事務ニ關シ勅定ヲ經タル規程ニシテ  
 發表ヲ要スルモノハ皇室令トシ上諭ヲ附シテ之ヲ公布ス  
 前項ノ上諭ニハ親署ノ後御璽ヲ鈐シ宮内大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署ス國務大臣ノ職務ニ關  
 連スル 皇室令ノ 上諭ニハ内閣總理大臣又ハ内閣總理大臣及主任ノ國務大臣ト俱ニ之ニ副署  
 ス

皇族會議及樞密顧問又ハ其ノ一方ノ諮詢ヲ經タル皇室令ノ上諭ニハ其旨ヲ記載ス  
 第六條 法律ハ上諭ヲ附シテ之ヲ公布ス  
 前項ノ上諭ニハ帝國議會ノ協贊ヲ經タル旨ヲ記載シ親署ノ後御璽ヲ鈐シ内閣總理大臣年月日  
 ヲ記入シ之ニ副署シ又ハ他ノ國務各大臣若ハ主任ノ國務大臣ト俱ニ之ニ副署ス  
 樞密顧問ノ諮詢ヲ經タル法律ノ上諭ニハ其旨ヲ記載ス

第七條 勅令ハ上諭ヲ附シテ之ヲ公布ス  
 前項ノ上諭ニハ親署ノ後御璽ヲ鈐シ内閣總理大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署シ又ハ他ノ國務各  
 大臣若ハ主任ノ國務大臣ト俱ニ之ニ副署ス  
 樞密顧問ノ諮詢ヲ經タル勅令及貴族院ノ諮詢又ハ議決ヲ經タル勅令ノ上諭ニハ其旨ヲ記載  
 シ帝國憲法第八條第一項又ハ第七十條第一項ニ依リ發スル勅令ノ上諭ニハ其旨ヲ記載ス  
 帝國議會ニ於テ帝國憲法第八條第一項ノ勅令ヲ承諾セサル場合ニ於テ其ノ效力ヲ失フコトヲ  
 公布スル勅令ノ上諭ニハ同條第二項ニ依ル旨ヲ記載ス  
 第八條 國際條約ヲ發表スルトキハ上諭ヲ附シテ之ヲ公布ス  
 前項ノ上諭ニハ樞密顧問ノ諮詢ヲ經タル旨ヲ記載シ親署ノ後御璽ヲ鈐シ内閣總理大臣年月日  
 ヲ記入シ主任ノ國務大臣ト俱ニ之ニ副署ス  
 第九條 豫算及豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スノ件ハ上諭ヲ附シテ之ヲ公布ス  
 前項ノ上諭ニハ帝國議會ノ協贊ヲ經タル旨ヲ記載シ親署ノ後御璽ヲ鈐シ内閣總理大臣年月日  
 ヲ記入シ主任ノ國務大臣ト俱ニ之ニ副署ス  
 第十條 閣令ニハ内閣總理大臣年月日ヲ記入シ之ニ署名ス  
 省令ニハ各省大臣年月日ヲ記入シ之ニ署名ス



宮内省令ニハ宮内大臣年月日ヲ記入シ之ニ署名ス

第十一條 皇室令、勅令、閣令及省令ハ別段ノ施行時期アル場合ノ外公布ノ日ヨリ起算シ滿二十日ヲ經テ之ヲ施行ス

第十二條 前數條ノ公文ヲ公布スルハ官報ヲ以テス

第十三條 國書其ノ他外交上ノ親書、條約批准書、全權委任狀、外國派遣官吏委任狀、名譽領事委任狀及外國領事認可狀ニハ親署ノ後御璽ヲ鈐シ主任ノ國務大臣之ニ副署ス 外務大臣ニ授クル全權委任狀ニハ内閣總理大臣之ニ副署ス

第十四條 親任式ヲ以テ任スル官ノ官記ニハ親署ノ後御璽ヲ鈐シ内閣總理大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署ス宮内官ニ付テハ宮内大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署ス

内閣總理大臣ヲ任スルノ官記ニハ他ノ國務大臣又ハ内大臣、宮内大臣ヲ任スルノ官記ニハ内大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署ス

前二項ニ依ルモノノ外勅任官ノ官記ニハ御璽ヲ鈐シ内閣總理大臣年月日ヲ記入シ之ヲ奉ス宮内官ニ付テハ宮内大臣年月日ヲ記入シ之ヲ奉ス

奏任官ノ官記ニハ内閣ノ印ヲ鈐シ内閣總理大臣年月日ヲ記入シ之ヲ宣ス宮内官ニ付テハ宮内

省ノ印ヲ鈐シ宮内大臣年月日ヲ記入シ之ヲ宣ス

第十五條 親任式ヲ以テ任シタル官ヲ免スルノ辭令書ニハ御璽ヲ鈐シ内閣總理大臣年月日ヲ記入シ之ヲ奉ス宮内官ニ付テハ宮内大臣年月日ヲ記入シ之ヲ奉ス

内閣總理大臣ヲ免スルノ辭令書ニハ他ノ國務大臣又ハ内大臣、宮内大臣ヲ免スルノ辭令書ニハ内大臣年月日ヲ記入シ之ヲ奉ス

前二項ニ依ルモノノ外勅任官ヲ免スルノ辭令書ニハ内閣總理大臣年月日ヲ記入シ之ヲ奉ス宮内官ニ付テハ宮内大臣年月日ヲ記入シ之ヲ奉ス

奏任官ヲ免スルノ辭令書ニハ内閣總理大臣年月日ヲ記入シ之ヲ宣ス宮内官ニ付テハ宮内大臣年月日ヲ記入シ之ヲ宣ス

第十六條 爵記ニハ親署ノ後御璽ヲ鈐シ宮内大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署ス

第十七條 一位ノ位記ニハ親署ノ後御璽ヲ鈐シ宮内大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署ス 二位以下四位以上ノ位記ニハ御璽ヲ鈐シ宮内大臣年月日ヲ記入シ之ヲ奉ス 五位以下ノ位記ニハ宮内省ノ印ヲ鈐シ宮内大臣年月日ヲ記入シ之ヲ宣ス

第十八條 爵位ノ返上ヲ命シ又ハ允許スルノ辭令書ニハ宮内大臣年月日ヲ記入シ之ヲ奉ス



第十九條 勳三等功五級以上ノ勳記ニハ親署ノ後國璽ヲ鈐シ勳四等功六級以下ノ勳記ニハ國璽

ヲ鈐シ内閣總理大臣旨ヲ奉シ賞勳局總裁ヲシテ年月日ヲ記入シ之ニ署名セシム  
勳記ニハ勳章ノ種別ニ從ヒ號數ヲ附シ簿冊ニ記入スル旨ヲ附記シ賞勳局ノ印ヲ鈐シ賞勳局書

記官之ニ署名ス  
第二十條 記章ノ證狀竝外國勳章及記章ノ佩用免許ノ證狀ニハ内閣總理大臣旨ヲ奉シ賞勳局總

裁ヲシテ年月日ヲ記入シ賞勳局ノ印ヲ鈐シ之ニ署名セシム  
證狀ニハ其ノ種別ニ從ヒ號數ヲ附シ簿冊ニ記入スル旨ヲ附記シ賞勳局ノ印ヲ鈐シ賞勳局書記

官之ニ署名ス  
第二十一條 勳章及記章竝外國勳章及記章ノ佩用免許ノ證狀ヲ褫奪スルノ辭令書ニハ内閣總理

大臣旨ヲ奉シ賞勳局總裁ヲシテ年月日ヲ記入シ之ニ署名セシム  
附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
公文式ハ之ヲ廢止ス

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
公文式ハ之ヲ廢止ス

○請願令(大正六年勅令第三十七號)

第一條 請願ハ法律勅令ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外本令ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第二條 請願ハ文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ  
請願書ニハ侮辱誹毀ニ涉リ又ハ秩序風俗ヲ紊ル文辭ヲ用ウルコトヲ得ス

第三條 請願書ノ文字ハ端正鮮明ナルコトヲ要ス  
第四條 請願書ニハ請願ノ要旨、理由、年月日、請願者ノ族稱、職業、住所、年齢ヲ記載シ請願者各

自之ニ署名捺印スヘシ  
第五條 法人請願者ナルトキハ其ノ名稱及住所ヲ記載シ法定ノ代表者各自請願書ニ署名捺印ス

ヘシ  
第六條 法人ハ其ノ目的ノ遂行ニ關係アル事項ニ非サレハ請願ヲ爲スコトヲ得ス

第七條 未成年者及禁治産者ノ請願ハ其ノ法定代理人ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得  
前項ノ場合ニ於テハ請願書ニ代理ノ事由及法定代理人ノ族稱、職業、住所、年齢ヲ記載シ法定

代理人之ニ署名捺印スヘシ



第八條 署名スルコト能ハサル者ハ 他人ヲシテ代書セシムルコトヲ 得此ノ場合ニ於テハ代署者 請願書ニ其ノ事由ヲ附記シ且其ノ族稱、職業、住所、年齢ヲ記載シ之ニ署名捺印スヘシ

第九條 請願ハ第七條ノ場合ヲ除クノ外代理人ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得ス

第十條 天皇ニ奉呈スル請願書ハ封皮ニ請願ノ二字ヲ朱書シ内大臣府ニ宛テ其ノ他ノ請願書ハ 請願ノ事項ニ付職權ヲ有スル官公署ニ宛テ郵便ヲ以テ差出スヘシ

第十一條 左ニ掲クル事項ニ付テハ請願ヲ爲スコトヲ得ス

- 一 皇室典範及帝國憲法ノ變更ニ關スル事項
- 二 裁判ニ干預スル事項

第十二條 相當ノ敬禮ヲ守ラス又ハ本令ノ規定ニ違反スル請願書ハ之ヲ却下ス但シ官公署ニ對 スル請願書ハ第三條乃至第五條、第七條第二項又ハ第八條ノ規定ニ違反スルモ之ヲ却下セサル コトヲ得

第十三條 請願ニ對シテハ指令ヲ與ヘス

第十四條 天皇ニ奉呈スル請願書ハ内大臣奏聞シ旨ヲ奉シテ之ヲ處理ス

第十五條 請願ニ關シ官公署ノ職員ニ強テ面接ヲ求メタル者ハ 二月以下ノ禁錮若ハ 五十圓以下

ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

二人以上共ニ前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ六月以下ノ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條 行幸ノ際沿道又ハ行幸地ニ於テ直願ヲ爲サムトシタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス行 啓ノ際沿道又ハ行啓地ニ於テ直願ヲ爲サムトシタル者亦同シ

第十七條 請願ヲ爲サシムル爲他人ヲ誘惑若ハ煽動シ又ハ名義ノ何タルヲ問ハス請願ニ關スル 運動ノ爲金錢其ノ他ノ利益ヲ收受シ、要求シ若ハ其ノ收受ヲ約束シタル者ハ 六月以下ノ懲役 又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

### ○皇室典範(明治二十二年二月十一日)

#### 第一章 皇位繼承

第一條 大日本國皇位ハ祖宗ノ皇統ニシテ男系ノ男子之ヲ繼承ス

第二條 皇位ハ皇長子ニ傳フ

第三條 皇長子在ラサルトキハ皇長孫ニ傳フ皇長子及其ノ子孫皆在ラサルトキハ皇次子及其ノ

子孫ニ傳フ以下皆之ニ例ス



第四條 皇子孫ノ皇位ヲ繼承スルハ嫡出ヲ先ニス皇庶子孫ノ皇位ヲ繼承スルハ皇嫡子孫皆在ラサルトキニ限ル

第五條 皇子孫皆在ラサルトキハ皇兄弟及其ノ子孫ニ傳フ

第六條 皇兄弟及其ノ子孫皆在ラサルトキハ皇伯叔父及其ノ子孫ニ傳フ

第七條 皇伯叔父及其ノ子孫皆在ラサルトキハ其ノ以上ニ於テ最近親ノ皇族ニ傳フ

第八條 皇兄弟以上ハ同等内ニ於テ嫡ヲ先ニシ庶ヲ後ニシ長ヲ先ニシ幼ヲ後ニス

第九條 皇嗣精神若ハ身體ノ不治ノ重患アリ又ハ重大ノ事故アルトキハ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シ前數條ニ依リ繼承ノ順序ヲ換フルコトヲ得

第二章 踐祚即位

第十條 天皇崩スルトキハ皇嗣即チ踐祚シ祖宗ノ神器ヲ承ク

第十一條 即位ノ禮及大嘗祭ハ京都ニ於テ之ヲ行フ

第十二條 踐祚ノ後元號ヲ建テ一世ノ間ニ再ヒ改メサルコト明治元年ノ定制ニ從フ

第三章 成年立后立太子

第十三條 天皇及皇太子皇太孫ハ滿十八年ヲ以テ成年トス

第十四條 前條ノ外ハ皇族ハ滿二十年ヲ以テ成年トス

第十五條 儲嗣タル皇子ヲ皇太子トス皇太子在ラサルトキハ儲嗣タル皇孫ヲ皇太孫トス

第十六條 皇后皇太子皇太孫ヲ立ツルトキハ詔書ヲ以テ之ヲ公布ス

第四章 敬稱

第十七條 天皇太皇太后皇太后皇后ノ敬稱ハ陛下トス

第十八條 皇太子皇太子妃皇太孫皇太孫妃親王親王妃内親王王王妃女王ノ敬稱ハ殿下トス

第五章 攝政

第十九條 天皇未タ成年ニ達セサルトキハ攝政ヲ置ク

天皇久キニ亘ルノ故障ニ由リ大政ヲ親ラスルコト能ハサルトキハ皇族會議及樞密顧問ノ議ヲ經テ攝政ヲ置ク

第二十條 攝政ハ成年ニ達シタル皇太子又ハ皇太孫之ニ任ス

第二十一條 皇太子皇太孫在ラサルカ又ハ未タ成年ニ達セサルトキハ左ノ順序ニ依リ攝政ニ任

第一 親王及王

皇室典範(踐祚即位、成年立后立太子、敬稱、攝政)



第二 皇后

第三 皇太后

第四 太皇太后

第五 内親王及女王

第二十二條 皇族男子ノ攝政ニ任スルハ 皇位繼承ノ順序ニ從フ其ノ女子ニ於ケルモ亦之ニ準

ス 第二十三條 皇族女子ノ攝政ニ任スルハ其ノ配偶アラサル者ニ限ル

第二十四條 最近親ノ皇族未タ成年ニ達セサルカ又ハ其ノ他ノ事故ニ由リ他ノ皇族攝政ニ任シ

タルトキハ後來最近親ノ皇族成年ニ達シ又ハ其ノ事故既ニ除クト 雖皇太子及皇太孫ニ對スル

ノ外其ノ任ヲ讓ルコトナシ

第二十五條 攝政又ハ攝政タルヘキ者精神若ハ身體ノ重患アリ又ハ重大ノ事故アルトキハ皇族

會議及樞密顧問ノ議ヲ經テ其ノ順序ヲ換フルコトヲ得

第六章 太 傅

第二十六條 天皇未タ成年ニ達セサルトキハ太傅ヲ置キ保育ヲ掌ラシム

第二十七條 先帝遺命ヲ以テ太傅ヲ任セサリシトキハ攝政ヨリ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シ之

ヲ選任ス

第二十八條 太傅ハ攝政及其ノ子孫之ニ任スルコトヲ得ス

第二十九條 攝政ハ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シタル後ニ非サレハ太傅ヲ退職セシムルコトヲ

得ス

第七章 皇 族

第三十條 皇族ト稱フルハ 太皇太后皇太后皇后皇太子皇太子妃皇太孫皇太孫妃親王親王妃内

親王王王妃女王ヲ謂フ

第三十一條 皇子ヨリ皇玄孫ニ至ルマテハ男ヲ親王女王ヲ内親王トシ五世以下ハ男ヲ王女王ヲ女王

トス

第三十二條 天皇支系ヨリ入テ大統ヲ承クルトキハ皇兄弟姉妹ノ 王女王タル者ニ特ニ親王内親

王ノ號ヲ宣賜ス

第三十三條 皇族ノ誕生命婚嫁薨去ハ宮内大臣之ヲ公告ス

第三十四條 皇統譜及前條ニ關ル記録ハ圖書寮ニ於テ尙藏ス

皇室典範(太傅、皇族)



第三十五條 皇族ハ天皇之ヲ監督ス

第三十六條 攝政在任ノ時ハ前條ノ事ヲ攝行ス

第三十七條 皇族男女幼年ニシテ父ナキ者ハ宮内ノ官僚ニ命シ保育ヲ掌ラシム事宜ニ依リ天皇ハ其ノ父母ノ選舉セル後見人ヲ認可シ又ハ之ヲ勅選スヘシ

第三十八條 皇族ノ後見人ハ成年以上ノ皇族ニ限ル

第三十九條 皇族ノ婚嫁ハ同族又ハ勅旨ニ由リ特ニ認許セラレタル華族ニ限ル

第四十條 皇族ノ婚嫁ハ勅許ニ由ル

第四十一條 皇族ノ婚嫁ヲ許可スルノ勅書ハ宮内大臣之ニ副署ス

第四十二條 皇族ハ養子ヲ爲スコトヲ得ス

第四十三條 皇族國疆ノ外ニ旅行セムトスルトキハ勅許ヲ請フヘシ

第四十四條 皇族女子ノ臣籍ニ嫁シタル者ハ皇族ノ列ニ在ラス但シ特旨ニ依リ仍内親王女玉ノ稱ヲ有セシムルコトアルヘシ

第八章 世傳御料

第四十五條 土地物件ノ世傳御料ト定メタルモノハ分割讓與スルコトヲ得ス

第四十六條 世傳御料ニ編入スル土地物件ハ樞密顧問ニ諮詢シ勅書ヲ以テ之ヲ定メ宮内大臣之ヲ公告ス

第九章 皇室經費

第四十七條 皇室諸般ノ經費ハ特ニ常額ヲ定メ國庫ヨリ支出セシム

第四十八條 皇室經費ノ豫算決算検査及其ノ他ノ規則ハ皇室會計法ノ定ムル所ニ依ル

第十章 皇族訴訟及懲戒

第四十九條 皇族相互ノ民事ノ訴訟ハ勅旨ニ依リ宮内省ニ於テ裁判員ヲ命シ裁判セシメ勅裁ヲ經テ之ヲ執行ス

第五十條 人民ヨリ皇族ニ對スル民事ノ訴訟ハ東京控訴院ニ於テ之ヲ裁判ス但シ皇族ハ代人ヲ以テ訴訟ニ當ラシメ自ラ訟廷ニ出ルヲ要セス

第五十一條 皇族ハ勅許ヲ得ルニ非サレハ勾引シ又ハ裁判所ニ召喚スルコトヲ得ス

第五十二條 皇族其ノ品位ヲ辱ムルノ所行アリ又ハ皇室ニ對シ忠順ヲ缺クトキハ勅旨ヲ以テ之ヲ懲戒シ其ノ重キ者ハ皇族特權ノ一部又ハ全部ヲ停止シ若ハ剝奪スヘシ

第五十三條 皇族蕩産ノ所行アルトキハ勅旨ヲ以テ治産ヲ禁ヲ宣告シ其ノ管財者ヲ任ヌヘシ

皇室典範(世傳御料、皇室經費)



第五十四條 前二條ハ皇族會議ニ諮詢シタル後之ヲ勅裁ス

第十一章 皇族會議

第五十五條 皇族會議ハ成年以上ノ皇族男子ヲ以テ組織シ 内大臣樞密院議長宮内大臣司法大臣

大審院長ヲ以テ參列セシム

第五十六條 天皇ハ皇族會議ニ親臨シ又ハ皇族中ノ一員ニ命シテ議長タラシム

第十二章 補則

第五十七條 現在ノ皇族五世以下親王ノ號ヲ宣賜シタル者ハ舊ニ依ル

第五十八條 皇位繼承ノ順序ハ總テ實系ニ依ル現 皇養子皇猶子又ハ他ノ繼嗣タルヲ故ヲ以テ

之ヲ混スルコトナシ

第五十九條 親王内親王王女王ノ品位ハ之ヲ廢ス

第六十條 親王ノ家格及其ノ他此ノ典範ニ牴觸スル例規ハ總テ之ヲ廢ス

第六十一條 皇族ノ財産歳費及諸規則ハ別ニ之ヲ定ムヘシ

第六十二條 將來此ノ典範ノ條項ヲ改正シ又ハ増補スヘキノ必要アルニ當テハ 皇族會議及樞密

顧問ニ諮詢シテ之ヲ勅定スヘシ

○皇室典範増補(一) (明治四十年二月十一日)

第一條 王ハ勅旨又ハ情願ニ依リ家名ヲ賜ヒ華族ニ列セシムルコトアルヘシ

第二條 王ハ勅許ニ依リ華族ノ家督相續人トナリ又ハ家督相續ノ目的ヲ以テ華族ノ養子トナル

コトヲ得

第三條 前二條ニ依リ臣籍ニ入りタル者ノ妻直系卑屬及其ノ妻ハ其ノ家ニ入ル但シ他ノ皇族ニ

嫁シタル女子及其ノ直系卑屬ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 特權ヲ剝奪セラレタル皇族ハ勅旨ニ由リ臣籍ニ降スコトアルヘシ

前項ニ依リ臣籍ニ降サレタル者ノ妻ハ其ノ家ニ入ル

第五條 第一條第二條第四條ノ場合ニ於テハ皇族會議及樞密顧問ノ諮詢ヲ經ヘシ

第六條 皇族ノ臣籍ニ入りタル者ハ皇族ニ復スルコトヲ得ス

第七條 皇族ノ身位其ノ他ノ權義ニ關スル規程ハ此ノ典範ニ定メタルモノノ外別ニ之ヲ定ム

皇族ト人民トニ涉ル事項ニシテ各々適用スヘキ法規ヲ異ニスルトキハ前項ノ規程ニ依ル

第八條 法律命令中皇族ニ適用スヘキモノトシタル規定ハ此ノ典範又ハ之ニ基ツキ發スル規則



ニ別段ノ條規ナキトキニ限り之ヲ適用ス

○皇室典範增補(二)(大正七年十一月二十八日)

皇族女子ハ王族又ハ公族ニ嫁スルコトヲ得

○攝政令(明治四十二年皇室令第二號)

- 第一條 攝政就任スル時ハ附式ノ定ムル所ニ依リ賢所ニ祭典ヲ行ヒ且就任ノ旨ヲ皇靈殿神殿ニ奉告ス(附式略)
- 第二條 攝政ヲ置キタルトキ又ハ攝政ノ更迭アリタルトキハ詔書ヲ以テ之ヲ公布ス
- 第三條 攝政ヲ置ク間御名ヲ要スル公文ハ攝政御名ヲ書シ且其ノ名ヲ署スルノ外天皇大政ヲ親ラスルトキト形式ヲ異ニスルコトナシ
- 第四條 攝政ハ其ノ任ニ在ル間刑事ノ訴追ヲ受クルコトナシ
- 第五條 攝政止ミテ天皇大政ヲ親ラスルトキハ詔書ヲ以テ之ヲ公布ス

○宮中席次令(大正四年皇室令第一號 改正九年第八號)

- 第一條 高等官有勳者有爵者有位者及優遇者ノ宮中ニ於ケル席次ハ特旨ニ由ルモノノ外本令ノ定ムル所ニ依ル
- 第二條 席次ハ別表ノ順位ニ依ル  
同順位ノ者ノ間ニ在リテハ本令中別段ノ定アル場合ヲ除クノ外其ノ身位ヲ得タル日ノ前後ニ從ヒ其ノ前後ナキトキハ其ノ日ニ有シタル席次ノ順序ニ從ヒ其ノ日ニ席次ヲ有セサルトキハ年齢ノ順序ニ從フ  
同爵者間ノ席次ハ位階ニ依ル
- 第三條 大臣ノ禮遇又ハ前官ノ禮遇ヲ賜ハリタル者ニシテ其ノ順位ヲ超エタル官ニ任セラレ退官ノ後更ニ前ニ賜ハリタル禮遇ト同一順位ノ禮遇ヲ賜ハリタルトキハ前ニ禮遇ヲ賜ハリタルトキ有シタル席次ニ依ル後ノ禮遇前ノ禮遇ノ下ナルトキハ第六條ノ例ニ依ル
- 第四條 親任官ニシテ國務大臣ニ任セラレ退官ノ後二年以内ニ更ニ前ト同一順位ノ官ニ任セラレタルトキハ前ニ有シタル席次ニ依ル前ノ順位ヨリ降りタル官ニ任セラレタルトキハ第六條

皇室典範增補、攝政令、宮中席次令



ノ例ニ依ル

第五條 退官退職ノ日ヨリ二年以内ニ前官職ト同一ノ順位ニ相當スル官職ニ就キタルトキハ前官職ノ時有シタル席次ニ依ル

第六條 官職ノ異動アリタルトキハ同順位ナル場合ニ在リテハ前官職ノ時有シタル席次ヲ保有シ前官職ノ順位ヨリ降りタル場合ニ在リテハ其ノ相當順位ノ首席トス

第七條 休職非職又ハ退職ノ文官豫備ノ理事及豫備役後備役又ハ退役ニ在ル者ハ別表各相當順位ノ下席トス

第八條 朝鮮軍人ハ各相當順位中第七條ニ掲クル者ノ次席トシ現役ニ在ル者ハ現役ニ在ラサル者ノ上席トス

第九條 同一人ニシテ二箇以上ノ身位ヲ有スルトキハ其ノ高キニ從フ但シ特定ノ身位ニ依リ席次ヲ定ムル必要アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十條 妻ハ夫ノ席次ニ次ク  
第十一條 官職ヲ有スル者ニ就キ職務上ノ必要ニ依リ特ニ席次ヲ定ムル場合ニ在リテハ前數條ノ規定ヲ適用セス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際ニ於ケル既定ノ席次ハ第四條又ハ第五條ノ規定ニ依リ變更ヲ受クルコトナシ  
明治十七年宮内省達乙第五號及第六號並明治二十四年宮内省達甲第六號ハ之ヲ廢止ス

(別表)

第一階

第一 大勳位

- 一 菊花章頸飾
- 二 菊花大綬章

第二 內閣總理大臣

第三 樞密院議長

第四 元勳優遇ノ爲大臣ノ禮遇ヲ賜ハリタル者

第五 元帥、國務大臣、宮内大臣、内大臣

宮中席次令

第六 朝鮮總督

第七 內閣總理大臣又ハ樞密院議長タル前官ノ禮遇ヲ賜ハリタル者

第八 國務大臣、宮内大臣又ハ内大臣タル前官ノ禮遇ヲ賜ハリタル者

第九 樞密院副議長

第十 陸軍大將、海軍大將、樞密顧問官

第十一 親任官

第十二 貴族院議長、衆議院議長



第十三 勳一等旭日桐花大綬章

第十四 功一級

第十五 親任官ノ待遇ヲ賜ハリタル者

第十六 公爵

第十七 從一位

第十八 勳一等

一 旭日大綬章

二 寶冠章

三 瑞寶章

第二階

第十九 高等官一等

第二十 貴族院副議長、衆議院副議長

第二十一 麝香間祇候

第二十二 侯爵

第二十三 正二位

第三階

第二十四 高等官二等

第二十五 功二級

第二十六 錦鷄間祇候

第二十七 勅任待遇

第二十八 伯爵

第二十九 從二位

第三十 勳二等

一 旭日重光章

二 寶冠章

三 瑞寶章

第三十一 子爵

第三十二 正三位

第三十三 從三位

第三十四 功三級

第三十五 勳三等

一 旭日中綬章

二 寶冠章

三 瑞寶章

第三十六 男爵

第三十七 正四位

第三十八 從四位

第四階

第三十九 貴族院議員、衆議院議員

第四十 高等官三等

第四十一 高等官三等ノ待遇ヲ享クル者

第四十二 功四級

第四十三 勳四等

第四十四 正五位

第四十五 從五位

第四十六 三 瑞寶章

第四十七 正五位

第四十八 從五位

第五階

第四十九 勳五等

第五十 高等官四等

第五十一 高等官四等ノ待遇ヲ享クル者

第五十二 功五級

第五十三 勳五等

第五十四 雙光旭日章

第五十五 寶冠章

第五十六 瑞寶章



第五十 正六位

第六階

第五十一 高等官五等

第五十二 高等官五等ノ待遇ヲ享クル者

第五十三 從六位

第五十四 勳六等

一 單光旭日章

二 寶冠章

三 瑞寶章

第七階

第五十五 高等官六等

第五十六 高等官六等ノ待遇ヲ享クル者

第五十七 正七位

第八階

第五十八 高等官七等

第五十九 高等官七等ノ待遇ヲ享クル者

第六十 從七位

第六十一 功六級

第九階

第六十二 高等官八等

第六十三 高等官八等ノ待遇ヲ享クル者

第十階

第六十四 高等官九等

第六十五 奏任待遇

第六十六 正八位

第六十七 功七級

第六十八 勳七等

一 青色桐葉章

二 寶冠章

三 瑞寶章

第六十九 從八位

第七十 勳八等

一 白色桐葉章

二 寶冠章

三 瑞寶章

○内閣官制

(明治二十二年勅令第百三十号、改正四〇年第七号)

第一條 内閣ハ國務各大臣ヲ以テ組織ス

第二條 内閣總理大臣ハ各大臣ノ首班トシテ機務ヲ奏宣シ旨ヲ承ケテ行政各部ノ統一ヲ保持ス

第三條 内閣總理大臣ハ須要ト認ムルトキハ行政各部ノ處分又ハ命令ヲ中止セシメ勅裁ヲ待ツコトヲ得

第四條 内閣總理大臣ハ其ノ職權又ハ特別ノ委任ニ依リ閣令ヲ發スルコトヲ得

第四條ノ二 内閣總理大臣ハ所管ノ事務ニ付警視總監、北海道廳長官及府縣知事ヲ指揮監督ス若シ其ノ命令又ハ處分ノ成規ニ違ヒ、公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ之



ヲ停止シ又ハ取消スコトヲ得ニ並ニハ益々及ハシテ其ノ旨ニ依リテ之ヲ行フコトヲ得

第五條 左ノ各件ハ閣議ヲ經ヘシ  
一 法律案及豫算決算案  
二 外國條約及重要ナル國際條件

三 官制又ハ規則及法律施行ニ係ル勅令  
四 諸省ノ間主管權限ノ爭議  
五 天皇ヨリ下付セラレ又ハ帝國議會ヨリ送致スル人民ノ請願

六 豫算外ノ支出  
七 勅任官及地方長官ノ任命及進退

其ノ他各省主任ノ事務ニ就キ高等行政ニ關係シ事體稍重キ者ハ總テ閣議ヲ經ヘシ

第六條 主任大臣ハ其ノ所見ニ由リ何等ノ件ヲ問ハス内閣總理大臣ニ提出シ閣議ヲ求ムルコトヲ得

第七條 事ノ軍機軍令ニ係リ奏上スルモノハ天皇ノ旨ニ依リ之ヲ内閣ニ下付セララル、ノ件ヲ除ク外陸軍大臣海軍大臣ヨリ内閣總理大臣ニ報告スヘシ

第八條 内閣總理大臣故障アルトキハ他ノ大臣臨時命ヲ承ケ其ノ事務ヲ代理スヘシ

第九條 各省大臣故障アルトキハ他ノ大臣臨時攝任シ又ハ命ヲ承ケ其ノ事務ヲ管理スヘシ

第十條 各省大臣ノ外特旨ニ依リ國務大臣トシテ内閣員ニ列セシメラル、コトアルヘシ

### ○各省官制通則

- 明治二十六年勅令第二百二十二號 改正三十一年第二五七號
- 三十二年第二五四號 三三年第一六一號 三五年第六〇號
- 三六年第二〇八號 四一年第二二四號 大正三年第二〇七號
- 號九年第一四三號 一三年第一七六號 同年第三一一號 一四年第三五號

第一條 本則ハ外務、内務、大藏、陸軍、海軍、司法、文部、農林、商工、遞信及鐵道ノ各省ニ適用ス

第二條 各省大臣ハ主任ノ事務ニ付其ノ責ニ任ス  
主任ノ明瞭ナラサル事務ニシテ兩省以上ニ關涉スルモノアルトキハ閣議ニ提出シテ其ノ主任ヲ定ム



第三條 各省大臣ハ主任ノ事務ニ付法律勅令ノ制定、廢止及改正ヲ要スルコトアルトキハ案ヲ具ヘ閣議ニ提出スヘシ

第四條 各省大臣ハ主任ノ事務ニ付其ノ職權若クハ特別ノ委任ニ依リ省令ヲ發スルコトヲ得

第五條 各省大臣ハ主任ノ事務ニ付警視總監、北海道廳長官、府縣知事ニ指令又ハ訓令ヲ下スコトヲ得

第六條 各省大臣ハ主任ノ事務ニ付警視總監、北海道廳長官、府縣知事ヲ監督ス若シ警視總監、北海道廳長官、府縣知事ノ命令又ハ處分ノ成規ニ違ヒ公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ其ノ命令又ハ處分ヲ停止シ又ハ取消スコトヲ得

第七條 各省大臣ハ所部ノ官吏ヲ統督シ奏任官ノ進退ハ内閣總理大臣ヲ經テ之ヲ上奏シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第八條 各省大臣ハ内閣總理大臣ヲ經テ内務大臣之ヲ上奏ス

地方官廳官吏ノ敘位敘勳ハ前條第二項ノ例ニ依ル

第九條 (削除)

第十條 各省ニ大臣官房ヲ置ク

大臣官房ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 機密ニ屬スル事項

二 官吏ノ進退身分ニ關スル事項

三 大臣ノ官印及省印ノ管守ニ關スル事項

四 公文書類及成案文書ノ接受發送ニ關スル事項

五 統計報告ノ調製ニ關スル事項

六 公文書類ノ編纂保存ニ關スル事項

七 本省所管ノ經費及諸收入ノ豫算、決算並會計ニ關スル事項

八 會計ノ監査ニ關スル事項

九 本省所管ノ官有財産及物品ニ關スル事項

十 其ノ他各省官制ニ依リ特ニ大臣官房ノ所掌ニ屬セシムル事項

各省官制通則



各省ノ便宜ニ從ヒ大臣官房ノ事務ハ各局ニ於テ又ハ特ニ局ヲ設ケテ之ヲ處理セシムルコトヲ得

第十一條 [削除]

第十二條 各省中省務ヲ分掌スル爲局ヲ置ク其ノ分掌事務ハ各省官制ニ於テ之ヲ定ム

第十三條 大臣官房及各局ノ分課ハ各省大臣ノ定ムル所ニ依ル

陸軍省海軍省中ノ分課ハ各其ノ省官制ニ於テ之ヲ定ム

第十四條 各省ニ左ノ職員ヲ置ク

政務次官

次官

參與官

局長

祕書官

書記官

屬

第十四條ノ二 各省政務次官ハ一人勅任トス

第十四條ノ三 政務次官ハ大臣ヲ佐ケ政務ニ參畫シ帝國議會トノ交渉事項ヲ掌理ス

第十五條 各省次官ハ一人勅任トス

第十六條 次官ハ大臣ヲ佐ケ省務ヲ整理シ各局部ノ事務ヲ監督ス

第十七條 各省參與官ハ一人勅任トス大臣ノ命ヲ承ケ帝國議會トノ交渉事項其ノ他ノ政務ニ參與ス

第十八條 各局局長ハ一人勅任トス大臣ノ命ヲ承ケ其ノ主務ヲ掌理シ及局中各課ノ事務ヲ指揮監督ス

第十九條 [削除]

第二十條 [削除]

第二十一條 祕書官ハ奏任トス大臣ノ命ヲ承ケ機密事務ヲ掌リ又ハ臨時命ヲ承ケ各局課ノ事務ヲ助ク



第二十二條 書記官ハ奏任トス大臣ノ命ヲ承ケ大臣官房ノ事務ヲ掌リ又ハ各局ノ事務ヲ助ク

第二十三條 各省專任秘書官ハ一人トス  
第二十四條 大臣官房及局中各課ニ課長一人ヲ置キ高等官ヲ以テ之ニ充ツ課長ハ命ヲ上官ニ承ケ課務ヲ掌理ス

陸軍省海軍省中ノ課長ハ各其ノ省官制ノ定ムル所ニ依ル

第二十五條 屬ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第二十六條 (削除)

第二十七條 本則ニ掲クルモノ、外各省特別ノ職員ヲ置クコトヲ要スルモノハ各省官制ニ於テ之ヲ定ム  
書記官、屬及前項ノ規定ニ依ル職員ノ定員ハ各省官制ノ定ムル所ニ依ル

附則

第二十八條 本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

○樞密院官制及事務規程

明治二十一年勅令第二十二號 改正三三  
年第一一六號二六號第一二〇號三六號  
一號四二號第一八四號大正二年第一三  
七號七年第三五五號

樞密院官制

第一章 組織

第一條 樞密院ハ天皇親臨シテ重要ノ國務ヲ諮詢スル所トス

第二條 樞密院ハ議長一人副議長一人顧問官二十四人書記官長一人及書記官ヲ以テ組織ス  
書記官ハ專任三人トス

第三條 樞密院ノ議長副議長顧問官ハ親任書記官長ハ勅任書記官ハ奏任トス

第四條 何人タリトモ年齢四十歳ニ達シタルモノニ非サレハ議長副議長及顧問官ニ任スルコトヲ得ス

第五條 樞密院ニ議長秘書官ヲ置ク專任一人奏任トス

第二章 職掌

第六條 樞密院ハ左ノ事項ニ付諮詢ヲ待テ會議ヲ開キ意見ヲ上奏ス

一 皇室典範ニ於テ其權限ニ屬セシメタル事項

二 憲法ノ條項又ハ憲法ニ附屬スル法律勅令ニ關スル草案及疑義

各省官制通則、樞密院官制及事務規程(組織、職掌)



三 憲法第十四條戒嚴ノ宣告同第八條及第七十條ノ勅令及其他罰則ノ規定アル勅令

四 列國交渉ノ條約及約束

五 樞密院ノ官制及事務規程ノ改正ニ關スル事項

六 前諸項ニ掲クルモノ、外臨時ニ諮詢セラレタル事項

第七條 (削除)

第八條 樞密院ハ行政及立法ノ事ニ關シ天皇ノ至高ノ顧問タリト雖モ施政ニ干與スルコト

第三章 會議及事務

第九條 樞密院ノ會議ハ顧問官十名以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第十條 樞密院ノ會議ハ議長之ニ首席シ議長事故アルトキハ副議長之ニ首席ス議長副議長共ニ

事故アルトキハ顧問官其席次ニ依リ首席スヘシ

第十一條 各大臣ハ其職權上ヨリ樞密院ニ於テ顧問官タルノ地位ヲ有シ議席ニ列シ表決ノ權ヲ

有ス又各大臣ハ委員ヲ差シテ會議ニ出席シ演述及説明ヲ爲サシムルコトヲ得但表決ノ數ニ加

ラス

第十二條 樞密院ノ議事ハ多數ニ依リ之ヲ決ス但可否平等ノ場合ニ於テハ會議首席ノ決スル所

ニ依ル

第十三條 議長ハ樞密院ニ屬スル一切ノ事務ヲ總管シ樞密院ヨリ發スル一切ノ公文ニ署名ス

副議長ハ議長ノ職務ヲ補佐ス

第十四條 書記官長ハ議長ノ監督ヲ受ケ樞密院ノ常務ヲ管理シ一切ノ公文ニ副署シ會議ニ付ス

ヘキ事項ヲ審査シテ報告書ヲ調製シ會議ニ列シ辯明ノ任ニ當ル但表決ノ數ニ加ラス

書記官ハ會議ニ於テ議事ヲ筆記シ及書記官長ノ職務ヲ補佐シ書記官長事故アルトキハ書記官

之ヲ代理ス

前項ノ筆記ハ出席員ノ姓名會議ノ事件質問答辯及議決ノ要旨ヲ記載スルモノトス

第十四條ノ二 議長秘書官ハ議長官房ノ事務ヲ掌ル

第十五條 特別ノ場合ヲ除クノ外豫メ審査報告書ヲ調製シ其會議ニ必要ナル書類ト共ニ之ヲ各

員ニ配達シタル後ニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

樞密院官制及事務規定(會議及事務)



議事日程及報告ハ豫メ各大臣ニ通報スヘシ

樞密院事務規定

第一條 樞密院ハ勅命ニ由リ會議ニ下付セラレタル事項ニ意見ヲ述フ

第二條 樞密院ハ帝國議會若クハ其一院又ハ官署又ハ臣民ヨリ 請願上書其他通信ヲ受領スルコトヲ得ス

第三條 樞密院ハ内閣及各省大臣トノミ公務上ノ 交渉ヲ有シ其他ノ 官署帝國議會又ハ臣民トノ間ニ文書ヲ往復シ又ハ其他ノ 交渉ヲ有スルコトヲ得ス

第四條 議長ハ樞密院ニ到達スルノ事項ハ書記官長ニ下付シテ之ヲ審查セシメ及會議ニ付スヘキ事項ノ報告ヲ調製セシム

議長ハ必要ナリト認ムル場合ニ於テ親ラ報告ノ任ニ當リ又ハ顧問官一人若クハ數人ニ之ヲ任スルコトヲ得ヘシ

第五條 審査報告書ハ報告員ヨリ之ヲ議長ニ提出スヘシ  
臨時緊急ノ場合ニ於テハ口頭ヲ以テ報告ヲ爲スコトヲ得 此場合ニ於テハ其要領ヲ簡短ニ第八條ニ載スル件名簿ニ記入スヘシ

第六條 議長ハ審査報告書ヲ整頓スヘキ期日ヲ限定スルコトヲ得報告ハ成ルヘク速ニ之ヲ調製シテ遷延スルコトヲ許サス

内閣ハ至急ヲ要スル事件ニ付其由ヲ通知シ及其會議ノ期日ヲ限定スルコトヲ得

第七條 審査報告書ハ附屬文書ト共ニ其會議ヲ開クノ日ヨリ少クモ三日以前ニ之ヲ各員ニ配達スヘシ

第八條 件名簿ハ會議ノ期日ノ順序ニ從ヒ之ヲ記入スヘシ件名簿ニ登載スヘキ事項ハ第一事件ノ性質第二會議ノ前文書配達ノ日時第三其會議ノ期日等トス

會議ニ付スヘキ各件ニ就テハ前項ニ同シキ議事日程ヲ調製シ其會議ヲ開クノ日ヨリ三日以前ニ各員ニ通報スヘシ此通報ハ會議ノ招狀ヲ兼ヌルモノトス

第九條 樞密院ノ會議ノ日時ハ議長之ヲ定ム但各大臣ハ其日時ノ變更ヲ求ムルコトヲ得

第十條 樞密院ノ會議ハ左ノ規程ニ循由シ議長若クハ副議長之ヲ整理スヘシ

議長ハ書記官長ヲシテ其事件ヲ辯明セシメ次テ各員ヲシテ自由ニ討論セシム何人タリト雖モ議長ノ許可ヲ受クルニ非レハ發言スルコトヲ得ス議長ノ討論ニ參與スルハ其自由ニ屬スルモノトス討論既ニ盡ルノ後ハ議長ヨリ問題ヲ定メ表決ヲ爲サシム



議決ノ結果ハ議長之ヲ言明スヘシ

第十一條 議事日程ニ掲載シタル事件ノ會議其當日ニ結了セサルトキハ之ヲ他日ニ延會スルコトヲ得此場合ニ於テハ更ニ常例ノ定式ヲ踐行スルコトヲ要セス

第十二條 樞密院ノ會議ノ意見ハ書記官長又ハ書記官表決ノ結果ニ依リ之ヲ起草シ議長ノ檢閱ヲ請フヘシ此意見ニハ理由ヲ附シ重要ノ事件ニ付テハ討論ノ要領書ヲ附屬スヘシ

反對ノ議論ヲ主持シタル出席員ハ其表決ト其理由トヲ議事筆記理由書又ハ要領書ニ記入セラレンコトヲ求ムルコトヲ得

第十三條 前條ノ意見ハ議長ヨリ天皇ニ上奏シ同時ニ内閣總理大臣ニ通報スヘシ

第十四條 樞密院ノ會議ノ議事筆記ハ議長及書記官長又ハ出席書記官之ニ署名シ其正確ヲ表明スヘシ

附則(大正二年勅令第一三七號附則)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ樞密顧問官ノ職ニ在ル者ハ其ノ定員ノ改正ニ拘ラス在任ス

○衆議院事務局官制

明治二十三年勅令第二百二十二號改正二十四年第一〇〇號第二〇七號第二十六號第一六六號第三〇年第三五〇號第三一一年第三〇八號第三六年第二五六號第四三一年第一三三號大正二年第一三六號五年第一四九號七年第一四八號八年第一七九號九年第一四三號第一〇一年第一二二號十二年第二五四號一三年第三九一號

第一條 衆議院事務局ニ左ノ職員ヲ置ク

書記官長 一人

書記官 四人

速記士 一人

守衛長 一人

屬 十四人

速記技手 四十人

守衛副長 二人

第二條 書記官長ハ議長ノ指揮ニ依リ局中一切ノ事務ヲ監督ス

衆議院事務局官制



局中ノ分課及職員ノ配置ハ書記官長之ヲ定ム

第三條 書記官ハ書記官長ノ指揮監督ヲ承ケ 議事記録筆記印刷庶務會計警務等ニ關スル事務ヲ分掌ス

第四條 書記官長故障アルトキハ上席書記官其ノ職務ヲ代理ス

第四條ノ二 速記士ハ奏任トス上官ノ指揮監督ヲ承ケ速記ニ關スル事務ヲ掌ル

第四條ノ三 守衛長ハ奏任トス上官ノ指揮監督ヲ承ケ守衛副長以下ヲ部署シ警務ヲ掌ル

第五條 屬及速記技手ハ判任トス書記官長ノ定ムル所ニ依リ各其ノ事務ニ從フ

第六條 (削除)

第七條 守衛副長ハ判任トス守衛長ヲ助ケ守衛ヲ指揮シ守衛長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

### ○衆議院事務局ニ技手ヲ置クノ件(明治三十年勅令第四百十四號)

衆議院事務局ニ屬定員以内ニ於テ技手二人ヲ置クコトヲ得

### ○貴族院衆議院守衛定員及給與令

明治四十年勅令第六十二號  
改正四三年第二一〇號大正  
三年第四三號五年第一六〇  
號八年第一八〇號九年第三  
三一年第一〇五號一三年第三  
二年第二五號一四年第三二號  
九二號

第一條 守衛ノ定員ハ貴族院專任四十人、衆議院專任四十人トス

前項定員ノ外議會開期中ニ限り貴族院專任四十人、衆議院專任六十人ヲ増置スルコトヲ得

第二條 守衛ノ月俸ハ三十圓乃至八十圓トス

最上額ヲ受ケ二年ヲ超エ事務練熟優等ナル守衛ニハ月額十圓以内ヲ加給スルコトヲ得

(以下略)

### ○衆議院事務局分掌規程

明治三十三年三月十九日決定改正大正五  
年六月一日七年四月一二日同年一月七  
日一〇年四月七日一四年三月一四日

第一條 衆議院事務局ニ左ノ六課ヲ置ク

祕書課

議事課

衆議院事務局ニ技手ヲ置クノ件、貴族院衆議院守衛定員及給與令  
衆議院事務局分掌規程



委員課

速記課

庶務課

警務課

第二條 秘書課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 議事日程、發言通告及諸般ノ報告ニ關スル事項

二 議案類、請願書及質問書ノ受理、議決議案ノ奏上送付ニ關スル事項

三 議員ノ闕席、請暇、辭職、補闕選舉請求ニ關スル事項

四 議長指名ノ委員選定及辭職ニ關スル事項

五 議員名籍錄及議院要覽ノ編纂ニ關スル事項

六 正副議長ノ公印保管ニ關スル事項

第二條ノ二 議事課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 本會議ニ關スル事項

二 議案類ノ調査ニ關スル事項

一	議事	一	議事
二	議案	二	議案
三	議員	三	議員
四	議長	四	議長
五	議員	五	議員
六	議長	六	議長

三 議事錄ノ編製ニ關スル事項

四 先例彙纂、議事摘要及事務報告書ノ編纂ニ關スル事項

第三條 委員課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 委員會ノ會議及部會ニ關スル事項

二 委員會及部會ノ文書調製、會議錄編製ニ關スル事項

三 議事綜覽及委員會先例彙纂ノ編纂ニ關スル事項

第四條 速記課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 本會議及委員會會議ノ速記及速記録編製竝速記者養成ニ關スル事項

第五條 庶務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 職員ノ身分進退及採用試験ニ關スル事項

二 普通公文案ノ起草及調査ニ關スル事項

三 普通公文書類ノ受理ニ關スル事項

四 衆議院公報ノ編製ニ關スル事項

五 官報報告及統計ニ關スル事項



- 六 會計用度及國有財産管理ニ關スル事項
  - 七 營繕ニ關スル事項
  - 八 公文書類ノ出納保管ニ關スル事項
  - 九 内外圖書記録新聞雜誌ノ購入交換並出納保管及參考書編纂ニ關スル事項
  - 十 議案類、請願文書表、委員會速記録、衆議院公報等ノ配布ニ關スル事項
  - 十一 官印保管ニ關スル事項
  - 十二 他課ノ分掌事務ニ屬セサル事項
- 第六條 警務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 議院内部ノ警察、取締及衛生ニ關スル事項
  - 二 傍聽券及徽章ニ關スル事項
  - 三 傭人ノ採用及監督ニ關スル事項
  - 四 書類ノ接受發送及面會人ニ關スル事項

### ○圖書借覽規程

(明治三十三年十月十三日決定 改正三)  
 (八年四月二十九日、大正五年六月一日)

#### 第一章 總則

第一條 本院所管ノ圖書ハ兩院議員國務大臣政府委員及兩院判任官以上ノ職員ノ外借覽スルコトヲ得ス但シ庶務課長ノ許可ヲ得タル者ハ此ノ限ニ在ラス

#### 第二章 閱覽室

第二條 閱覽室ニ於テ圖書ヲ借覽セントスル者ハ其ノ名刺ニ書名ヲ記シ之ヲ差出スヘシ  
 前項ノ借覽者ハ第三條ノ手續ヲ爲シタル上ニ非サレハ其ノ圖書ヲ閱覽室外ニ携帯スルコトヲ得ス

#### 第三章 借覽

第三條 圖書ヲ借覽セントスル者ハ圖書借覽證用紙ニ書名冊數及番號ヲ記シ署名捺印スヘシ  
 借覽シタル圖書ハ之ヲ東京市外ニ携帯スルコトヲ得ス

第四條 各課ニ於テ常備ヲ要スル圖書アルトキハ其ノ物品取扱主任者ヲシテ借用ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第五條 圖書ノ借覽ハ一名五部ヲ超ユルコトヲ得ス

#### 圖書借覽規程(總則、閱覽室、借覽)



但シ庶務課長ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六條 圖書借覽期限ハ三十日ヲ超ユルコトヲ得ス

但シ庶務課長ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第七條 第四條ノ場合ニハ前二條ノ規定ヲ適用セス

第八條 借覽圖書ハ其ノ期限中ト雖モ必要ノ場合ニ於テハ之ヲ返納セシムルコトアルヘシ

第九條 圖書借覽者ニシテ其ノ資格ヲ失ヒタルトキハ直ニ其ノ圖書ヲ返納スヘシ

第十條 第六條ノ期限ヲ經過シ又ハ前二條ノ場合ニ返納セサルモノアルトキハ一週間内ニ返納スヘキ旨ヲ催告スヘシ

第四章 亡失及毀損

第十一條 借覽者若ハ閱覽者ニ於テ其ノ圖書ヲ亡失シ又ハ毀損シタルトキハ同一ノ圖書ヲ代納セシム若同一圖書ヲ得ル能ハサルトキハ相當ノ代價ヲ辨償セシム

第十二條 正當ノ理由ナクシテ第十條ノ催告ニ應セサル者ハ其ノ圖書ヲ亡失シタルモノト見做ス

附(改正選舉法及附屬勅令)

○衆議院議員選舉法(大正十四年法律第四十七號)

第一章 選舉ニ關スル區域

第一條 衆議院議員ハ各選舉區ニ於テ之ヲ選舉ス

選舉區及各選舉區ニ於テ選舉スヘキ議員ノ數ハ別表ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 投票區ハ市町村ノ區域ニ依ル

地方長官特別ノ事情アリト認ムルトキハ市町村ノ區域ヲ分チテ數投票區ヲ設ケ又ハ數町村ノ區域ヲ合セテ一投票區ヲ設クルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ投票區ヲ設ケタルトキハ地方長官ハ直ニ之ヲ告示スヘシ

第二項ノ規定ニ依リ設クル投票區ノ投票ニ關シ本法ノ規定ヲ適用シ難



キ事項ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得  
第三條 開票區ハ郡市ノ區域ニ依ル

地方長官特別ノ事情アリト認ムルトキハ郡市ノ區域ヲ分チテ數開票區  
ヲ設クルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ開票區ヲ設ケタルトキハ地方長官ハ直ニ之ヲ告示ス  
ヘシ

第二項ノ規定ニ依リ設クル開票區ノ開票ニ關シ本法ノ規定ヲ適用シ難  
キ事項ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第四條 行政區畫ノ變更ニ因リ選舉區ニ異動ヲ生スルモ現任議員ハ其ノ  
職ヲ失フコトナシ

第二章 選舉權及被選舉權

第五條 帝國臣民タル男子ニシテ年齡二十五年以上ノ者ハ選舉權ヲ有ス

帝國臣民タル男子ニシテ年齡三十年以上ノ者ハ被選舉權ヲ有ス

第六條 左ニ掲クル者ハ選舉權及被選舉權ヲ有セス

一 禁治產者及準禁治產者

二 破產者ニシテ復權ヲ得サル者

三 貧困ニ因リ生活ノ爲公私ノ救助ヲ受ケ又ハ扶助ヲ受クル者

四 一定ノ住居ヲ有セサル者

五 六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

六 刑法第二編第一章、第三章、第九章、第十六章乃至第二十一章、第二十

五章又ハ第三十六章乃至第三十九章ニ掲クル罪ヲ犯シ六年未滿ノ懲

役ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リ

タル後其ノ刑期ノ二倍ニ相當スル期間ヲ經過スルニ至ル迄ノ者但シ

其ノ期間五年ヨリ短キトキハ五年トス



七年 六年未滿ノ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ前號ニ掲クル罪以外ノ罪ヲ犯シ六年未滿ノ懲役ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者

第七條 華族ノ戶主ハ選舉權及被選舉權ヲ有セス  
陸海軍軍人ニシテ現役中ノ者(未タ入營セサル者及歸休下士官兵ヲ除ク)及戰時若ハ事變ニ際シ召集中ノ者ハ選舉權及被選舉權ヲ有セス  
籍ニ編入セラレタル學生生徒(勅令ヲ以テ定ムル者ヲ除ク)及志願ニ依リ國民軍ニ編入セラレタル者亦同シ  
第八條 選舉事務ニ關係アル官吏及吏員ハ其ノ關係區域内ニ於テ被選舉權ヲ有セス

第九條 在職ノ宮内官、判事、朝鮮總督府判事、臺灣總督府法院判官、關東廳法院判官、南洋廳判事、檢事、朝鮮總督府檢事、臺灣總督府法院檢察官、關

東廳法院檢察官、南洋廳檢事、陸軍法務官、海軍法務官、行政裁判所長官、行政裁判所評定官、會計検査官、收稅官吏及警察官吏ハ被選舉權ヲ有セス

第十條 官吏及待遇官吏ハ左ニ掲クル者ヲ除クノ外在職中議員ト相兼ヌ

- 一 國務大臣
- 二 內閣書記官長
- 三 法制局長官
- 四 各省政務次官
- 五 各省參與官
- 六 內閣總理大臣秘書官
- 七 各省秘書官



第十一條 北海道會議員及府縣會議員ハ衆議員議員ト相兼ヌルコトヲ得ス

第三章 選舉人名簿

第十二條 町村長ハ毎年九月十五日ノ現在ニ依リ其ノ日迄引續キ一年以上其ノ町村内ニ住居ヲ有スル者ノ選舉資格ヲ調査シ選舉人名簿二本ヲ調製シ十月十五日迄ニ之ヲ郡長ニ送付スヘシ

郡長ハ町村長ヨリ送付シタル名簿ヲ調査シ其ノ修正スヘキモノハ修正ヲ加ヘ一本ハ十月三十一日迄ニ之ヲ町村長ニ返付スヘシ

市長ハ毎年九月十五日ノ現在ニ依リ其ノ日迄引續キ一年以上其ノ市内ニ住居ヲ有スル者ノ選舉資格ヲ調査シ十月三十一日迄ニ選舉人名簿ヲ調製スヘシ

第一項又ハ前項ノ住居ニ關スル要件ヲ具備セサル選舉人ハ選舉人名簿

ニ登録セララルコトヲ得ス

選舉人名簿ニハ選舉人ノ氏名、住居及生年月日等ヲ記載スヘシ

第一項又ハ第三項ノ住居ニ關スル期間ハ行政區畫變更ノ爲中斷セララルコトナシ

第十三條 郡長及市町村長ハ十一月五日ヨリ十五日間郡市役所、町村役場又ハ其ノ指定シタル場所ニ於テ選舉人名簿ヲ縦覽ニ供スヘシ  
郡長及市町村長ハ縦覽開始ノ日ヨリ少クトモ三日前ニ縦覽ノ場所ヲ告示スヘシ

第十四條 選舉人名簿ニ脱漏又ハ誤載アリト認ムルトキハ選舉人ハ理由書及證憑ヲ具ヘ其ノ修正ヲ郡市長ニ申立ツルコトヲ得

縦覽期限ヲ經過シタルトキハ前項ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス

第十五條 郡市長ニ於テ前條ノ申立ヲ受ケタルトキハ其ノ理由及證憑ヲ



審査シ申立ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ決定スヘシ其ノ申立ヲ  
 正當ナリト決定シタルトキハ直ニ選舉人名簿ヲ修正シ其ノ旨ヲ申立人  
 及關係人ニ通知シ併セテ之ヲ告示スヘシ其ノ申立ヲ正當ナラスト決定  
 シタルトキハ其ノ旨ヲ申立人ニ通知スヘシ  
 前項ノ規定ニ依リ名簿ヲ修正シタルトキハ郡長ハ直ニ其ノ旨ヲ關係町  
 村長ニ通知スヘシ  
 前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ町村長ハ直ニ名簿ヲ修正シ其ノ旨ヲ告示  
 スヘシ  
 第十六條 前條郡市長ノ決定ニ不服アル申立人又ハ關係人ハ郡市長ヲ被  
 告トシ決定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ七日以内ニ地方裁判所ニ出訴スル  
 コトヲ得  
 前項裁判所ノ判決ニ對シテハ控訴スルコトヲ得ス但シ大審院ニ上告ス

ルコトヲ得

第十七條 選舉人名簿ハ十二月二十日ヲ以テ確定ス  
 選舉人名簿ハ次年ノ十二月十九日迄之ヲ据置クヘシ但シ確定判決ニ依  
 リ修正スヘキモノハ郡市長ニ於テ直ニ之ヲ修正シ其ノ旨ヲ告示スヘ  
 シ  
 前項ノ規定ニ依リ名簿ヲ修正シタルトキハ郡長ハ直ニ其ノ旨ヲ關係町  
 村長ニ通知スヘシ  
 前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ町村長ハ直ニ名簿ヲ修正シ其ノ旨ヲ告示  
 スヘシ  
 天災事變其ノ他ノ事故ニ因リ必要アルトキハ更ニ選舉人名簿ヲ調製ス  
 ヘシ  
 前項選舉人名簿ノ調製及其ノ期日、縦覽確定ニ關スル期日、期間等ハ命



令ノ定ムル所ニ依ル

#### 第四章 選舉、投票及投票所

第十八條 總選舉ハ議員ノ任期終リタル日ノ翌日之ヲ行フヲ例トス但シ特別ノ事情アル場合ニ於テハ議員ノ任期終リタル日ヨリ五日以内ニ之ヲ行フコトヲ妨ケス

議會開會中又ハ議會閉會ノ日ヨリ二十五日以内ニ議員ノ任期終ル場合ニ於テハ總選舉ハ議會閉會ノ日ヨリ二十六日以後三十日以内ニ之ヲ行フ

衆議院解散ヲ命セラレタル場合ニ於テハ總選舉ハ解散ノ日ヨリ三十日以内ニ之ヲ行フ

總選舉ノ期日ハ勅命ヲ以テ之ヲ定メ少クトモ二十五日前ニ之ヲ公布ス第十九條 選舉ハ投票ニ依リ之ヲ行フ

投票ハ一人一票ニ限ル

第二十條 市町村長ハ投票管理者ト爲リ投票ニ關スル事務ヲ擔任ス第二十一條 投票所ハ市役所、町村役場又ハ投票管理者ノ指定シタル場所ニ之ヲ設ク

第二十二條 投票管理者ハ選舉ノ期日ヨリ少クトモ五日前ニ投票所ヲ告示スヘシ

第二十三條 投票所ハ午前七時ニ開キ午後六時ニ閉ツ

第二十四條 議員候補者ハ各投票區ニ於ケル選舉人名簿ニ記載セラレタル者ノ中ヨリ本人ノ承諾ヲ得テ投票立會人一人ヲ定メ選舉ノ期日ノ前日迄ニ投票管理者ニ届出ツルコトヲ得但シ議員候補者死亡シ又ハ議員候補者タルコトヲ辭シタルトキハ其ノ届出テタル投票立會人ハ其ノ職ヲ失フ



前項ノ規定ニ依ル投票立會人三人ニ達セサルトキ若ハ三人ニ達セサルニ至リタルトキ又ハ投票立會人ニシテ參會スル者投票所ヲ開クヘキ時刻ニ至リ三人ニ達セサルトキ若ハ其ノ後三人ニ達セサルニ至リタルトキハ投票管理者ハ其ノ投票區ニ於ケル選舉人名簿ニ記載セラレタル者ノ中ヨリ三人ニ達スル迄ノ投票立會人ヲ選任シ直ニ之ヲ本人ニ通知シ投票ニ立會ハシムヘシ

投票立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ス

第二十五條 選舉人ハ選舉ノ當日自ラ投票所ニ到リ選舉人名簿ノ對照ヲ經テ投票ヲ爲スヘシ

投票管理者ハ投票ヲ爲サムトスル選舉人ノ本人ナリヤ否ヤヲ確認スルコト能ハサルトキハ其ノ本人ナル旨ヲ宣言セシムヘシ其ノ宣言ヲ爲ササル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス

第二十六條 投票用紙ハ選舉ノ當日投票所ニ於テ之ヲ選舉人ニ交付スヘシ

第二十七條 選舉人ハ投票所ニ於テ投票用紙ニ自ラ議員候補者一人ノ氏名ヲ記載シテ投函スヘシ

投票用紙ニハ選舉人ノ氏名ヲ記載スルコトヲ得ス

第二十八條 投票ニ關スル記載ニ付テハ勅令ヲ以テ定ムル點字ハ之ヲ文字ト看做ス

第二十九條 選舉人名簿ニ登録セラレサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス但シ選舉人名簿ニ登録セラレヘキ確定判決書ヲ所持シ選舉ノ當日投票所ニ到ル者アルトキハ投票管理者ハ之ヲシテ投票ヲ爲サシムヘシ

第三十條 選舉人名簿ニ登録セラレタル者選舉人名簿ニ登録セラレルコトヲ得サル者ナルトキハ投票ヲ爲スコトヲ得ス選舉ノ當日選舉權ヲ有



セサル者ナルトキ亦同シ  
自ラ議員候補者ノ氏名ヲ書スルコト能ハサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得  
ス

第三十一條 投票ノ拒否ハ投票立會人ノ意見ヲ聽キ投票管理者之ヲ決定  
スヘシ

前項ノ決定ヲ受ケタル選舉人不服アルトキハ投票管理者ハ假ニ投票ヲ  
爲サシムヘシ

前項ノ投票ハ選舉人ヲシテ之ヲ封筒ニ入レ封緘シ表面ニ自ラ其ノ氏名  
ヲ記載シ投函セシムヘシ

投票立會人ニ於テ異議アル選舉人ニ對シテモ亦前二項ニ同シ  
第三十二條 投票所ヲ閉ツヘキ時刻ニ至リタルトキハ投票管理者ハ其ノ  
旨ヲ告ケテ投票所ノ入口ヲ鎖シ投票所ニ在ル選舉人ノ投票結了スルヲ

待チテ投票函ヲ閉鎖スヘシ

投票函閉鎖後ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス

第三十三條 選舉人ニシテ勅令ノ定ムル事由ニ因リ選舉ノ當日自ラ投票  
所ニ到リ投票ヲ爲シ能ハサルヘキコトヲ證スル者ノ投票ニ關シテハ第  
二十五條、第二十六條、第二十七條第一項、第二十九條但書及第三十一條  
ノ規定ニ拘ラス勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第三十四條 投票管理者ハ投票録ヲ作り投票ニ關スル顛末ヲ記載シ投票  
立會人ト共ニ之ニ署名スヘシ

第三十五條 投票管理者ハ一人又ハ數人ノ投票立會人ト共ニ町村ノ投票  
區ニ於テハ投票ノ翌日迄ニ、市ノ投票區ニ於テハ投票ノ當日投票函、投  
票録及選舉人名簿ヲ開票管理者ニ送致スヘシ

第三十六條 島嶼其ノ他交通不便ノ地ニシテ前條ノ期日ニ投票函ヲ送致